

男女共同参画に関する市民意識調査

《 報告書 》

平成19年9月

津 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 調査の精度.....	3
4. 回答者の属性.....	4
II 調査結果の概要	7
III 調査結果の分析	10
1. 男女共同参画全般について.....	10
2. 普段の生活について.....	22
3. 労働について.....	25
4. 子育て・教育について.....	32
5. 介護について.....	36
6. 地域活動・家庭生活への参画について.....	40
7. 政策・方針決定の場への参画について.....	49
8. ドメスティック・バイオレンスについて.....	52
9. セクシュアル・ハラスメントについて.....	58
10. 心配なことや生きがいについて.....	64
11. 行政の取り組みについて.....	72
IV 調査票	81

I 調査の概要

1. 調査の目的

津市においては、平成19年3月29日に男女共同参画都市宣言を行い、同月30日に「津市男女共同参画推進条例」を施行、男女が支え合い、いきいきと暮らせるまち「津」をめざして、施策を推進しています。

今回、市民の男女共同参画に対する意識や行動の実態、ニーズを把握し、男女共同参画に関する施策の推進及び男女共同参画基本計画策定のための基礎資料とすることを目的として、本調査を実施しました。

2. 調査の概要

1) 調査項目

本調査は以下の12の分野にわたって、42の設問からなっています。

- (1) 男女共同参画全般について
- (2) 普段の生活について
- (3) 労働について
- (4) 子育て・教育について
- (5) 介護について
- (6) 地域活動・家庭生活への参画について
- (7) 政策・方針決定の場への参画について
- (8) ドメスティック・バイオレンスについて
- (9) セクシュアル・ハラスメントについて
- (10) 心配なことや生きがいについて
- (11) 行政の取り組みについて
- (12) ご自身のことについて（回答者の属性について）

2) 調査の方法

- (1) 調査地域 津市全域
- (2) 調査対象 津市在住の満20歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 津市住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送による発送・回収
- (6) 調査期間 平成19年7月6日～7月31日
- (7) 実施機関 津市市民部男女共同参画室

3) 調査票の回収状況

- (1) 配布数 3,000 人 (男性 1,500 人、女性 1,500 人)
- (2) 回収数 1,231 人 (回収率 41.0%)
- (3) 有効回答数 全体 1,226 人 (有効回答率 40.9%)
 - 内訳 {
 - 女性 679 人
 - 男性 520 人
 - 性別無回答 27 人
- (4) 無効回答数 5 人

4) 調査データの表示

- (1) n は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す算出の基礎となります。
- (2) 結果数値 (%) は小数点第 2 位を四捨五入してありますので、内訳の合計が 100% ちょうどにならないことがあります。
- (3) 一回答者が 2 つ以上の回答をすることが出来る質問 (複数回答) は、回答数の合計を回答者数 (n) で割った比率であり、すべての比率を合計すると、通常その値は 100%を超えます。

◆参考・・・本調査報告書で引用した過去の調査

調査名	調査年月	標本数	有効回収数 (%)	本報告書での表現
人権問題に関する市民意識調査 (津市)	平成 12 年 5 月	津市 16 歳以上の男女 3,000 人	1,788 人 (60.1%)	前々回調査 (旧津市・平成 12 年)
男女共同参画に関する市民意識調査 (津市)	平成 14 年 9 月	津市 20 歳以上の男女 2,000 人	1,041 人 (52.1%)	前回調査 (旧津市・平成 14 年)
男女共同参画に関する県民意識と生活実態調査 (三重県)	平成 12 年 12 月	三重県 20 歳以上の男女 5,000 人	2,320 人 (46.4%)	三重県の調査 (平成 12 年)
男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査 (三重県)	平成 16 年 2 月	三重県 20 歳以上の男女 5,000 人	2,112 人 (42.2%)	三重県の調査 (平成 16 年)
男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査 (三重県)	平成 18 年 2 月	三重県 20 歳以上の男女 5,000 人	2,615 人 (52.3%)	三重県の調査 (平成 18 年)
男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府)	平成 12 年 2 月	全国 20 歳以上の男女 5,000 人	3,378 人 (67.6%)	国の調査 (平成 12 年)
男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府)	平成 14 年 7 月	全国 20 歳以上の男女 5,000 人	3,561 人 (71.2%)	国の調査 (平成 16 年)
男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府)	平成 16 年 11 月	全国 20 歳以上の男女 5,000 人	3,502 人 (70.0%)	国の調査 (平成 18 年)

3. 調査の精度

本調査は抽出調査であるため、調査結果から母集団（20歳以上の全津市民）の意向を推定する必要があります。

調査結果の信頼度95%レベルにおける信頼区間を主な%について求めると、下表のとおりとなります。この表から、例えば本調査のある回答選択肢に対して50%の人が回答している場合、信頼区間の1/2幅が2.8%であるので、100回調査すると95回までは47.2%～52.8%の間の回答が得られるということです。

信頼区間の幅が最も大きい場合でも±2.8%にすぎないので、母集団の意向を把握する場合の精度は高いといえます。

○信頼度95%における標本測定値（%）の信頼区間の1/2幅を求める公式

$$2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団（20歳以上の市民230,420人）※

n：標本数（1,226人）

P：標本測定値（%）

※平成19年7月1日現在の津市住民基本台帳人口（20歳以上）

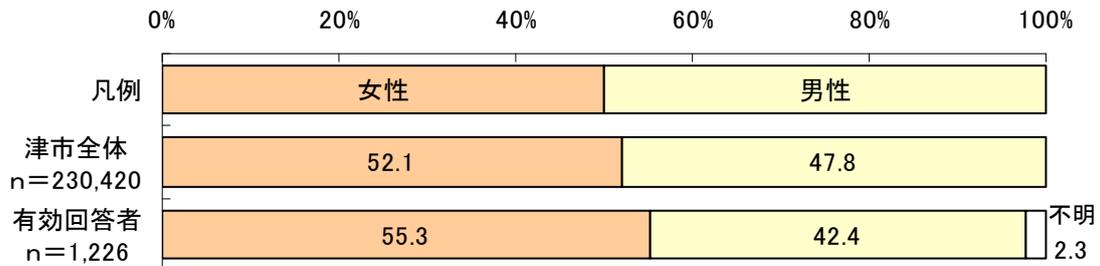
○信頼度95%における標本測定値（%）の信頼区間の1/2幅

標本測定値（%）	信頼区間の1/2幅
50%	2.8%
60% 40%	2.7%
70% 30%	2.6%
80% 20%	2.2%
90% 10%	1.7%

4. 回答者の属性

(1) 性別

有効回答者の性別構成比は、女性 55.3%、男性 42.4%でした。これは津市全体（平成 19 年 7 月 1 日現在の津市住民基本台帳人口より）の構成比と比べて、女性がやや高くなっています。



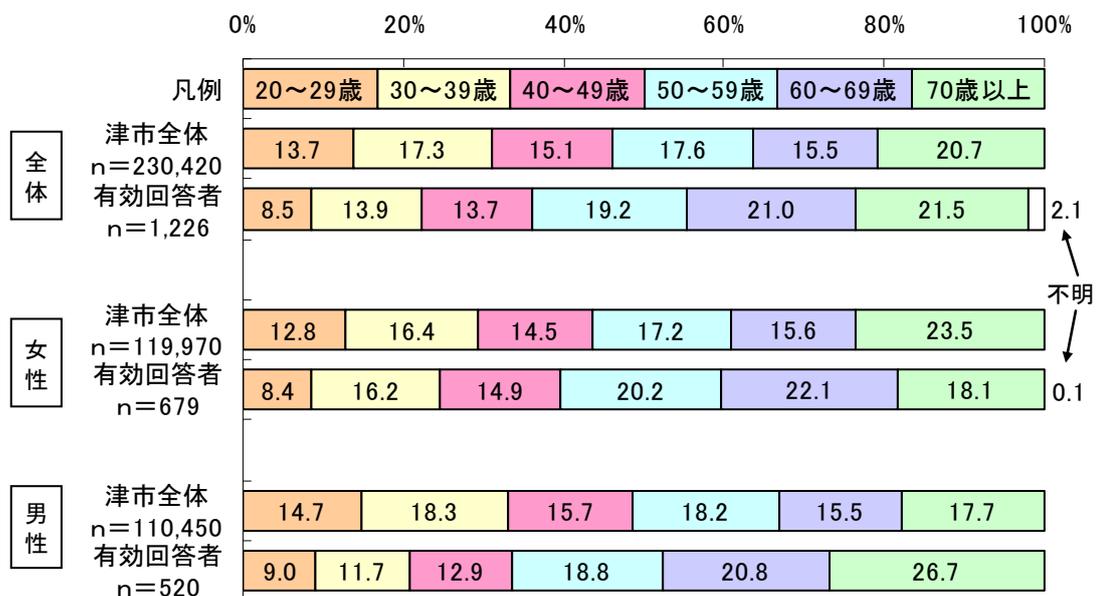
注：津市全体は、平成 19 年 7 月 1 日現在の津市住民基本台帳人口（20 歳以上）

(2) 年齢層

有効回答者の年齢別構成比を津市全体と比較すると、両者の差が大きいのは、全体では 20～29 歳（有効回答者－5.2 ポイント）、60～69 歳（同＋5.5 ポイント）です。

性別にみると、女性の 70 歳以上（同－5.4 ポイント）、20～29 歳（同－4.4 ポイント）、男性の 30～39 歳（同－6.6 ポイント）、20～29 歳（同－5.7 ポイント）、男性の 70 歳以上（同＋9.0 ポイント）、60～69 歳以上（同＋5.3 ポイント）で差が大きくなっています。

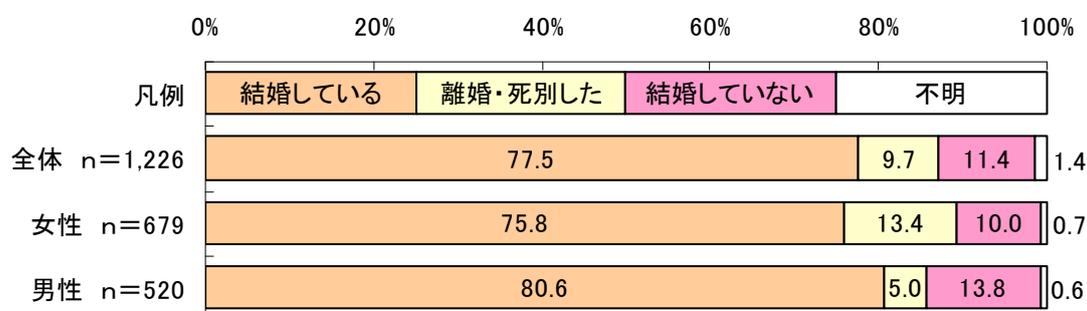
したがって、本調査結果では、特に男性において 20 歳代、30 歳代の実態や意識の反映がやや少なく、60 歳以上ではやや多くなっていることを考慮する必要があります。



注：津市全体は、平成 19 年 7 月 1 日現在の津市住民基本台帳人口（20 歳以上）

(3) 婚姻状況

「結婚している」は女性75.8%、男性80.6%、「結婚したが、離婚・死別した」は女性13.4%、男性5.0%と、女性で離婚・死別した人がやや高くなっています。また「結婚していない」は女性10.0%、男性13.8%となっています。

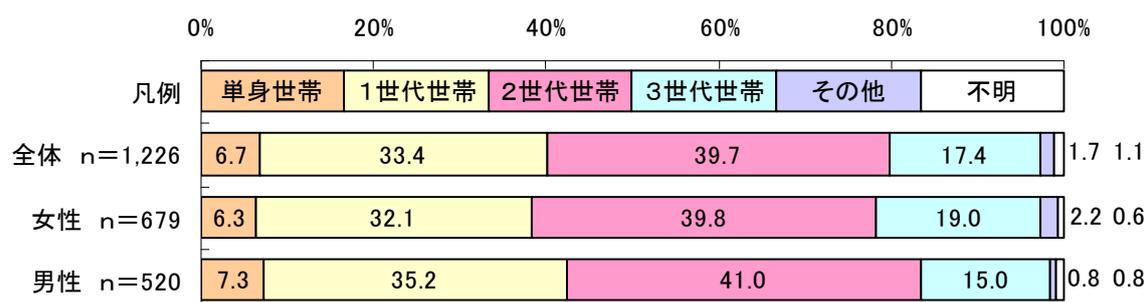


注：離婚・死別した = (結婚したが、離別した) + (結婚したが、死別した)

(4) 家族構成

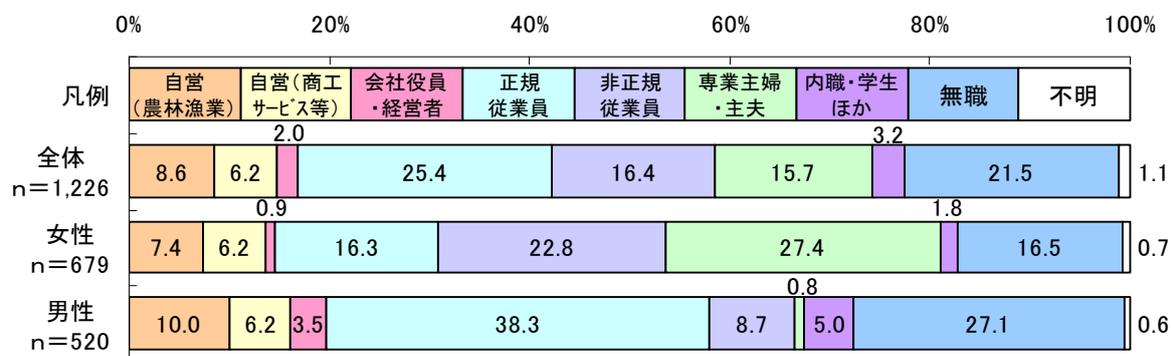
全体では「2世代世帯」が39.7%と最も高く、次いで「1世代世帯」(33.4%)、「3世代世帯」(17.4%)の順となっています。

性別にみると、女性は男性に比べ「3世代世帯」の構成がやや高い一方で、「単身世帯」「1世代世帯」「2世代世帯」の構成は、男性が女性をやや上回っています。



(5) 職業

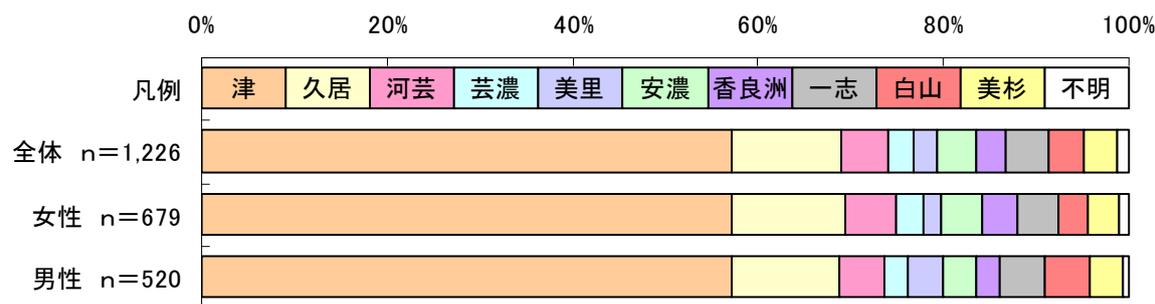
女性は「専業主婦・主夫」(27.4%)が最も高く、次いで「非正規従業員」(22.8%)、「無職」(16.5%)、「正規従業員」(16.3%)の順となっています。男性は「正規従業員」が38.3%と4割近くを占め、次いで「無職」(27.1%)、「自営(農林漁業)」(10.0%)の順となっています。



注：自営(農林漁業)＝農業・林業・漁業の、自営業主・家族従業者
 自営(商工サービス等)＝商工業・サービス業・その他の、自営業主・家族従業者
 非正規従業員＝非正規従業員(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員など)
 内職・学生ほか＝(内職)＋(学生)＋(その他)

(6) 居住地域(旧市町村を基準とした地域)

男女とも「津地域」「久居地域」「河芸地域」の順に多く、特に「津地域」では女性57.1%、男性57.3%と半数以上を占めています。



(%)

	該当人数(人)	津	久居	河芸	芸濃	美里	安濃	香良洲	一志	白山	美杉	不明
全体	1,226	57.2	11.8	5.1	2.8	2.6	4.1	3.3	4.6	3.8	3.6	1.2
女性	679	57.1	12.4	5.3	3.1	1.9	4.3	3.8	4.6	3.1	3.4	1.0
男性	520	57.3	11.5	5.0	2.5	3.7	3.7	2.5	4.8	4.8	3.7	0.6

Ⅱ 調査結果の概要

1. 男女共同参画全般について

「セクシュアル・ハラスメント」「男女雇用機会均等法」「ドメスティック・バイオレンス(DV)防止法」という言葉については、広く知られています。

性別役割分担意識については肯定派が47.3%と、否定派37.0%を大きく上回る一方で、ポジティブ・アクションについては肯定派が55.4%と、否定派18.3%を大きく上回っています。

男女平等の進捗率（「平等になっている」と回答した割合）は、「地域社会」「家庭生活」で男女の認識の差が大きく、女性が男性をそれぞれ15.3ポイント、14.5ポイント下回っています。

2. 普段の生活について

「洗濯、掃除」「食事の支度・片付け」「日常の家計の管理」など普段の生活のほとんどすべての項目を「主に女性」が分担していますが、「家計を支える」「自治会・町内会などの地域活動」は「主に男性」が分担しています。「子どもの教育方針や進路の決定」については、「男性も女性も同程度する」が25.7%と最も高くなっています。

3. 労働について

女性が仕事をもつことについては、「女性は子育てを優先しつつ働くのが望ましい」(47.5%)と考える人が多くなっています。女性が仕事を維持するために必要なこととしては、「家族の理解や協力」(73.9%)をあげる人が圧倒的に多く、次いで「保育・介護・福祉に関するサービスの充実」(38.3%)、「育児・介護休業制度の整備」(34.5%)となっています。農林漁業自営・家族従業者の場合、労働時間の管理が困難です。

4. 子育て・教育について

安心して子どもを産み育てることができる社会の実現のために特に必要なことは、「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」(51.5%)をあげる人が最も多くなっています。男性は経済的な支援を、女性は支援体制・環境の充実を重視しています。

教育現場において男女共同参画についての教育を進める場合、特に必要なことは、「男女が、お互いに協力しあうことの大切さを学ぶこと」が57.2%と顕著に高くなっています。

5. 介護について

日常的に介護が必要な人の介護者として、「配偶者」(27.5%)、「老人ホームなどの施設」(17.1%)が高くなっているほか、「母」(13.8%)、「娘」(13.3%)、「息子の妻」(11.7%)と女性が介護を担う割合が高くなっています。一方、介護を誰が担うべきかについては「男性も女性も共に介護するべきである」との考えが、女性73.2%、男性65.4%と特に高くなっており、その意識と現状に差があることがうかがえます。また、「男女にかかわらず、主に子どもが介護すべきである」「原則として社会が行うべきである」は、男性が女性に比べて高くなっています。

6. 地域活動・家庭生活への参画について

◆社会活動への参加

何らかの活動をしている人は女性が55.5%、男性が53.0%、活動をしていない人は女性が42.4%、男性が45.8%となっています。活動内容では、「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動」「趣味やスポーツに関する活動」が上位2項目となっています。一方、社会活動に参加していない理由としては、「特に理由はない」「仕事が忙しいから」が高くなっています。

◆男性の地域活動、家庭生活への参画

「男性はもっと地域活動や家庭活動に参加する必要がある」という考え方について、「そう思う」は、女性66.9%、男性56.0%と女性の方が男性に比べ、男性の地域活動、家庭生活への参加を求める人の割合が高くなっています。また、男性の地域活動や家庭活動への参画を進めるために必要なことでは、「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっています。

7. 政策・方針決定の場への参画について

自治会長やPTA会長などの役職に、女性は自分自身が、男性は妻などの身近な女性が推薦された場合の対応については、「断る、または、断ることをすすめる」が女性61.6%、男性48.1%と、女性の方が断るとの回答割合が高く、その理由として、「家事、育児、介護に支障が出るから」「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」が高くなっています。

8. ドメスティック・バイオレンスについて

◆被害経験の有無

11項目の暴力のうち、1項目でも「被害経験あり」と答えた人の割合をみると、女性46.8%、男性32.5%となっており、女性は5割近くが、また男性でも約3割が暴力を受けた経験があると答えています。

暴力の種類別にみると、女性は「身体的暴力」(28.1%)、「精神的暴力」(25.8%)、男性は「精神的暴力」(21.5%)、「身体的暴力」(16.7%)の順となっています。また、暴力の内容別では、女性が「ものを投げつけたり、叩いたりする」(25.3%)、「何を言っても無視する」(25.2%)がほぼ同程度で高く、男性は「何を言っても無視する」(21.3%)、「ものを投げつけたり、叩いたりする」(14.4%)の順となっています。

◆相談の状況

被害経験のある人のうち、「相談したことがある」は女性37.9%、男性27.4%、「どこにも誰にも相談しなかった」は女性57.1%、男性63.8%と男性の方が相談しない傾向がうかがえます。「相談したことがある」の内訳では、女性が「友人、知人」(25.6%)、男性は「家族」(16.3%)が最も高く、身近な人への相談が多くなっています。また相談しなかった理由としては、「相談するほどのことでもないと思ったから」(女性60.7%、男性76.5%)が最も高く、次いで女性は「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」(28.7%)、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」(41.2%)となっています。

9. セクシュアル・ハラスメントについて

◆被害経験の有無

7項目のうち1項目でも「被害経験あり」と答えた人の割合をみると、女性47.6%、男性22.5%となっています。特に30歳代の女性で75.5%と高く、50歳代以下の女性では50%以上、男性では30歳代、40歳代で40%以上が「被害経験あり」と答えています。また、被害の種類別では、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」「容姿をたびたび話題にされた」「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」とプライバシーを詮索された」が全般に高くなっています。

◆相談の状況

被害経験のある人のうち、「相談したことがある」は女性40.0%、男性25.6%、「どこにも誰にも相談しなかった」が女性55.4%、男性66.7%となり、男性の方が女性に比べ相談しない傾向がうかがえます。相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」が上位2項目となっています。

10. 心配なことや生きがいについて

◆心配なことについて

「家族の健康のこと」「自分の健康のこと」「将来、老後のこと」が特に高くなっています。そのことについて相談したことがあるかについては、「はい」は女性46.7%、男性33.5%、「いいえ」は女性43.3%、男性56.0%となっており、男性は女性に比べ、相談しない傾向がうかがえます。また、相談していない理由では、「相談するほどのことではないから」が過半数を超えています。次いで「家族などに心配をかけられないから」「相談する人がいないから」となっています。

◆生きがいについて

「スポーツや趣味」(女性44.2%、男性54.2%)が最も高く、次いで「家族と過ごすこと」(女性43.7%、男性44.8%)となっています。50歳代、70歳以上で「特にない」が他の年齢層に比べやや高く、また30歳代から50歳代の男性で「仕事」がやや高くなっているのが特徴です。

11. 行政の取り組みについて

「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」(女性59.4%、男性50.6%)が最も高くなっています。次いで男性は「施策や制度の面で見直しを行う」「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」、女性は「学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する」「施策や制度の面で見直しを行う」となっています。

Ⅲ 調査結果の分析

1. 男女共同参画全般について

【問1】あなたは次の言葉を知っていますか。

男女共同参画に関する用語の認知率（『知っている』と『聞いたことがある』の合計の割合）をみると、「セクシュアル・ハラスメント」（85.3%）、「男女雇用機会均等法」（84.1%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法」（79.9%）が高い一方で、「家族経営協定」（21.9%）、「津市男女共同参画推進条例」（28.3%）、「ポジティブ・アクション」（33.2%）、「固定的性別役割分担」（34.3%）で低くなっています。

【性別】

男女とも「男女雇用機会均等法」「ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法」「セクシュアル・ハラスメント」の認知率が高く、「セクシュアル・ハラスメント」「男女雇用機会均等法」「男女共同参画」については、男性の認知率が女性を上回っています。

【年齢別】

「ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法」「セクシュアル・ハラスメント」については20歳代～40歳代で高く、50歳代以上では年齢層が上がるにつれて認知率は低下しています。一方、「津市男女共同参画推進条例」は50歳代以上で認知率がやや高くなっています。

「家族経営協定」はすべての年齢層で認知率が低いですが、特に30歳代で11.7%、40歳代で12.5%と低くなっています。

「ポジティブ・アクション」は50歳代で43.8%と、他の年齢層に比べ高くなっています。

【未既婚別】

「セクシュアル・ハラスメント」「男女雇用機会均等法」「ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法」については、未婚者（「結婚していない」人）の認知率が、既婚者（「結婚している」人や「離婚・死別した」人）に比べ高くなっています。

【職業別】

「男女共同参画」「固定的性別役割分担」「ポジティブ・アクション」の認知率は、「専業主婦・主夫」で高く、「セクシュアル・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法」「男女雇用機会均等法」は正規従業員で高くなっています。

「ポジティブ・アクション」の認知率は、会社役員・経営者で最も低く、25.0%です。

「家族経営協定」「津市男女共同参画推進条例」の認知率は全般に低く、比較的高い農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者でも、「家族経営協定」は33.3%、「津市男女共同参画推進条例」は35.3%に過ぎません。

表1 男女共同参画に関する用語の認知率

(%)

		該当者数 (人)	男女共同参画	津市男女共同 参画推進条例	固定的性別 役割分担	男女雇用機会 均等法	DV防止法	セクシュアル・ ハラースメント	家族経営協定	ポジティブ・ アクション
全体		1,226	66.6	28.3	34.3	84.1	79.9	85.3	21.9	33.2
性	女性	679	66.1	30.3	36.7	82.3	81.6	85.0	22.8	35.1
	男性	520	68.1	25.6	31.9	87.5	79.8	87.9	20.6	31.7
年齢	20歳代	104	60.6	20.2	33.7	90.4	92.3	95.2	22.1	30.8
	30歳代	171	67.3	25.1	25.1	91.2	93.0	97.1	11.7	30.4
	40歳代	168	69.6	20.8	29.8	93.5	91.7	95.2	12.5	32.7
	50歳代	235	71.1	30.2	38.7	92.8	89.8	94.0	25.1	43.8
	60歳代	258	67.4	32.6	39.5	80.2	76.7	82.9	26.7	33.3
	70歳以上	264	63.6	32.2	35.6	68.9	56.8	65.9	26.1	28.4
未既婚	結婚している	950	69.1	28.7	35.5	85.6	80.8	86.7	22.7	33.9
	離婚・死別した	119	58.0	32.8	29.4	68.1	70.6	71.4	21.8	34.5
	結婚していない	140	60.0	22.1	32.1	90.0	86.4	92.1	17.9	30.0
職業別	自営(農林漁業)	105	58.1	35.3	31.5	66.7	62.0	62.8	33.3	27.6
	自営(商工サービス等)	76	57.9	26.3	31.5	86.9	82.9	85.6	21.0	29.0
	会社役員・経営者	24	70.9	20.9	25.0	83.4	79.2	95.8	8.3	25.0
	正規従業員	312	69.8	25.4	32.0	93.3	91.4	95.8	16.7	35.6
	非正規従業員	201	59.7	25.4	32.9	85.6	87.5	92.1	17.9	32.9
	専業主婦・主夫	192	77.1	31.8	41.2	85.4	83.9	88.6	24.4	40.1
	内職・学生ほか	39	69.2	28.2	43.6	92.3	87.2	92.3	23.1	43.6
	無職	263	65.4	30.0	34.6	76.8	64.3	73.4	26.7	28.9
地域	津	701	69.5	29.1	35.2	87.6	83.0	87.9	20.4	34.4
	久居	145	60.7	25.5	37.2	81.4	83.0	82.1	19.3	28.3
	河芸	62	61.3	21.0	21.0	87.6	85.5	88.7	17.7	32.3
	芸濃	34	55.9	35.3	35.3	70.6	70.6	73.5	26.5	32.4
	美里	32	65.6	28.1	31.3	75.0	71.9	78.1	31.3	31.3
	安濃	50	62.0	22.0	32.0	82.0	88.0	92.0	28.0	32.0
	香良洲	40	72.5	30.0	22.5	70.0	72.5	80.0	27.5	32.5
	一志	56	71.4	28.6	39.3	87.5	83.0	85.7	28.6	33.9
	白山	47	61.7	36.2	36.2	80.9	83.0	78.7	29.8	38.3
	美杉	44	56.8	25.0	31.8	70.5	63.6	72.7	25.0	31.8

注1:「認知率」は、「知っている」と「聞いたことがある」の合計

注2: は80%以上、 は20%未満

図1-1 男女共同参画に関する用語の認知率

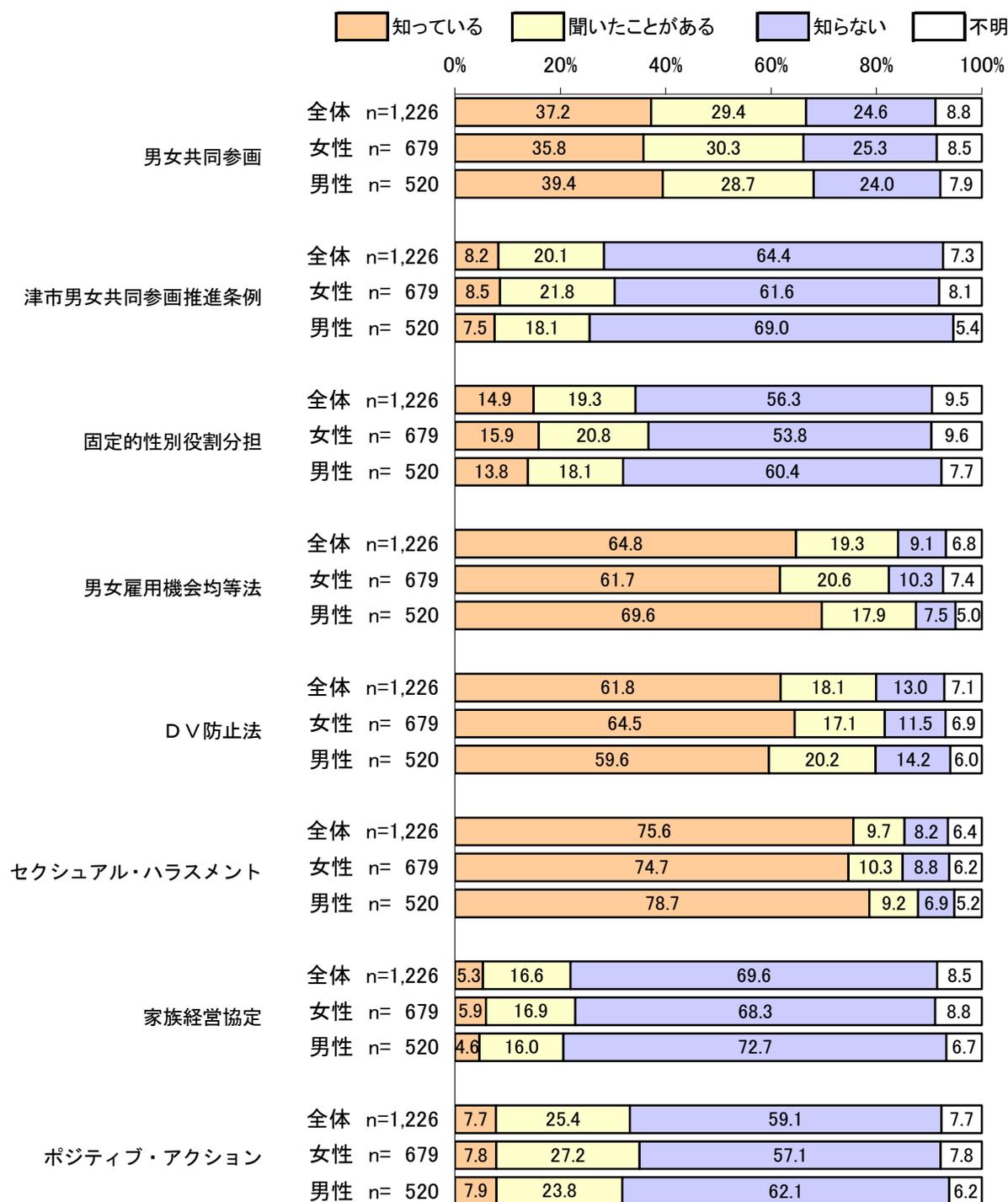
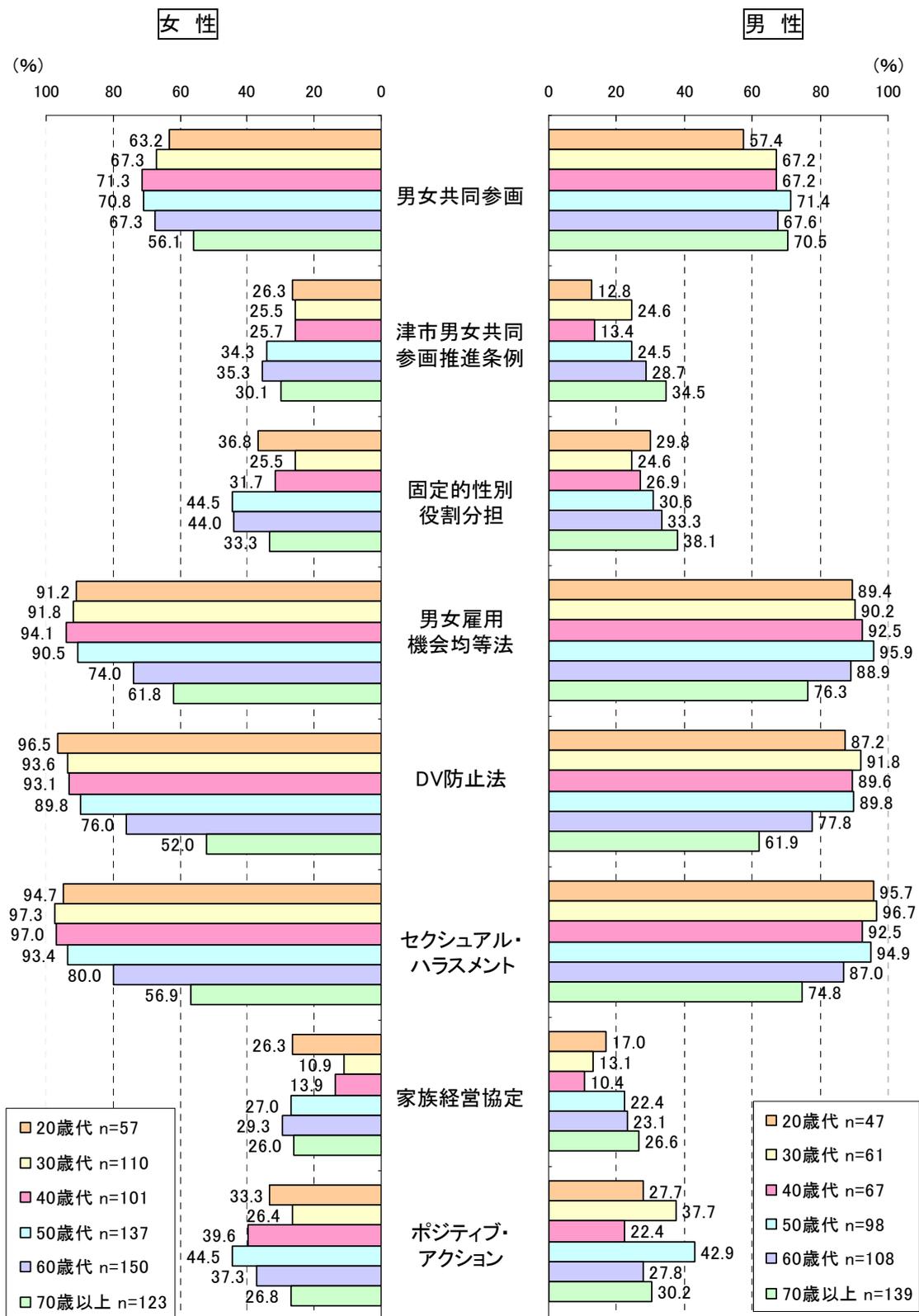


図1-2 男女共同参画に関する用語の認知率－性・年齢別



注：「認知率」は、「知っている」と「聞いたことがある」の合計

【問2】あなたは次の各分野で、男女は平等になっていると思いますか。（○はそれぞれ1つ）

男女平等の進捗率（「平等になっている」と回答した割合）をみると、「学校生活」は53.2%と高いですが、「家庭生活」で21.6%、それ以外のすべての分野は20%を下回っています。

なかでも「社会通念・慣習・しきたり」の進捗率は7.4%と低く、前回調査（旧津市・平成14年）の4.5%に比べてもあまり進捗がみられないことから、不平等感が根強い分野といえます。また国（内閣府）の調査（平成16年）の同じ設問の17.2%（本市が該当する中都市では17.9%。中都市：内閣府の調査上の分類で、人口10万人以上で大都市（東京都区部、政令指定都市）でないもの）、三重県の調査（平成18年）の類似の設問の13.6%に比べても、本市の進捗率は低くなっています。

「家庭生活」の進捗率21.6%も、国の39.9%（本市が該当する人口10万人以上の中都市では39.3%）、県の32.5%に比べても、低くなっています。

【性別】

すべての分野において女性の進捗率が男性よりも低く、女性の方が不平等感を強く感じています。なかでも「社会通念・慣習・しきたり」の女性の進捗率は4.6%と、極めて低くなっています。男女の認識の差が大きいのは「地域社会」「家庭生活」で、女性の進捗率が男性をそれぞれ15.3ポイント、14.5ポイント下回っています。

「学校生活」は男女とも進捗率が50%を超え、女性は男性を2.8ポイント下回るだけとなっており、他の分野に比べて不平等感や男女の認識の差が小さいといえます。

【年齢別】

「学校生活」の進捗率は、20～40歳代までは60%以上と高いのに対し、50歳代以上は40%台となっています。「社会通念・慣習・しきたり」は20歳代のみ14.4%となっていますが、他のすべての年齢層で1ケタ台後半と、低くなっています。

「家庭生活」の進捗率は20歳代と70歳以上で高く、30～60歳代で低くなっています。なかでも50歳代は15.3%と、最も低くなっています。

「地域社会」も50歳代が10.6%と低くなっており、総じて50歳代は他の年齢層に比べ、不平等感が強い傾向がみられます。

また40歳代は、学校生活以外のすべての項目で、男女間で平等感に大きな差があります。

【未既婚別】

すべての分野で既婚者の進捗率が未婚者を下回っています。

【職業別】

「職場」での進捗率は、正規従業員は26.6%と高いですが、専業主婦・主夫10.9%、無職11.4%、農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者13.3%、非正規従業員16.9%で低くなっています。

「家庭生活」での進捗率は、会社役員・経営者12.5%に次いで専業主婦・主夫16.1%、非正規従業員17.4%で低く、商工業・サービス業・その他の自営業主・家族従業者は31.6%と他の職業に比べると高くなっています。

表2 各分野における男女平等の進捗率

(%)

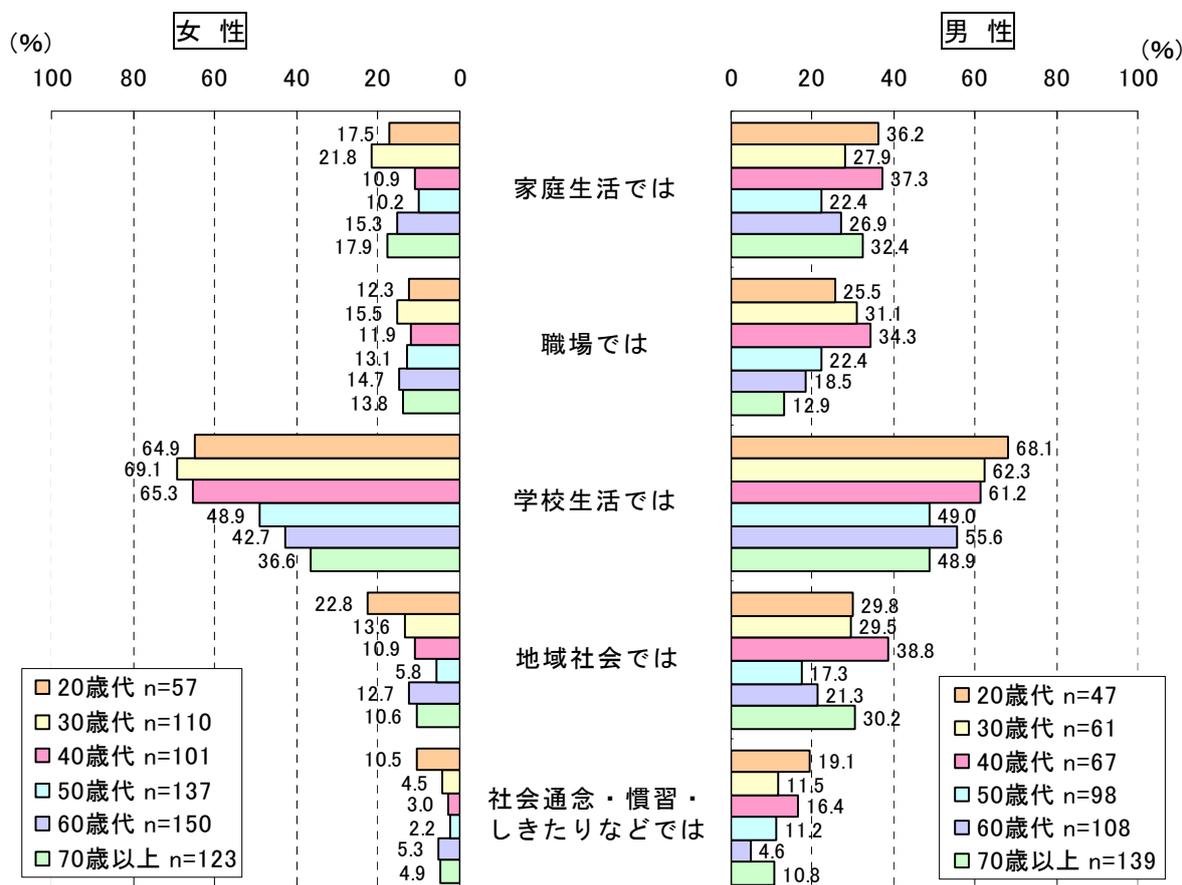
		該当者数 (人)	家庭生活 では	職場では	学校生活 では	地域社会 では	社会通念・慣習・ しきたりなどでは
全体		1,226	21.6	17.1	53.2	18.4	7.4
性	女性	679	15.3	13.7	52.4	11.6	4.6
	男性	520	29.8	21.9	55.2	26.9	11.2
年齢	20歳代	104	26.0	18.3	66.3	26.0	14.4
	30歳代	171	24.0	21.1	66.7	19.3	7.0
	40歳代	168	21.4	20.8	63.7	22.0	8.3
	50歳代	235	15.3	17.0	48.9	10.6	6.0
	60歳代	258	20.2	16.3	48.1	16.3	5.0
	70歳以上	264	25.4	13.6	42.8	21.2	8.0
未既婚	結婚している	950	21.2	16.8	53.5	18.0	6.7
	離婚・死別した	119	18.5	16.8	45.4	15.1	5.9
	結婚していない	140	27.9	20.0	61.4	22.9	13.6
職業	自営(農林漁業)	105	18.1	13.3	48.6	14.3	5.7
	自営(商工サービス等)	76	31.6	18.4	50.0	23.7	13.2
	会社役員・経営者	24	12.5	16.7	66.7	12.5	8.3
	正規従業員	312	24.4	26.6	59.3	19.6	9.6
	非正規従業員	201	17.4	16.9	58.2	17.4	7.0
	専業主婦・主夫	192	16.1	10.9	50.0	12.5	2.6
	内職・学生ほか	39	28.2	17.9	53.8	30.8	12.8
	無職	263	24.0	11.4	46.8	20.9	6.8
地域	津	701	25.0	17.0	54.5	19.4	8.4
	久居	145	15.9	15.9	51.7	22.1	6.9
	河芸	62	14.5	16.1	51.6	12.9	4.8
	芸濃	34	17.6	14.7	47.1	14.7	2.9
	美里	32	21.9	15.6	50.0	9.4	3.1
	安濃	50	10.0	16.0	52.0	18.0	6.0
	香良洲	40	15.0	20.0	60.0	15.0	2.5
	一志	56	8.9	16.1	53.6	19.6	7.1
	白山	47	23.4	27.7	44.7	12.8	8.5
	美杉	44	29.5	22.7	52.3	18.2	9.1

注1:「進捗率」は、「平等になっている」と答えた人の割合

注2: は進捗率が50%以上

図2 各分野における男女平等の進捗率—性・年齢別

注:進捗率は「平等になっている」と答えた人の割合



【問3】「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、その理由も記入してください。
(○は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方は、性別により固定的に役割を決める考え方です。

今回の調査では、この性別役割分担意識についての肯定派（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が47.3%と、否定派（「どちらかといえば反対」と「反対」の合計）の37.0%を、大きく上回っています。

これは三重県の調査（平成18年）での同じ設問において否定派が47.3%と、肯定派46.3%を上回り、また国の調査（平成16年）における類似の設問でも否定派が48.9%と、肯定派45.2%を上回っているのと対照的です。

前回調査（旧津市・平成14年）では、肯定派が28.5%、否定派が65.6%で、「国や県に比べても否定派が多く」、「本市は全国的にみても三重県下でみても性別役割分担意識にとらわれない人が多い地域と考えられます」と分析されていました。質問の表現は違いますが、今回の方が、性別役割分担意識を支持する人の割合が高くなっています。国や三重県と比べても本市は性別役割分担意識を支持する人の割合が高いと考えられます。

なお、本市の今回の調査では「わからない」とする人の割合が13.3%と、前回調査や国、県の調査に比べて高くなっています。

【性別】

女性は否定派が43.1%と、肯定派40.6%をやや上回っています。男性は肯定派が55.2%と、否定派29.9%を大きく上回っています。男性の方が、性別役割分担意識が強いといえます。

【年齢別】

否定派が肯定派を上回っているのは、20歳代（否定派55.7%、肯定派23.0%）と40歳代（否定派48.2%、肯定派38.7%）のみで、他のすべての年齢層で、肯定派が否定派を上回っており、60歳代以上では肯定派が過半数となっています。

【未既婚別】

「結婚している」人では肯定派が過半数50.3%、否定派35.3%となっています。

これに対し未婚者は、性別役割分担意識は低く、肯定派33.6%、否定派45.7%と、「結婚している」人に比べて低くなっています。

【理由】

肯定派では、年代、性別を問わず「子育てには女性が向いている」「女性しか子どもは産めない」など、「子育て」を理由にあげる人が多くなっています。

「男性、女性の特徴」「こまかいこと、家事、料理、家庭や子育ては女性に向いている」という意見が多く、「伝統」「自分がそう育ってきたから」「家庭が円満になる」という理由も多くみられます。また現在の社会のしくみのなかでは「男性の方が多く稼げるから」といった理由や、既婚女性では「女性は仕事も、家庭も両方することになってしまうから」という理由もあります。

また、否定派は「性差よりも個人差」「個人、家庭で決めること」「決めつけることはおかしい」「男女平等に反する」「男性も女性も、仕事も家庭もすべき」という理由に加え、20歳代などの若年層で「男性だけの稼ぎでは生活が厳しいから」という経済的な理由もみられます。

図3-1 性別役割分担意識

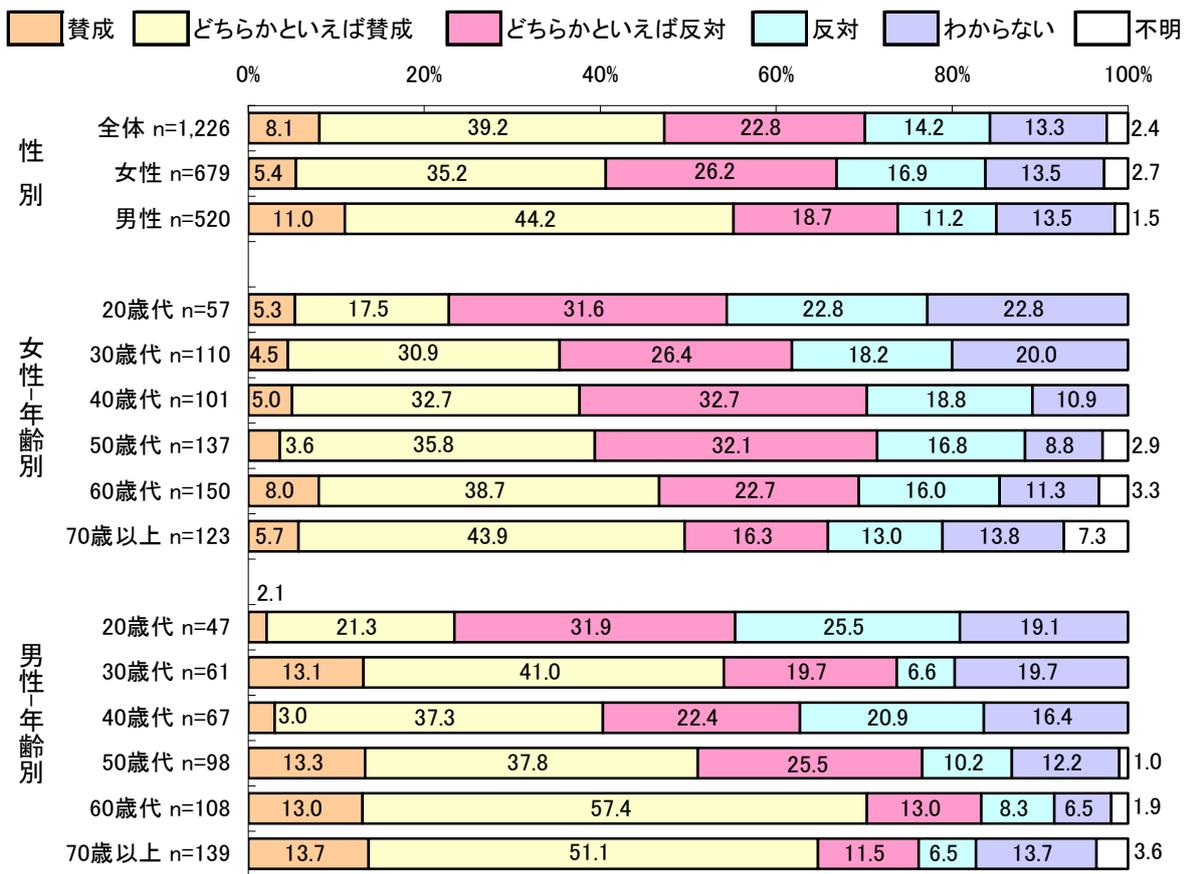


図3-2 性別役割分担意識

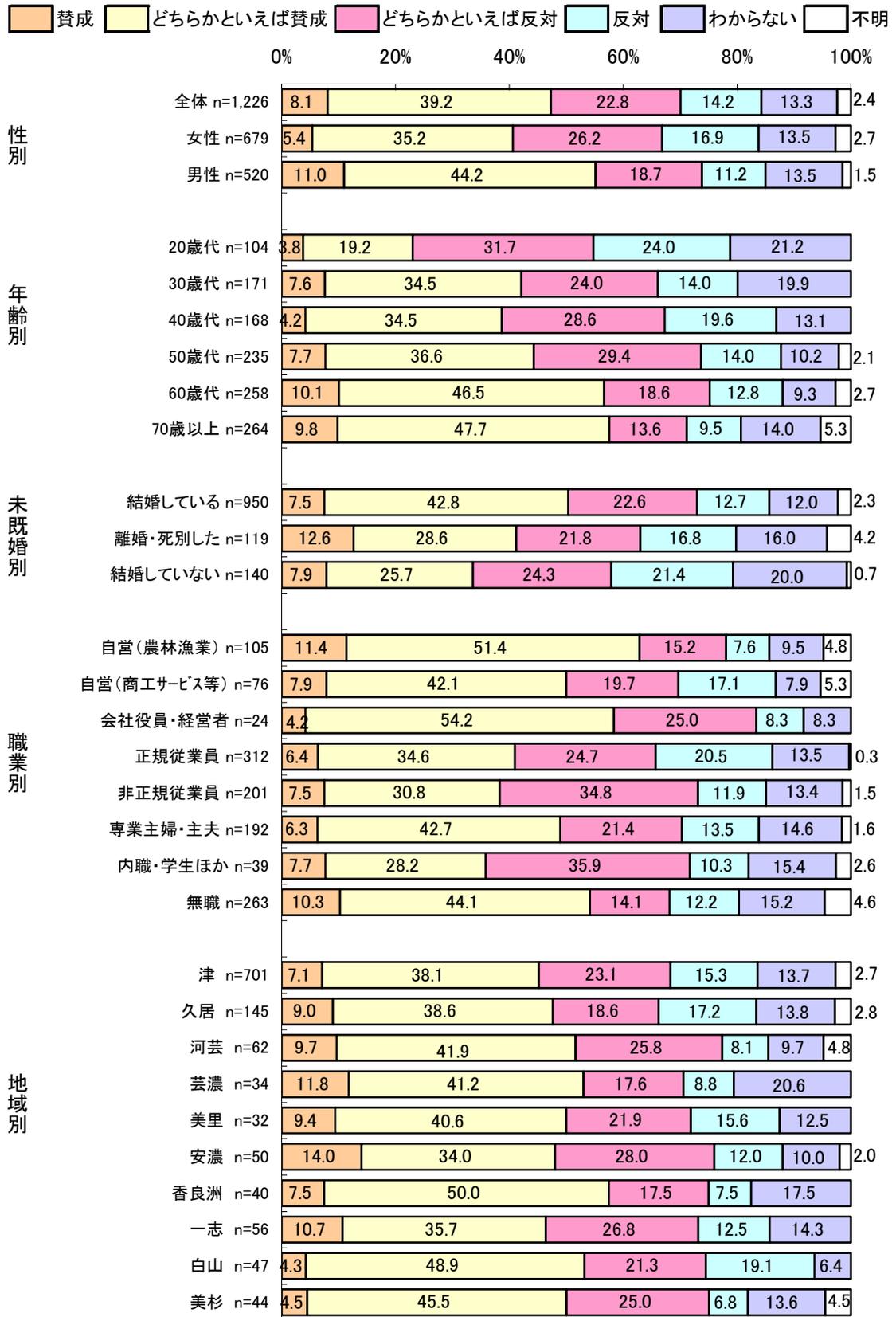
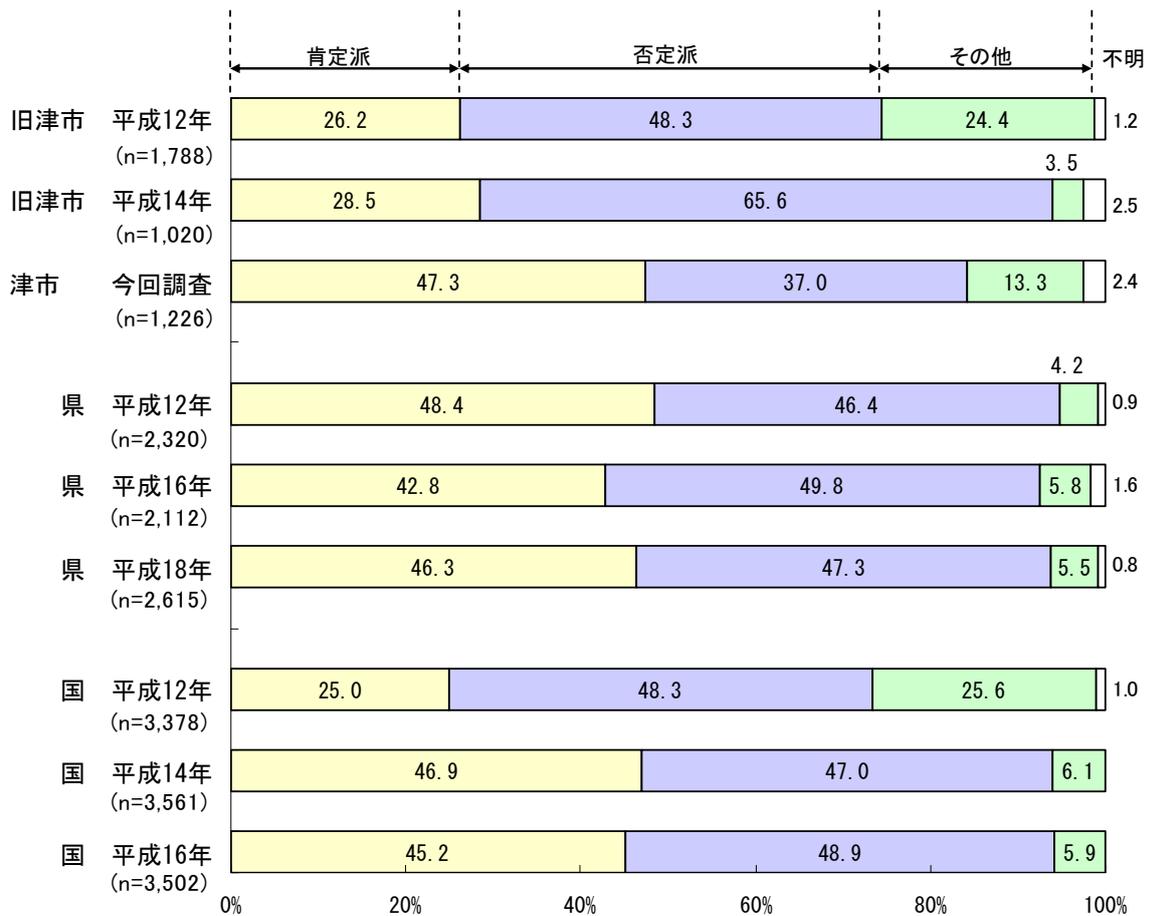


図3-3 性別役割分担意識の変化



注：分類内容は以下のとおり。

- 旧津市 平成12年 (設問「『男は仕事、女は家庭』といった役割分担はまちがっている」)
 性別役割分担 否定派・・・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」
 性別役割分担 肯定派・・・「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」
- 旧津市 平成14年 (設問：「あなたは男女の役割についてどのようにお考えですか」)
 性別役割分担 否定派・・・「男女の役割は固定しないのがよい」
 性別役割分担 肯定派・・・「男は仕事、女は家事や育児をするのがよい」+「女は仕事、男は家事や育児をするのがよい」+「男女とも仕事をし、家事や育児は女性がするのがよい」
- 県 平成12、16、18年 (設問：「『男は仕事、女は家庭』という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか」)
 性別役割分担 否定派・・・「同感しない」+「どちらかといえば同感しない」
 性別役割分担 肯定派・・・「同感する」+「どちらかといえば同感する」
- 国 平成12年 (設問：「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感する方ですか、それとも同感しない方ですか。)
 性別役割分担 否定派・・・「同感しない」
 性別役割分担 肯定派・・・「同感する」
- 国 平成14年、16年 (設問：「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について」)
 性別役割分担 否定派・・・「反対」+「どちらかといえば反対」
 性別役割分担 肯定派・・・「賛成」+「どちらかといえば賛成」

【問4】「男性があまり進出していない分野に男性の進出を、また女性があまり進出していない分野に女性の進出をはかり、男女の実質的な活動の機会を均等に提供すべきである」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで、その理由も記入してください。(○は1つ)

ポジティブ・アクションについての考え方を問う設問ですが、肯定派（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が55.4%と、否定派（「どちらかといえば反対」と「反対」の合計）18.3%を大きく上回っています。

【性別】

女性56.9%、男性53.7%と、男女とも肯定派が過半数となっていますが、否定派は女性14.4%、男性23.4%と、男性の方が高くなっています。

【年齢別】

「賛成」は20歳代が26.9%と最も高く、年齢が上がるほど「賛成」の比率は低下します。肯定派は50歳代の60.4%が最も高く、否定派は20歳代の14.4%が最も低くなっています。20歳代は「わからない」が30.8%と、他の年齢層に比べ最も高くなっています。

【職業別】

肯定派は会社役員・経営者、正規従業員、非正規従業員で高く、農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者、専業主婦・主夫で低くなっています。また、非正規従業員では否定派が12.0%となっています。

【地域別】

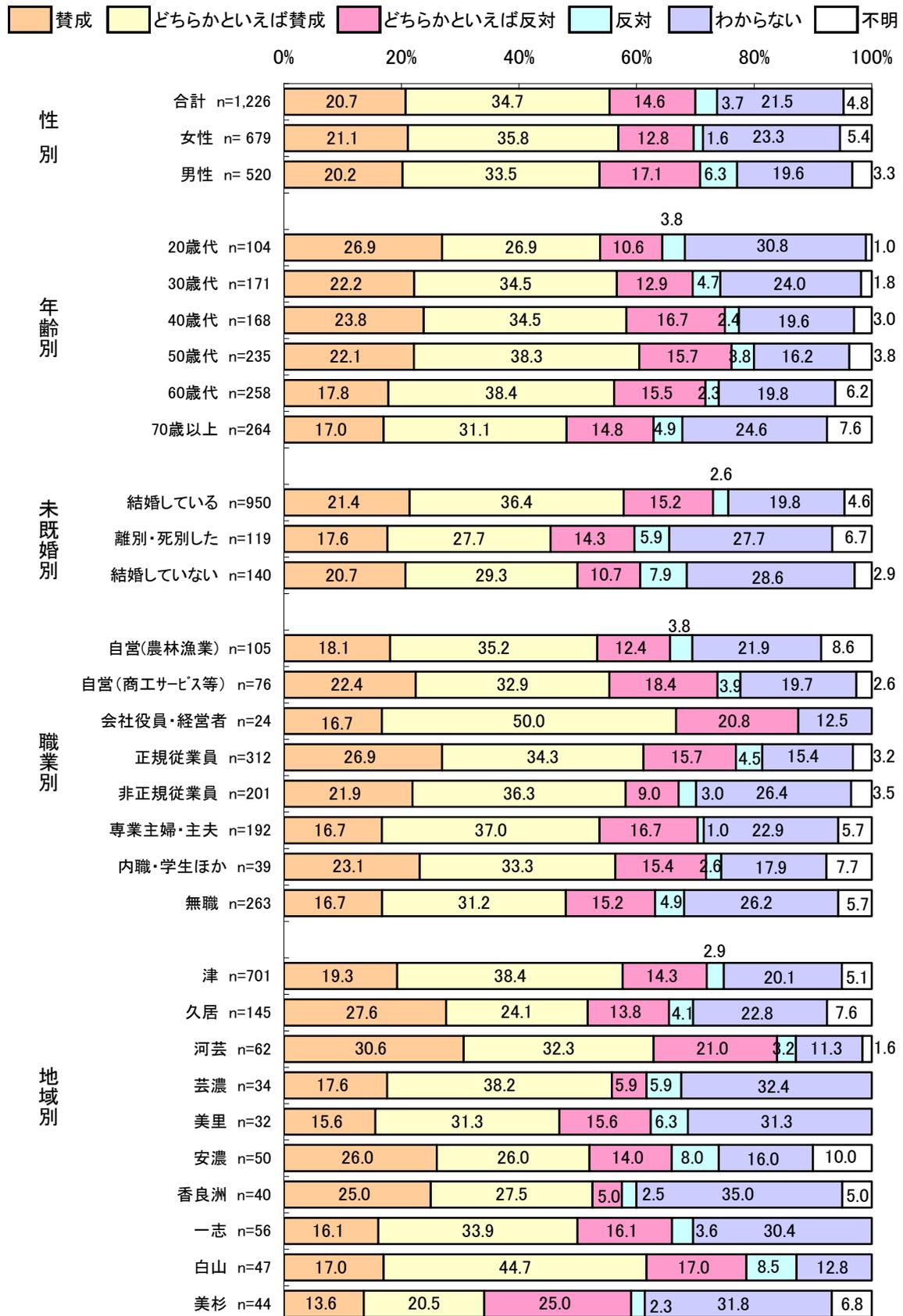
すべての地域で肯定派が否定派を上回っていますが、美杉地域34.1%と美里地域46.9%では、肯定派が50%未満になっています。否定派が最も多いのは美杉地域で、27.3%となっています。

肯定派は、河芸地域の62.9%が最も高くなっています。河芸地域は、その中でも「賛成」が30.6%と他の地域に比べ高く、「わからない」と答えた人が11.3%と最も低くなっています。

【理由】

否定派の多くの人には「男性、女性の適性がある」「男性しかできないこと、女性しかできないことがある」など、「性差によって特性や適性がある」ということを理由にあげています。肯定派の人にも「これまで進出していなかった分野に進出することで男性、女性特有の見方を活かせるから」など、「性差によって特性や適性がある」ということを理由とするものがみられます。

図4 男女の実質的な活動の機会を均等に提供することについて



2. 普段の生活について

【問5】 次の事柄について、あなたのご家庭では主にどなたがしていますか。

(○はそれぞれ1つ) ※ひとり暮らしの方は、お答えいただく必要はありません。

ほとんどすべての項目について、「主に女性」（「ほとんど女性がする」と「女性が中心だが男性もする」の合計）が分担していますが、「家計を支える（生活費を得る）」については、「主に男性」（「ほとんど男性がする」と「男性が中心だが女性もする」の合計）が61.8%と、圧倒的に男性の分担となっています。「自治会・町内会などの地域活動」も、「主に男性」が36.8%となっています。

「高額な物の購入の決定」については、「主に男性」が31.0%で最も高くなっていますが、「男性も女性も同程度する」も29.0%とほぼ同じ割合となっています。

「子どもの教育方針や進路の決定」については、「男性も女性も同程度する」が25.7%と最も高くなっています。

【性別】

「男性も女性も同程度する」「家族で協力してする」と回答した比率を男女別にみると、ほとんどの項目において男性が女性を上回っており、男性は男女同程度や家族で協力しているつもりでも、女性側の認識は異なっているようです。また「自治会・町内会などの地域活動」も女性は「主に男性」32.4%、「主に女性」31.9%とみているのに対し、男性は「主に男性」41.7%、「主に女性」21.1%となっており、ここにも男女の認識の違いがみられます。

【年齢別】

「洗濯、掃除」「食事の支度・片付け」についてはすべての年齢層で、「日常の家計の管理」についても70歳以上を除くすべての年齢層で、「主に女性」が約7割以上となっており、年齢にかかわらず日常的な家事については女性が分担する割合が高くなっています。

【職業別】

「洗濯、掃除」「食事の支度・片付け」「日常の家計の管理」は、仕事の有無や職業にかかわらず、「主に女性」となっています。

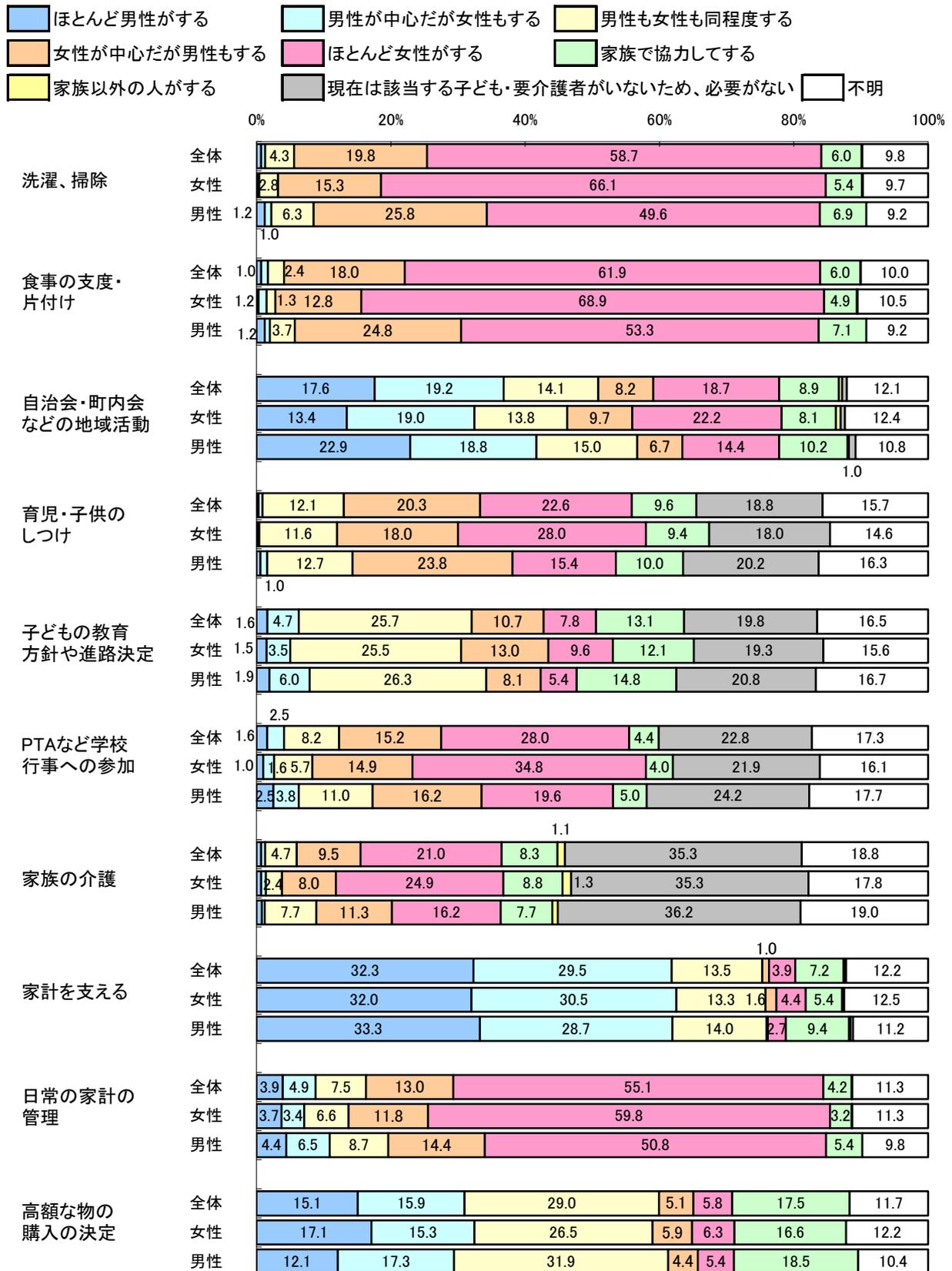
既婚女性についてみると、非正規従業員は他の職業に比べて「洗濯、掃除」「食事の支度・片付け」「日常の家計の管理」「自治会・町内会などの地域活動」「育児、子どものしつけ」「子どもの教育方針や進路の決定」を「主に女性」が分担している比率が高くなっています。

【地域別】

「洗濯、掃除」「食事の支度・片付け」については、津地域、久居地域に比べ、その他の地域の方が「主に女性」が担っている割合が高くなっています。

「自治会・町内会などの地域活動」は津地域のみ、「主に女性」が「主に男性」を上回っています。白山地域、美里地域、美杉地域などで特に、「主に男性」の割合が高くなっています。

図5 家庭生活上の役割分担



注：1.0%未満は値の表記を省略

表5 家庭生活上の役割分担「主に女性」と答えた人の割合

(%)

		該当者数 (人)	洗濯・掃除	食事の支度・ 片付け	自治会・町内会 などの地域活動	子供のしつけ ・育児	子供の教育方針 や進路の決定	P.T.Aなど学校 行事への参加	家族の介護	家計を支える	日常の家計の 管理	高額なものの 購入の決定
全体		1,226	78.5	79.9	26.9	42.9	18.5	43.2	30.5	4.9	68.1	10.9
性	女性	679	81.4	81.7	31.9	46.0	22.6	49.7	32.9	6.0	71.6	12.2
	男性	520	75.4	78.1	21.1	39.2	13.5	35.8	27.5	2.9	65.2	9.8
年齢	20歳代	104	74.0	76.0	31.7	41.3	20.2	40.4	27.9	10.6	69.2	17.3
	30歳代	171	80.7	84.2	35.0	45.6	21.1	47.4	18.7	4.7	73.7	14.1
	40歳代	168	90.4	88.1	41.7	59.5	31.6	69.0	33.9	3.6	75.0	13.1
	50歳代	235	81.8	80.4	26.4	49.0	22.1	51.5	36.6	2.5	72.3	9.8
	60歳代	258	79.8	81.4	22.8	41.5	16.3	38.0	37.6	5.1	72.1	11.2
	70歳以上	264	68.6	72.4	16.7	27.6	7.2	25.0	24.6	4.5	55.3	6.9
未既婚	結婚している	950	85.5	87.3	28.6	47.5	19.6	47.4	33.8	3.4	74.3	10.4
	離婚・死別した	119	43.7	40.3	15.1	21.0	13.4	24.3	15.1	10.1	35.3	11.8
	結婚していない	140	64.3	66.4	27.8	35.0	17.1	34.3	22.9	9.3	57.8	15.0
職業	自営(農林漁業)	105	81.9	83.8	18.1	37.2	16.2	36.2	38.1	5.8	61.9	7.7
	自営(商工サービス等)	76	85.5	85.6	35.5	52.7	27.7	52.7	38.1	9.2	76.3	9.2
	会社役員・経営者	24	95.8	91.7	33.3	41.7	20.8	45.8	45.9	0.0	87.5	12.5
	正規従業員	312	75.7	76.3	26.3	46.4	18.0	45.2	27.5	3.5	67.0	13.5
	非正規従業員	201	88.1	88.1	39.8	53.3	30.3	59.2	33.9	6.0	77.1	14.5
	専業主婦・主夫	192	88.5	87.5	34.4	46.3	17.2	46.8	33.3	3.6	79.2	9.4
	内職・学生ほか	39	71.7	79.4	28.2	38.4	20.5	41.0	35.9	10.3	66.7	18.0
	無職	263	63.9	69.2	12.5	29.7	9.1	26.6	21.7	3.8	53.6	7.2
地域	津	701	76.9	77.4	32.7	42.2	19.6	45.1	28.9	5.0	66.3	11.9
	久居	145	71.0	75.2	23.4	35.2	13.8	31.1	22.8	4.8	62.8	8.9
	河芸	62	79.0	82.3	24.2	46.8	25.8	51.6	35.4	1.6	77.5	9.7
	芸濃	34	85.3	94.1	14.7	58.8	14.7	53.0	47.1	2.9	64.7	2.9
	美里	32	96.9	90.7	12.5	56.3	15.6	40.6	43.8	6.3	81.3	12.6
	安濃	50	80.0	86.0	18.0	48.0	22.0	46.0	30.0	4.0	68.0	12.0
	香良洲	40	90.0	92.5	27.5	60.0	17.5	60.0	42.5	7.5	87.5	12.5
	一志	56	91.1	91.0	17.8	42.8	16.1	35.7	32.2	7.2	80.4	12.5
	白山	47	83.0	78.7	10.7	34.1	10.7	31.9	23.4	2.1	63.8	10.7
	美杉	44	79.6	81.9	9.0	45.5	22.7	43.2	43.2	4.5	63.6	6.8

注1:割合は、「ほとんど女性がする」と「女性が中心だが男性もする」の合計

注2: は50%以上

3. 労働について

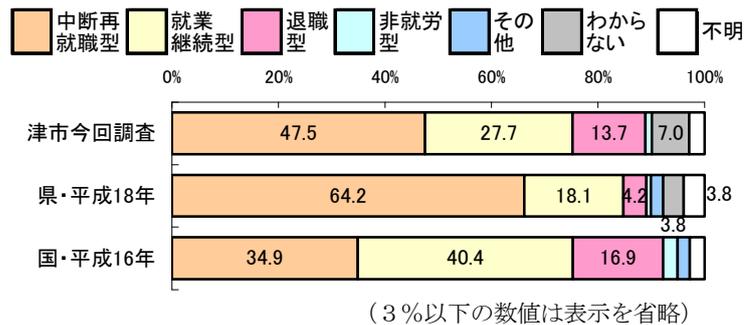
【問6】女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。(〇は1つ)

選択肢1～5は、次の4つの型に分けることができます。

退職型	：結婚するまでは、職業を持つ方がよい 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
中断再就職型	：子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
就業継続型	：子どもができても、ずっと職業を持ち続けるのがよい
非就労型	：女性は職業を持たない方がよい

子育てが終わってから再就業する「中断再就職型」が47.5%と最も多く、女性は子育てを優先しつつ働くのが望ましいと考える人が多いといえます。次いで「就業継続型」が27.7%となっており、女性が職業を持つことに否定的な考え方（「退職型」と「非就労型」の合計）の人は14.9%となっています。

三重県の調査（平成18年）での同様の設問では、「中断再就職型」が64.2%、国の調査（平成16年）での同じ設問では、「中断再就職型」が34.9%となっています。本市では「中断再就職型」が県に比べて少なく、国に比べると多くなっています。



【性別】

男女とも「中断再就職型」が半数近くとなっており、性別にかかわらず女性は子育てを優先しつつ働くのが望ましいと考える人が多いといえます。「女性が職業を持つことに否定的な考え方」は、女性12.8%、男性17.7%で、男性の方が「女性が職業を持つことに否定的な考え方」の人が多くなっています。

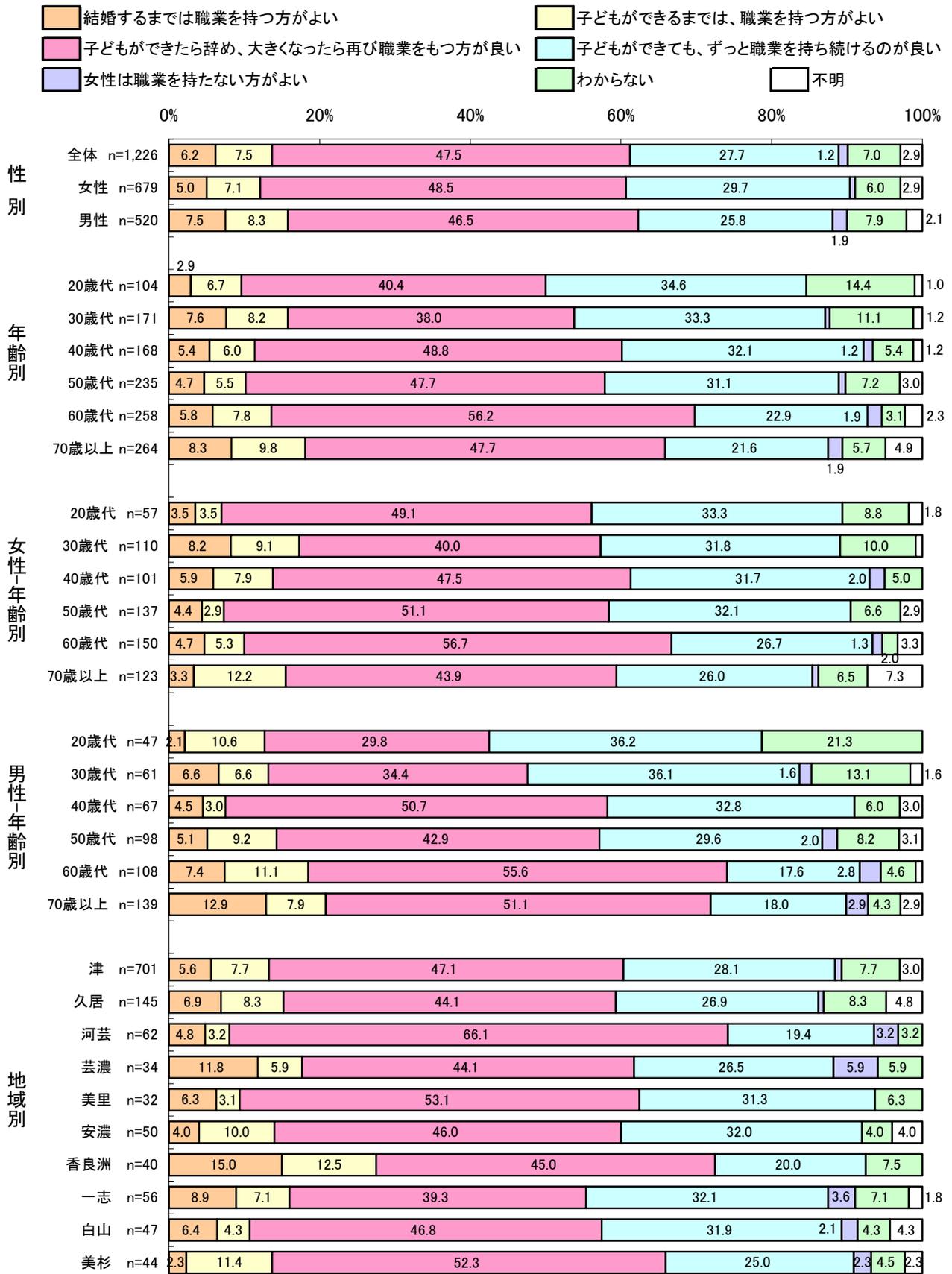
【年齢別】

すべての年齢層で「中断再就職型」が最も多くなっていますが、20歳代、30歳代の男性では「就業継続型」が最も多くなっています。「中断再就職型」は60歳代で、「女性が職業を持つことに否定的な考え方」は、30歳代と70歳以上で、他の年齢層に比べ多くなっています。

【地域別】

すべての地域で「中断再就職型」が最も多くなっていますが、特に河芸地域は66.1%と高くなっています。「女性が職業を持つことに否定的な考え方」は、香良洲地域で27.5%、芸濃地域で23.6%と特に高くなっています。

図6 望ましい女性の働き方



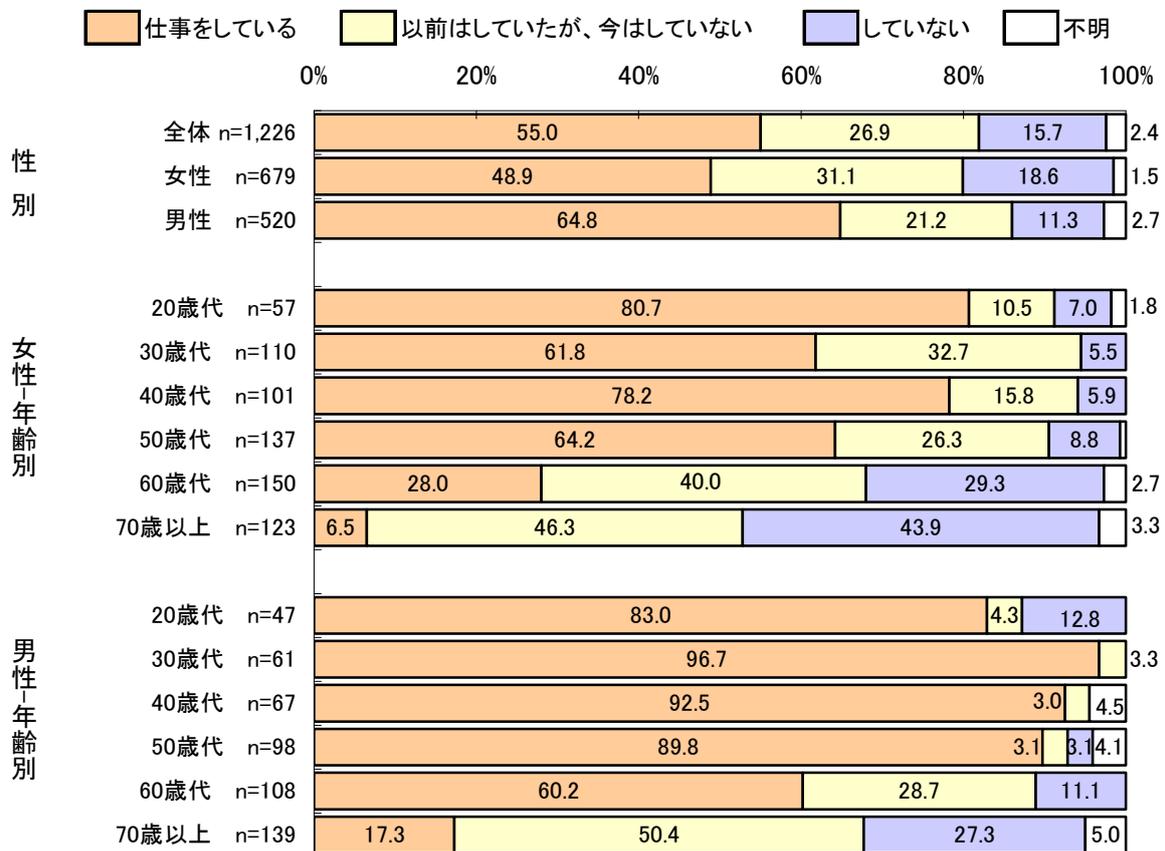
注: 1.0%未満は値の表記を省略

【問7】あなたは現在、仕事（収入のある）をしていますか。（産休・育児休業・介護休業中の方は「1. 仕事をしている」になります。）（○は1つ）

「仕事をしている」人は55.0%、「以前はしていたが、今はしていない」人は26.9%となっています。

女性では「仕事をしている」人が20歳代の80.7%から30歳代ではいったん61.8%に低下し、その後40歳代で78.2%に上昇しています。それに対して男性は、60歳代以上の高年齢層で「以前はしていたが、今はしていない」人の比率が上昇していますが、50歳代までは9割前後が「仕事をしている」となっています。

図7 年齢層別就業状況



注: 1.0%未満は値の表記を省略

【問8】※【問7】で「2. 以前はしていたが、今はしていない」とお答えの方におたずねします。あなたが仕事をやめた主な理由は、何ですか。（○は3つまで）

仕事をやめた理由で最も多いのは、「定年、高齢だから」（57.9%）ですが、これは「以前はしていたが、今はしていない」と答えた人の66.1%が60歳代以上であることによります。

【性別】

男性は「定年、高齢だから」が81.8%と圧倒的に高くなっています。「以前はしていたが、今はしていない」男性の91.8%が60歳代以上ですが、男性には定年や高齢である以外には仕事をやめる要因があまりないといえます。

女性も「定年、高齢だから」が44.5%と最も高くなっていますが、「出産・育児に専念したかったから」（13.7%）、「出産・育児のため、やめざるを得なかったから」（12.3%）と続いており、女性にとって、出産や育児が仕事をやめる大きな要因となっているといえます。このことは女性が職業を持つことについて、「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」中断再就職型が最も多くなっていることと一致します。

【年齢別】

30歳代は「結婚したら専業主婦になりたかったから」が21.1%と、他の年齢層に比べて高くなっています。また30歳から60歳代で介護を理由にしている場合、「専念したかったから」ではなく「やめざるを得なかった」が高くなっています。

その他の理由としては、いずれの年齢層でも「病気・体調不良」「倒産、廃業、早期勧告等の会社の事情」、60歳代では「孫の世話をしないといけないから」が散見されます。

表8 仕事をやめた主な理由

(%)

	該当者数（人）	専業主婦になりたかった	結婚でやめざるを得なかった	出産・育児に専念したかった	出産・育児でやめざるを得なかった	家族の介護に専念したかった	家族の介護のためやめざるを得なかった	自分や配偶者の転勤のため転居	人員整理・契約期間満了	仕事にやりがいが無かった	残業・休日出勤が多 く労働時間が長かった	職場の人間関係上	定年・高齢	その他	不明	
全体	330	4.5	5.5	9.7	7.9	2.1	5.5	4.5	3.9	2.4	4.8	4.8	57.9	13.9	2.1	
性	女性	211	7.1	8.1	13.7	12.3	2.4	8.5	6.6	4.3	1.9	6.2	6.2	44.5	18.5	0.9
	男性	110	0.0	0.9	2.7	0.0	0.0	0.0	0.9	2.7	2.7	2.7	2.7	81.8	5.5	3.6
年齢	20歳代	8	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	
	30歳代	38	21.1	13.2	31.6	26.3	0.0	2.6	18.4	5.3	0.0	13.2	5.3	0.0	26.3	2.6
	40歳代	18	16.7	16.7	22.2	16.7	0.0	5.6	22.2	11.1	11.1	22.2	16.7	0.0	11.1	0.0
	50歳代	39	7.7	7.7	12.8	10.3	2.6	20.5	2.6	5.1	10.3	10.3	10.3	5.1	35.9	0.0
	60歳代	91	0.0	3.3	3.3	5.5	1.1	6.6	2.2	5.5	0.0	1.1	3.3	80.2	8.8	2.2
	70歳以上	127	0.0	1.6	3.1	2.4	2.4	1.6	0.8	0.8	0.8	1.6	1.6	85.8	7.1	2.4

注: は第1位 は第2位 1位が複数ある場合は、2位を省略

【問9】女性が仕事をもち続けるために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

「家族の理解や協力」が73.9%と圧倒的に高く、次いで「保育・介護・福祉に関するサービスの充実」(38.3%)、「育児・介護休業制度の整備」(34.5%)となっています。

【性別】

男女とも「家族の理解や協力」が最も高くなっていますが、女性78.6%に対し男性は68.7%と男女差が9.9ポイントあり、最も男女の差が大きな項目でもあります。

男性が女性を上回っているのは、「育児・介護休業制度の整備」の6.0ポイント差をはじめ、「在宅勤務やフレックス・タイム制度の導入など、柔軟な勤務形態」「職場における女性への差別的待遇をなくすこと」の3項目です。

【職業別】

「家族の理解や協力」は、専業主婦・主夫が84.9%と最も高く、「給与や労働条件の改善」は非正規従業員が29.9%で最も高くなっています。「在宅勤務やフレックス・タイム制度の導入など、柔軟な勤務形態」は、正規従業員が38.1%と高くなっています。

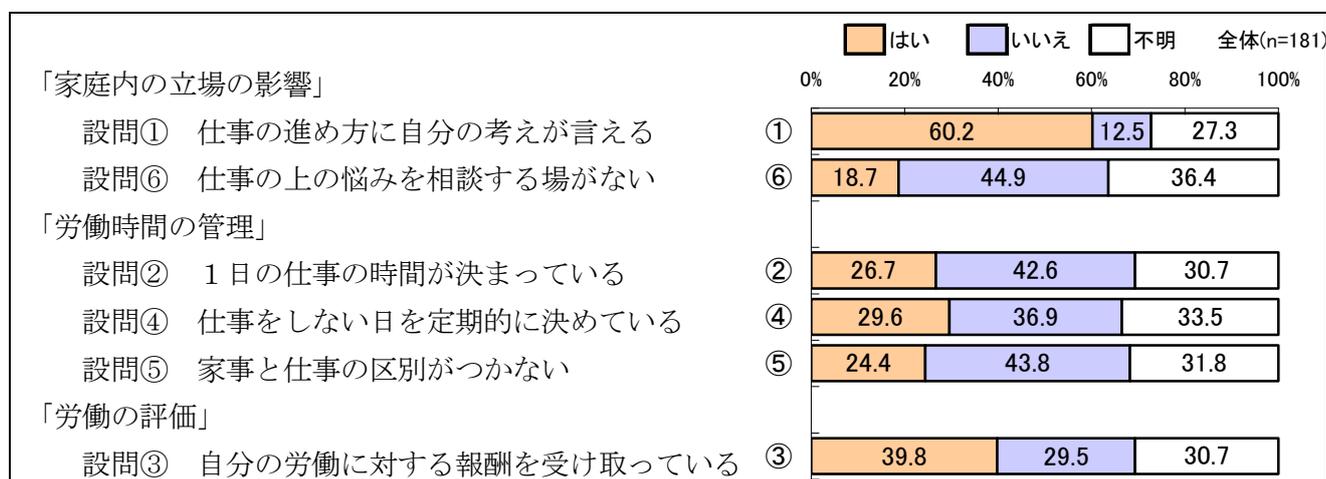
表9 女性が仕事をもち続けるために必要なこと (%)

		該当者数(人)	職場における女性への差別的待遇をなくすこと	女性への職業訓練、資格取得などの機会の充実	家族の理解や協力	保育・介護・福祉に関するサービスの充実	在宅勤務やフレックス・タイム制度の導入など、柔軟な勤務形態	育児・介護休業制度の整備	給与や労働条件の改善	社会の「男は仕事、女は家庭」という考え方をなくすこと	その他	特に必要なことはない	不明
全体		1,226	25.5	12.3	73.9	38.3	25.4	34.5	19.6	13.1	1.5	2.9	4.6
性	女性	679	24.6	13.0	78.6	40.4	24.6	32.1	20.8	15.8	0.7	1.8	4.1
	男性	520	26.9	11.9	68.7	35.8	27.3	38.1	18.7	10.0	2.5	3.8	4.2
年齢	20歳代	104	32.7	8.7	63.5	41.3	30.8	45.2	25.0	18.3	3.8	1.9	1.0
	30歳代	171	18.7	10.5	74.9	46.8	43.9	39.8	19.9	13.5	1.8	1.2	0.6
	40歳代	168	19.0	8.3	75.6	45.8	42.3	35.1	24.4	13.7	0.6	1.2	0.6
	50歳代	235	26.8	9.4	78.7	43.8	25.5	33.6	22.6	14.0	1.3	1.7	2.6
	60歳代	258	26.0	16.7	80.6	38.8	16.3	32.9	18.2	11.2	1.2	1.9	3.9
	70歳以上	264	29.9	16.7	67.0	22.0	11.0	29.9	14.0	12.1	1.5	6.1	11.7
未婚	結婚している	950	25.8	12.4	76.4	39.6	26.0	33.6	19.8	12.6	1.4	2.6	3.7
	離婚・死別した	119	24.4	14.3	71.4	31.1	18.5	30.3	19.3	16.8	0.8	3.4	9.2
	結婚していない	140	26.4	10.0	62.1	36.4	30.0	45.0	20.7	15.0	2.9	2.9	3.6
職業	自営(農林漁業)	105	24.8	11.4	74.3	28.6	12.4	29.5	12.4	15.2	0.0	5.7	8.6
	自営(商工サービス等)	76	25.0	17.1	75.0	35.5	26.3	32.9	18.4	11.8	0.0	2.6	3.9
	会社役員・経営者	24	33.3	20.8	79.2	58.3	12.5	37.5	4.2	12.5	0.0	4.2	4.2
	正規従業員	312	21.8	6.4	67.9	43.9	38.1	39.7	22.8	13.8	2.6	1.6	2.2
	非正規従業員	201	27.4	14.9	78.6	43.3	28.4	34.3	29.9	15.9	1.0	1.0	1.5
	専業主婦・主夫	192	24.5	10.9	84.9	41.1	26.0	32.3	17.7	10.4	1.6	0.0	3.1
	内職・学生ほか	39	33.3	20.5	69.2	28.2	25.6	43.6	17.9	17.9	2.6	2.6	2.6
	無職	263	28.5	15.2	70.3	30.0	14.8	30.8	15.2	11.8	1.5	6.5	8.4

注: は50%以上

【問10】※農林漁業・商工業・サービス業の自営、家族従業者の方におたずねします。次のことはあなたの働いている現状にあてはまりますか。(○はそれぞれ1つ)

自営業主・家族従業者の労働の場では、家族で働いているために家庭内の立場の影響を受けたり、また生活の場と一体（または近接）しているために、労働時間の管理が難しい、労働の評価が受けづらいなどの課題が考えられます。設問①～⑥は以下のように分類できます。



「仕事の進め方に自分の考えが言える」について60.2%が「はい」と回答し、最も高くなっています。「仕事上の悩みを相談する場がない」について「はい」と回答したのは、18.7%にのぼっています。

「1日の仕事の時間が決まっている」は42.6%が「いいえ」、「仕事をしない日を定期的に決めている」は36.9%が「いいえ」となっており、労働時間の管理が難しいことがわかります。

【性別・職業別】

「家庭内の立場の影響」・・・「仕事の進め方に自分の考えが言える」と回答したのは、男性は65.5%、女性は55.4%と、男性の方が高くなっています。なかでも農林漁業(※1)の男性は75.0%と最も高く、商工サービス業等(※2)の男性は50.0%で、最も低くなっています。

「仕事上の悩みを相談する場」については、男性の23.8%が「相談する場がない」と回答しており、女性の14.1%を上回っています。

男性は、「自分が主になって仕事をしていかなければならない」という意識から、意見は言えるが悩みを相談できない、また、女性は男性より意見が言いにくいという、それぞれの家庭内での立場の影響を受けていると思われます。

「労働時間の管理」・・・「1日の仕事の時間が決まっている」は、商工サービス業等では、女性40.5%、男性37.5%なのに対し、農林漁業では女性20.0%、男性15.4%に過ぎません。

「仕事をしない日を定期的に決めている」割合も、農林漁業の方が低くなっています。女性は男性よりも、1日の仕事の時間や仕事をしない日が決まっている割合が高いですが、「家事と仕事の区別がつかない」割合も男性を上回っています。

「労働の評価」・・・「自分の労働に対する報酬を受け取っている」は、商工サービス業等で高く、農林漁業で低くなっています。性別でみると男性は31.0%と、女性47.8%より低くなっています。

※1：農林漁業＝農業・林業・漁業の、自営業主・家族従業者

※2：商工サービス業等＝商工業・サービス業・その他の、自営業主・家族従業者

図10 自営業・家族従業者の労働について

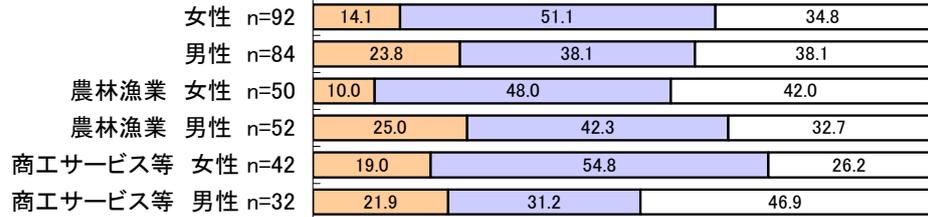
「家庭内の立場の影響」

はい いいえ 不明

①仕事の進め方に自分の考えが言える

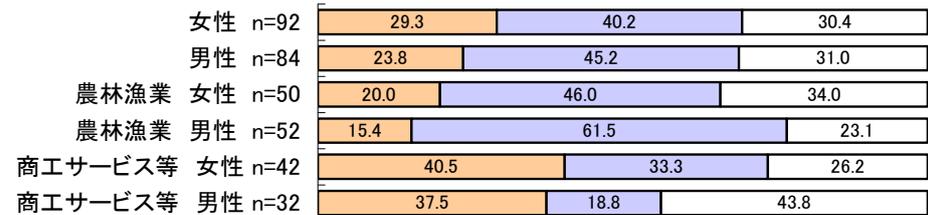


⑥仕事上の悩みを相談する場がない

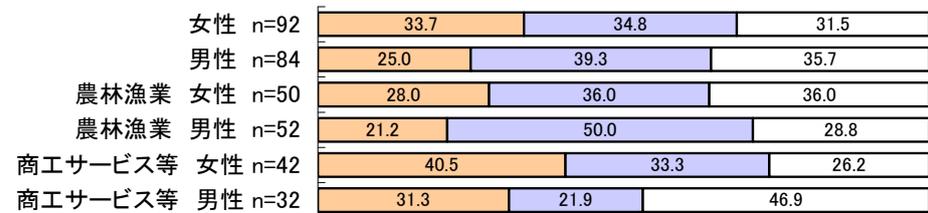


「労働時間の管理」

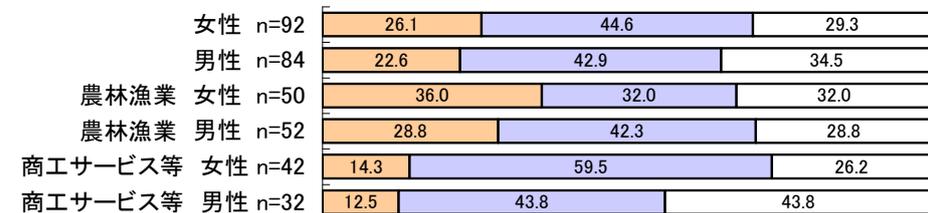
②1日の仕事の時間が決まっている



④仕事をしない日を定期的に決めている



⑤家事と仕事の区別がつかない



「労働の評価」

③自分の労働に対する報酬を受け取っている



4. 子育て・教育について

【問 1 1】安心して子どもを産み育てることができる社会の実現のために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」が51.5%と最も高く、次いで「男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり」(48.9%)、「児童手当の支給、教育費の負担軽減など経済的支援制度の充実」(48.2%)となっています。

その他の意見として「社会の将来への不安解消」「治安等、安全安心な社会」などがあげられています。

【性別】

男性が女性を上回っているのは「児童手当の支給、教育費の負担軽減など経済的支援制度の充実」(男性 51.0%、女性 46.7%、男女差 4.3 ポイント)、「正規社員への転換など、生活基盤の安定」(男性 18.3%、女性 14.0%、男女差 4.3 ポイント)などです。

一方、女性が男性を上回っているのは、「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」(女性 55.2%、男性 47.3%、男女差 7.9 ポイント)、「男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり」(女性 51.3%、男性 46.9%、男女差 4.4 ポイント)などです。

男性は経済的な支援を、女性は支援体制・環境の充実を重視していることがわかります。

【年齢別】

「正規社員への転換など、生活基盤の安定」「ひとり親家庭への支援」などは、20歳代から30歳代の若年層で、他の年齢層に比べ高くなっています。

【未既婚別】

「正規社員への転換など、生活基盤の安定」や「育児・介護休業制度の整備」は未婚者が既婚者に比べて高く、「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」「児童手当の支給、教育費の負担軽減など経済的支援制度の充実」は「結婚している」人が未婚者より高くなっています。

【職業別】

すべての職業で、「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」「男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり」「児童手当の支給、教育費の負担軽減など経済的支援制度の充実」が高くなっています。

「子どもの遊び場の確保」は、農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者が17.1%、商工業・サービス業・その他の自営業主・家族従業者が18.4%など、自営業で高くなっています。

「正規社員への転換など、生活基盤の安定」は、非正規従業員が23.9%と最も高く、専業主婦・主夫は9.4%と最も低くなっています。「ひとり親家庭への支援」についても、専業主婦・主夫のみ7.8%と、1ケタ台になっています。

「子育て相談や育児に関する講座の充実」「ホームヘルパー制度など介護・福祉サービス

の充実」については、農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者で高くなっています。

【地域別】

「保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実」は一志地域、安濃地域、白山地域、美杉地域で高く、「児童手当の支給、教育費の負担軽減など経済的支援制度の充実」は香良洲地域、芸濃地域、河芸地域で高くなっています。

津地域、久居地域では「男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり」を必要と考える比率が高くなっています。

表11 安心して子どもを産み育てることができる社会の実現のために必要な施策 (％)

		該当者数(人)	子どもの遊び場の確保	保育サービスの充実、学童保育など地域での子育て支援の充実	子育て相談や育児に関する講座の充実	ひとり親家庭への支援	児童手当、教育費負担軽減など制度の充実	育児・介護休業制度の整備	男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり	介護・福祉サービスの充実	講演やセミナーの開催	正規社員への転換など、生活基盤の安定	その他	特に必要なことはない
全体		1,226	13.1	51.5	8.3	11.2	48.2	25.8	48.9	5.7	10.9	15.6	2.9	1.8
性	女性	679	13.8	55.2	9.6	10.2	46.7	25.0	51.3	5.4	12.8	14.0	2.5	1.5
	男性	520	12.1	47.3	6.7	12.7	51.0	27.1	46.9	5.6	8.7	18.3	3.3	2.1
年齢	20歳代	104	23.1	48.1	15.4	14.4	52.9	32.7	53.8	3.8	8.7	21.2	1.9	0.0
	30歳代	171	15.2	61.4	7.0	15.8	60.2	22.8	48.5	3.5	7.6	18.1	7.0	0.0
	40歳代	168	11.9	58.3	8.3	10.1	57.7	24.4	53.0	5.4	9.5	17.9	4.2	0.0
	50歳代	235	11.5	50.6	7.2	10.2	51.1	32.3	53.2	6.4	9.4	16.6	3.8	1.3
	60歳代	258	9.3	57.4	7.0	8.1	44.6	26.4	51.9	7.0	12.4	15.5	0.8	1.2
	70歳以上	264	13.6	38.3	8.3	11.7	34.8	20.1	40.2	5.7	14.8	10.6	0.8	5.7
未婚	結婚している	950	12.5	52.8	8.0	9.7	50.0	26.1	50.2	5.4	10.9	15.6	2.9	1.8
	離婚・死別した	119	9.2	52.1	8.4	17.6	46.2	18.5	42.0	7.6	16.0	9.2	2.5	2.5
	結婚していない	140	19.3	43.6	10.0	16.4	41.4	32.1	49.3	5.0	7.1	21.4	2.1	0.7
職業	自営(農林漁業)	105	17.1	42.9	14.3	11.4	37.1	11.4	44.8	10.5	21.0	11.4	2.9	5.7
	自営(商工サービス等)	76	18.4	59.2	5.3	11.8	47.4	17.1	47.4	1.3	11.8	22.4	2.6	1.3
	会社役員・経営者	24	12.5	54.2	8.3	16.7	66.7	25.0	41.7	8.3	8.3	12.5	0.0	0.0
	正規従業員	312	10.6	57.4	8.0	12.2	51.6	30.1	53.8	5.1	8.3	15.7	5.1	0.0
	非正規従業員	201	13.4	56.2	7.0	11.9	55.7	24.9	53.2	6.5	10.9	23.9	2.0	1.0
	専業主婦・主夫	192	15.6	52.6	9.4	7.8	49.0	31.3	47.9	4.7	10.9	9.4	3.1	1.0
	内職・学生ほか	39	15.4	41.0	7.7	12.8	59.0	35.9	56.4	0.0	12.8	23.1	2.6	0.0
	無職	263	9.9	43.0	7.6	11.0	41.1	24.7	43.7	6.1	9.9	12.5	1.1	3.8
地域	津	701	13.0	51.1	7.7	11.7	49.9	27.2	51.5	5.7	9.8	16.3	2.9	1.4
	久居	145	13.1	42.1	14.5	11.0	44.8	24.1	47.6	3.4	11.0	10.3	4.8	2.1
	河芸	62	17.7	51.6	14.5	11.3	54.8	16.1	32.3	1.6	9.7	19.4	1.6	3.2
	芸濃	34	5.9	52.9	11.8	5.9	55.9	23.5	47.1	2.9	5.9	5.9	0.0	2.9
	美里	32	18.8	50.0	9.4	21.9	31.3	15.6	40.6	6.3	25.0	12.5	0.0	0.0
	安濃	50	6.0	62.0	6.0	8.0	38.0	26.0	56.0	4.0	22.0	24.0	2.0	0.0
	香良洲	40	22.5	52.5	0.0	15.0	57.5	27.5	37.5	7.5	12.5	5.0	2.5	2.5
	一志	56	14.3	62.5	3.6	7.1	44.6	33.9	53.6	12.5	12.5	10.7	1.8	1.8
	白山	47	6.4	53.2	6.4	4.3	44.7	25.5	42.6	4.3	8.5	29.8	4.3	0.0
	美杉	44	9.1	54.5	4.5	11.4	47.7	22.7	52.3	9.1	9.1	18.2	4.5	6.8

注: は50%以上

【問 1 2】教育現場において男女共同参画についての教育を進める場合、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女が、お互いに協力しあうことの大切さを学ぶこと」が57.2%と顕著に高く、次いで「自立心や社会性を学ぶこと」(40.2%)、「多様な生き方があることを学ぶ」(38.3%)となっています。

【性別】

男女とも「男女が、お互いに協力しあうことの大切さを学ぶこと」が高く、女性 57.9%、男性 56.5%となっています。

男性では次いで「自立心や社会性を学ぶこと」が42.5%となっていますが、これは女性の38.9%を上回っています。しかし「男女とも家事・育児・介護について学ぶこと」については、男性は31.5%と、女性の38.0%に比べて低くなっています。男性は自立心や社会性についての教育の必要性を感じているものの、家事・育児・介護といった具体的な日常生活の上での「自立」についての必要性の認識は女性に比べて低いといえます。

【年齢別】

30歳代以上では「男女がお互いに協力しあうことの大切さを学ぶ」が最も高くなっているが、20歳代のみ「男女とも家事・育児・介護について学ぶこと」が51.9%と最も高くなっており、「男女がお互いに協力しあうこと」をより具体的に捉えているとみることができます。

「多様な生き方があることを学ぶこと」は20歳代47.1%、30歳代42.1%と、若い年齢層ほど高くなっています。

「性別でなく能力や特性による進路指導や生活指導」は30歳代で45.0%、40歳代で39.3%と高くなっています。

【職業別】

すべての職業において、「男女が、お互いに協力しあうことの大切さを学ぶこと」が最も高くなっています。

「自立心や社会性を学ぶこと」は、非正規従業員は50.2%と高いですが、専業主婦・主夫は32.3%と低くなっています。

「多様な生き方があることを学ぶこと」は、非正規従業員では34.3%ですが、正規従業員42.3%、商工業・サービス業・その他の自営業主・家族従業者40.8%、専業主婦・主夫40.6%などで高くなっています。

表12 男女共同参画推進のために教育現場で必要なこと

(%)

		該当者数(人)	多様な生き方があることを学ぶ	自立心や社会性を学ぶ	男女とも家事・育児・介護について学ぶ	心と体の大切さを学ぶ	男女がお互いに協力しあうことの大切さを学ぶ	性別でなく能力や特性による進路指導や生活指導	その他	わからない	不明
全体		1,226	38.3	40.2	35.2	32.9	57.2	33.0	1.5	3.2	5.3
性	女性	679	38.9	38.9	38.0	34.9	57.9	32.1	0.7	3.4	5.6
	男性	520	38.5	42.5	31.5	30.2	56.5	35.0	2.5	2.9	4.2
年齢	20歳代	104	47.1	32.7	51.9	26.0	47.1	37.5	1.9	3.8	0.0
	30歳代	171	42.1	32.7	38.0	28.1	51.5	45.0	3.5	4.1	0.6
	40歳代	168	41.7	42.3	36.3	37.5	58.9	39.3	1.2	1.2	3.0
	50歳代	235	39.1	45.5	39.1	30.2	55.3	37.9	1.3	3.0	1.7
	60歳代	258	36.8	39.5	32.6	34.5	66.7	29.1	0.8	2.7	6.2
	70歳以上	264	32.6	43.6	25.4	36.4	56.4	20.5	1.1	4.2	12.9
未婚	結婚している	950	37.2	40.9	35.5	33.4	60.5	34.0	1.6	2.3	5.3
	離婚・死別した	119	36.1	46.2	26.9	39.5	49.6	28.6	0.8	5.9	5.9
	結婚していない	140	49.3	31.4	41.4	25.0	43.6	32.1	2.1	6.4	2.9
職業	自営(農林漁業)	105	39.0	36.2	22.9	41.0	54.3	24.8	1.9	5.7	8.6
	自営(商工サービス等)	76	40.8	44.7	35.5	34.2	64.5	28.9	0.0	2.6	6.6
	会社役員・経営者	24	33.3	58.3	33.3	33.3	66.7	37.5	0.0	4.2	0.0
	正規従業員	312	42.3	39.4	39.1	29.5	55.4	39.7	2.2	2.2	1.9
	非正規従業員	201	34.3	50.2	40.3	35.3	52.7	34.3	1.5	4.0	3.0
	専業主婦・主夫	192	40.6	32.3	38.0	32.3	63.0	33.3	0.5	2.6	3.6
	内職・学生ほか	39	41.0	38.5	48.7	20.5	66.7	46.2	0.0	2.6	0.0
	無職	263	34.6	38.8	27.8	34.2	55.9	26.6	2.3	3.4	10.6
地域	津	701	40.5	39.5	33.8	32.7	58.1	36.2	2.0	3.4	5.0
	久居	145	38.6	40.7	35.2	35.2	51.7	30.3	0.7	4.1	6.9
	河芸	62	30.6	37.1	41.9	29.0	54.8	29.0	0.0	3.2	6.5
	芸濃	34	23.5	29.4	23.5	29.4	52.9	32.4	0.0	5.9	5.9
	美里	32	25.0	50.0	37.5	34.4	59.4	15.6	0.0	0.0	9.4
	安濃	50	40.0	44.0	32.0	34.0	66.0	26.0	2.0	2.0	4.0
	香良洲	40	35.0	40.0	35.0	45.0	57.5	27.5	2.5	2.5	2.5
	一志	56	44.6	37.5	50.0	35.7	53.6	35.7	0.0	1.8	3.6
	白山	47	29.8	51.1	31.9	36.2	51.1	29.8	2.1	2.1	2.1
	美杉	44	31.8	38.6	45.5	20.5	72.7	20.5	2.3	2.3	6.8

注: は50%以上

5. 介護について

【問13】身内に、日常的に介護を必要とする方がいらっしゃいますか。

身内に、日常的に介護を必要とする人が「いる」の回答が19.6%、「いない」が78.5%となっています。約5人に1人が日常的に介護を必要とする人が「いる」こととなります。

【性別】

「いる」と回答したのは女性が21.9%、男性が15.8%となっており、女性が6.1ポイント上回っています。

【年齢別】

「いる」と回答した世代は50歳代が24.7%と最も高く、親の介護が必要となる世代で割合が高くなっています。次いで、20歳代が23.1%、60歳代が22.5%と続き、30歳代、40歳代では15%未満となっています。

【地域別】

いずれの地域も「いない」が「いる」を大きく上回っています。

「いる」の回答割合が高い順に芸濃地域29.4%、一志地域25.0%、香良洲地域22.5%となっています。一方、美杉地域15.9%、久居地域16.6%、白山地域17.0%ではやや低くなっています。

表13 日常的に介護を必要としている人の有無 (%)

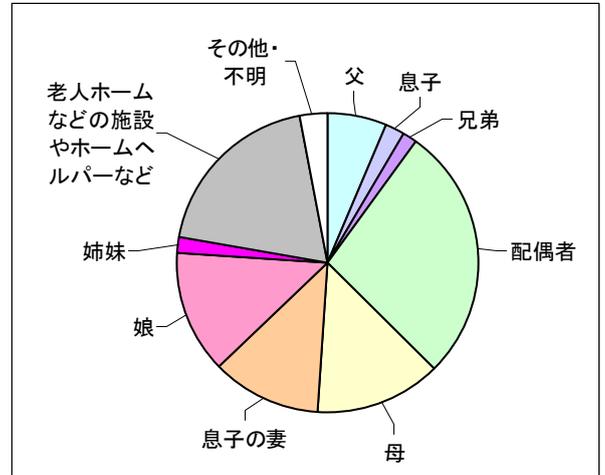
		該当者数 (人)	いる	いない	不明
全体		1,226	19.6	78.5	2.0
性	女性	679	21.9	76.3	1.8
	男性	520	15.8	82.9	1.3
年齢	20歳代	104	23.1	76.0	1.0
	30歳代	171	14.0	85.4	0.6
	40歳代	168	13.7	86.3	0.0
	50歳代	235	24.7	74.0	1.3
	60歳代	258	22.5	75.6	1.9
	70歳以上	264	17.0	79.5	3.4
地域	津	701	19.3	79.0	1.7
	久居	145	16.6	81.4	2.1
	河芸	62	21.0	79.0	0.0
	芸濃	34	29.4	67.6	2.9
	美里	32	18.8	81.3	0.0
	安濃	50	20.0	76.0	4.0
	香良洲	40	22.5	75.0	2.5
	一志	56	25.0	75.0	0.0
	白山	47	17.0	78.7	4.3
	美杉	44	15.9	81.8	2.3

注: は20%以上50%以下

【問14】※【問13】で「1. いる」とお答えの方におたずねします。その方の世話は、主にどなたがしていますか。次の中から、選んでください。(○は1つ)
介護が必要な方から見た続柄でお答え下さい。

図14 主に介護を行っている人(全体)

「配偶者」の回答割合が27.5%と最も高く、次いで「老人ホームなどの施設」(17.1%)となっています。また次いで「母」(13.8%)、「娘」(13.3%)、「息子の妻」(11.7%)となっており、家族の中で女性が介護を担う割合も高くなっています。



【年齢別】

50歳代、70歳以上においては「配偶者」が最も高く、特に70歳以上では51.1%と過半数を超えています。一方、30歳代では「老人ホームなどの施設」(25.0%)、40歳代では「配偶者」「老人ホームなどの施設」(いずれも26.1%)が最も高く、年齢層によって介護を担う人にばらつきがみられます。

【未既婚別】

「結婚している」では、「配偶者」(33.5%)が最も高く、「離婚・死別した」では、「娘」(30.0%)、「老人ホームなどの施設」(25.0%)が高くなっています。また「結婚していない」では、「老人ホームなどの施設」(22.2%)が最も高いものの「母」「娘」など家族が主に介護している割合も高くなっています。

表14 主に介護を行っている人(日常的に介護を必要とする人がいる場合) (%)

	該当者数(人)	父	息子	娘の夫	兄弟	配偶者	母	息子の妻	娘	姉妹	老人ホームなどの施設	ホームヘルパーなど	その他	不明	
全体	240	6.3	2.1	0.0	1.7	27.5	13.8	11.7	13.3	1.7	17.1	2.1	1.3	1.7	
性	女性	149	4.7	2.0	0.0	2.0	27.5	8.7	14.8	13.4	1.3	19.5	2.0	1.3	2.7
	男性	82	8.5	2.4	0.0	1.2	29.3	23.2	6.1	11.0	2.4	12.2	2.4	1.2	0.0
年齢	20歳代	24	16.7	4.2	0.0	0.0	16.7	8.3	16.7	12.5	4.2	16.7	0.0	0.0	4.2
	30歳代	24	12.5	0.0	0.0	0.0	20.8	8.3	8.3	8.3	0.0	25.0	4.2	8.3	4.2
	40歳代	23	4.3	0.0	0.0	0.0	26.1	21.7	13.0	4.3	4.3	26.1	0.0	0.0	0.0
	50歳代	58	5.2	0.0	0.0	1.7	27.6	13.8	20.7	12.1	0.0	15.5	1.7	0.0	1.7
	60歳代	58	5.2	3.4	0.0	1.7	19.0	24.1	8.6	17.2	1.7	15.5	3.4	0.0	0.0
	70歳以上	45	2.2	4.4	0.0	4.4	51.1	2.2	2.2	13.3	2.2	11.1	2.2	2.2	2.2
未既婚	結婚している	179	4.5	1.1	0.0	1.7	33.5	14.0	13.4	11.2	1.7	14.5	2.2	1.1	1.1
	離婚・死別した	20	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	30.0	5.0	25.0	5.0	0.0	5.0
	結婚していない	36	13.9	2.8	0.0	0.0	13.9	16.7	8.3	16.7	0.0	22.2	0.0	2.8	2.8

注: は30%以上

【問 15】 現在、介護は主として女性が担っているといわれています。このことについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。
(○は1つ)

「男性も女性も共に介護すべきである」が69.4%と顕著に高く、性別にかかわらず介護すべきであるとの意識が高くなっています。一方で、【問 14】では実際に介護を担当しているのは、家族の中の女性であるとの回答割合が高く、介護に対する意識と現状には大きく隔たりがあることがわかります。次いで「原則として社会が行うべきである」(9.2%)、「男女にかかわらず、主に子どもが介護すべきである」(6.9%)の順となっています。「主に女性が介護すべきである」との性別役割分担を肯定する人も2.9%とわずかながら存在しています。

【性別】

男女ともに「男性も女性も共に介護すべきである」が最も高くなっており、女性73.2%が男性65.4%に比べ、7.8ポイント高くなっています。一方、「男女にかかわらず、主に子どもが介護すべきである」(男性+5.1ポイント)、「原則として社会が行うべきである」(男性+2.4ポイント)など、男性は女性に比べると子どもや社会が介護を行うべきとの傾向がやや強いといえます。

【年齢別】

いずれの年齢層も「男性も女性も共に介護すべきである」が最も高くなっています。30歳代では「男女にかかわらず、主に子どもが介護すべきである」(11.1%)が他の年齢層に比べやや高くなっています。また「主に女性が介護すべきである」との考えが50歳代以下では2%未満と低いのに比べ、60歳代では3.1%、70歳以上では7.2%とやや高くなっています。

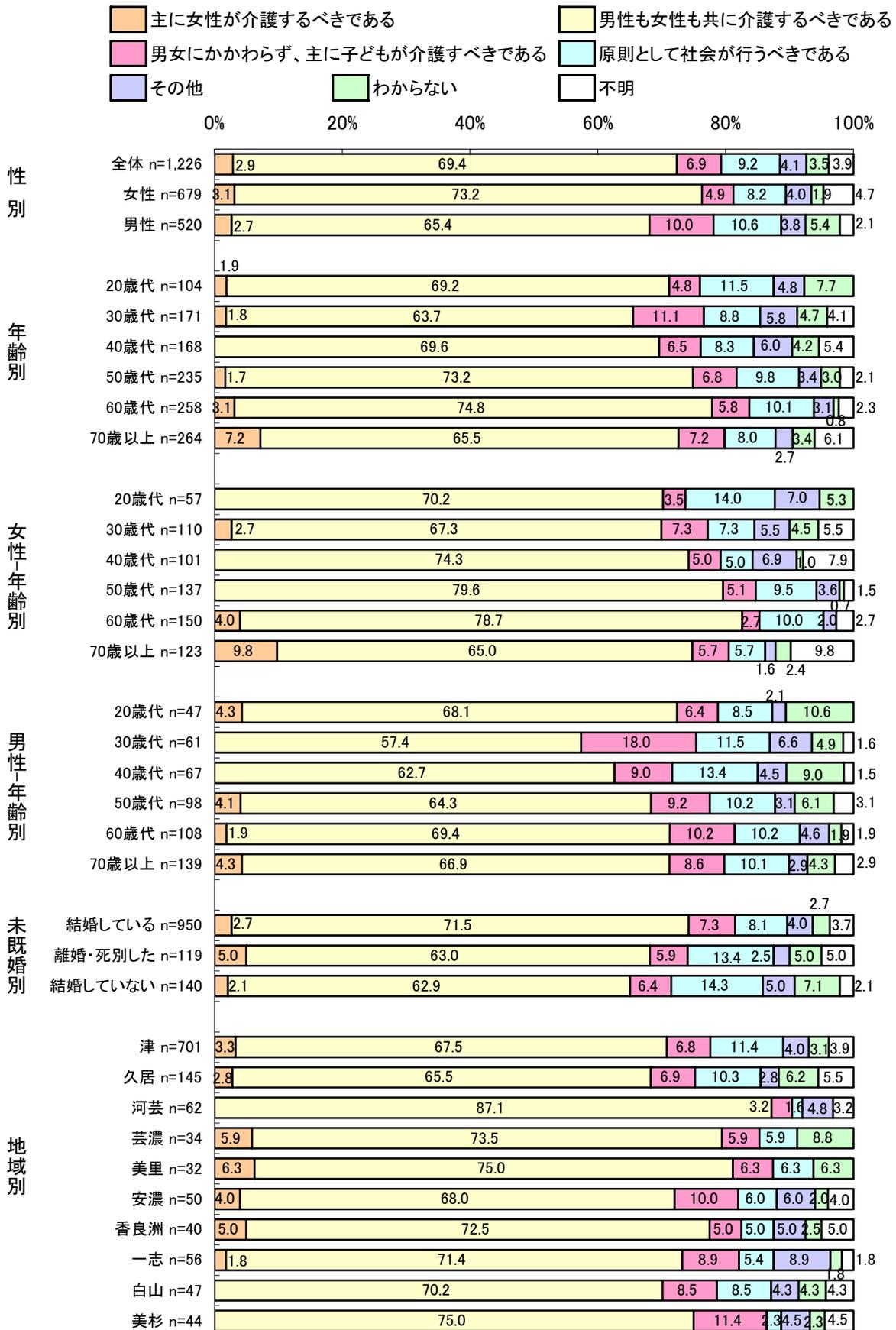
【未既婚別】

婚姻状況にかかわらず「男性も女性も共に介護すべきである」が最も高く、特に「結婚している」では71.5%と高くなっています。「結婚している」では「原則として社会が行うべきである」(8.1%)が、「離婚・死別した」「結婚していない」と比べるとやや低くなっています。

【地域別】

地域別にかかわらず、「男性も女性も共に介護すべきである」との回答割合が最も高く、中でも河芸地域(87.1%)で高くなっています。また「原則として社会が行うべきである」が河芸地域で1.6%、美杉地域で2.3%と低くなっている一方、津地域で11.4%、久居地域で10.3%とやや高くなっており、地域間で差がみられます。

図15 介護のあり方について(誰が担うのか)



6. 地域活動・家庭生活への参画について

【問16】現在、あなたは次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

何らかの活動をしている人は54.4%、活動をしていない人は43.6%と、活動をしている人がやや上回っています。活動内容をみると、「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動」(28.9%)、「趣味やスポーツに関する活動」(28.7%)が高くなっています。次いで「教養講座などの学習講座に参加」(11.1%)、「ボランティアなどの社会貢献活動」(11.0%)、「PTAや保護者会などの学校に関する活動」(10.0%)がほぼ同程度となっています。

【性別】

何らかの活動をしている人は、女性が55.5%、男性が53.0%、活動をしていない人は女性が42.4%、男性が45.8%となり、性別にかかわらず何らかの活動をしている人がしていない人を上回っています。活動内容をみると、女性では「趣味やスポーツに関する活動」(30.6%)が最も高く、次いで「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動」(27.5%)、「教養講座などの学習講座に参加」(13.5%)の順となっています。一方、男性では「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動」(30.2%)が最も高く、次いで「趣味やスポーツに関する活動」(26.7%)、「ボランティアなどの社会貢献活動」(12.5%)の順となっています。性別による差がみられるのは「PTAや保護者会などの学校に関する活動」(女性+6.8ポイント)、「教養講座などの学習講座に参加」(女性+5.6%)となっています。

【年齢別】

20歳代を除くすべての年齢層で、何らかの活動をしている人が過半数を超えています。活動内容をみると20歳代、30歳代、60歳代で「趣味やスポーツに関する活動」の回答割合が最も高くなっています。40歳代で最も高くなっている「PTAや保護者会などの学校に関する活動」は30歳代でも高くなっていて、特に女性では子どもに関わる活動が活発なことがわかります。「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域活動」は50歳代、70歳以上が最も高くなっているものの、20歳代では5.8%と非常に低くなっています。また「特に活動していない」との回答割合が20歳代では64.4%と過半数以上を占めており、他の年齢層でも比較的高くなっています。

さらに性・年齢別でみると、60歳代の女性が「趣味やスポーツに関する活動」「教養講座などの学習講座に参加」の割合が高く、子育てを終えた世代の女性の活動が盛んであることがうかがえる一方、20歳代の女性は「特に活動していない」が7割を超えています。

【地域別】

香良洲地域、安濃地域、久居地域を除くすべての地域で「何らかの活動をしている」人が過半数を超えており、特に美里地域では75.0%と高くなっています。「自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動」では、美里地域、美杉地域、一志地域、芸濃地域などで盛んとなっています。また、河芸地域では他の地域に比べ「ボランティアなどの社会貢献活動」が22.6%と高くなっています。

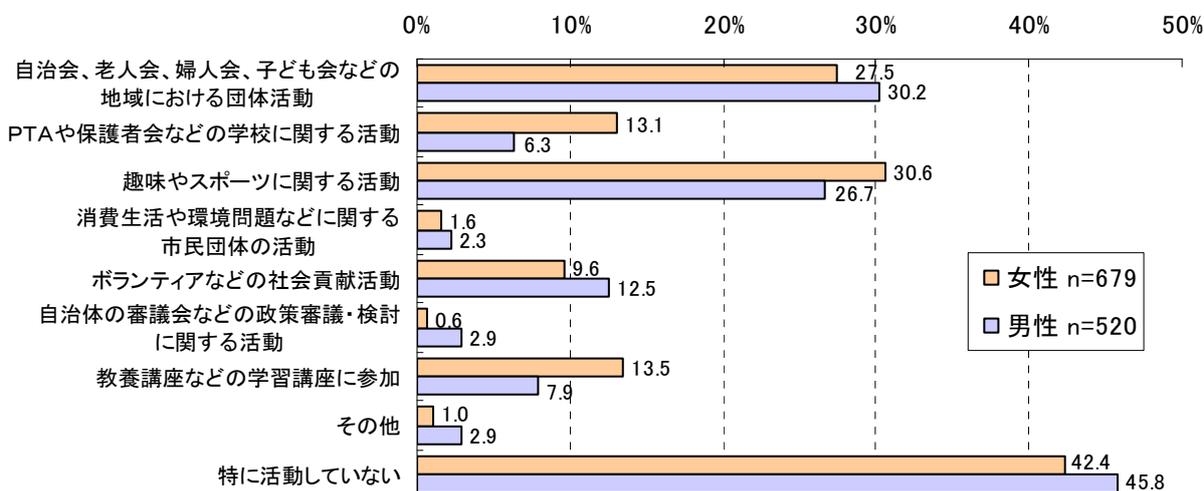
表16 現在参加している社会活動(複数回答)

(%)

		該当者数 (人)	自治会、老人会、 婦人会、子ども会、 などの地域に おける団体活動	PTAや保護者会 などの学校に 関する活動	趣味やスポーツに 関する活動	消費生活や環境 問題などに関する 市民団体の活動	ボランティア などの 社会貢献活動	自治体の審議会 などの政策審議・ 検討に関する活動	教養講座などの 学習講座に参加	その他	活動して いない 特に	不明		
全体		1,226	28.9	10.0	28.7	2.0	11.0	1.5	11.1	2.1	43.6	2.0		
性	女性	679	27.5	13.1	30.6	1.6	9.6	0.6	13.5	1.0	42.4	2.1		
	男性	520	30.2	6.3	26.7	2.3	12.5	2.9	7.9	2.9	45.8	1.2		
年齢	20歳代	104	5.8	4.8	26.9	1.0	1.9	0.0	2.9	1.0	64.4	1.0		
	30歳代	171	26.9	27.5	27.5	1.2	5.3	0.6	7.6	1.2	43.9	1.2		
	40歳代	168	26.8	31.5	29.2	0.6	9.5	1.2	8.9	2.4	37.5	0.6		
	50歳代	235	31.1	4.3	26.8	0.4	10.6	0.4	6.8	0.4	49.8	0.0		
	60歳代	258	30.2	1.9	35.7	3.9	16.3	3.1	18.6	2.3	37.2	1.6		
	70歳以上	264	36.7	0.8	25.8	3.0	13.6	2.7	14.0	3.0	41.3	4.5		
性×年齢	女性	20歳代	57	1.8	5.3	21.1	1.8	0.0	0.0	5.3	1.8	71.9	0.0	
		30歳代	110	29.1	37.3	29.1	0.0	5.5	0.0	8.2	0.0	37.3	0.9	
		40歳代	101	28.7	33.7	32.7	0.0	10.9	1.0	12.9	1.0	30.7	1.0	
		50歳代	137	27.7	4.4	30.7	0.0	8.0	0.0	8.8	0.0	51.8	0.0	
		60歳代	150	30.7	2.0	40.7	4.0	14.7	1.3	24.0	1.3	33.3	1.3	
		70歳以上	123	33.3	1.6	22.8	3.3	12.2	0.8	14.6	2.4	43.9	8.1	
	男性	20歳代	47	10.6	4.3	34.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	55.3	2.1	
		30歳代	61	23.0	9.8	24.6	3.3	4.9	1.6	6.6	3.3	55.7	1.6	
		40歳代	67	23.9	28.4	23.9	1.5	7.5	1.5	3.0	4.5	47.8	0.0	
		50歳代	98	35.7	4.1	21.4	1.0	14.3	1.0	4.1	1.0	46.9	0.0	
		60歳代	108	29.6	1.9	28.7	3.7	18.5	5.6	11.1	3.7	42.6	1.9	
		70歳以上	139	39.6	0.0	28.8	2.9	15.1	4.3	13.7	3.6	38.8	1.4	
		地域	津	701	27.0	10.0	30.4	2.0	10.6	0.9	12.1	2.1	43.2	2.1
			久居	145	20.0	11.0	24.1	1.4	9.0	4.1	15.2	2.1	48.3	2.1
河芸	62		29.0	11.3	29.0	1.6	22.6	0.0	4.8	3.2	37.1	0.0		
芸濃	34		38.2	11.8	29.4	2.9	14.7	0.0	11.8	2.9	41.2	0.0		
美里	32		50.0	15.6	18.8	9.4	12.5	3.1	9.4	6.3	25.0	0.0		
安濃	50		32.0	8.0	30.0	0.0	8.0	0.0	6.0	0.0	50.0	2.0		
香良洲	40		22.5	7.5	15.0	0.0	15.0	0.0	5.0	0.0	62.5	2.5		
一志	56		39.3	7.1	26.8	1.8	7.1	3.6	14.3	3.6	42.9	1.8		
白山	47		34.0	8.5	36.2	2.1	6.4	4.3	8.5	0.0	40.4	2.1		
美杉	44		43.2	11.4	27.3	2.3	13.6	2.3	4.5	0.0	43.2	2.3		

注: は30%以上

図16 現在参加している社会活動(複数回答)



【問17】 ※【問16】で「9. 特に活動していない」とお答えの方におたずねします。活動していない一番の理由は何ですか。(〇は1つ)

「特に理由はない」が27.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しいから」(20.9%)、「やりたいと思う活動が身近にないから」(9.5%)となっています。前回調査(旧津市・平成14年)では、「仕事が忙しい」(34.1%)、「やりたいと思う活動が身近にない」(19.0%)、「特に理由はない」(18.4%)となっています。今回の調査では、「特に理由はない」が8.9ポイント高くなっており、意識づけや参加機会の提供が今後のさらなる課題といえます。一方で「仕事が忙しいから」(-13.2ポイント)、「やりたいと思う活動が身近にないから」(-9.5ポイント)などは減少しています。

【性別】

女性は「特に理由はない」(24.0%)が最も高く、次いで「仕事が忙しいから」(19.8%)、「家事・育児・介護などが忙しいから」(10.2%)となっています。男性は「特に理由はない」が30.4%と最も高く、次いで「仕事が忙しいから」(22.5%)、「やりたいと思う活動が身近にないから」(8.8%)となっており、男女ともに「特に理由はない」「仕事が忙しいから」を活動しない理由として多くあげています。また、女性では「家事・育児・介護などが忙しいから」が男性に比べ9.8ポイント高く、性別による差がみられます。

【年齢別】

30歳代、40歳代、50歳代では「仕事が忙しいから」の回答割合が最も高く、特に40歳代では39.7%と目立って高くなっています。60歳代、70歳以上では「特に理由はない」が最も高く、20歳代では「仕事が忙しいから」と「特に理由はない」が同値(29.9%)となっています。30歳代では、「やりたいと思う活動が身近にないから」(18.7%)、「家事・育児・介護などが忙しいから」(17.3%)が他の年齢層に比べ10ポイント前後高くなっています。

性・年齢別にみると、40歳代の男性で「仕事が忙しいから」が56.3%と特に高く、20歳代の女性でも比較的高くなっています。「家事・育児・介護などが忙しいから」は30歳代の女性で特に高くなっていますが、男性においてはほとんどみられません。また、「特に理由はない」が60歳以上の男性、70歳以上の女性で多いほか、20歳代の男性でも多いのが特徴です。

その他の意見として、50歳代で病気等の健康上の理由、70歳以上で高齢だからとの理由が目立っています。

【地域別】

芸濃地域と安濃地域では「仕事が忙しいから」、それ以外の地域では「特に理由はない」が最も高くなっており、香良洲地域では「仕事が忙しいから」「特に理由はない」が同値で高くなっています。

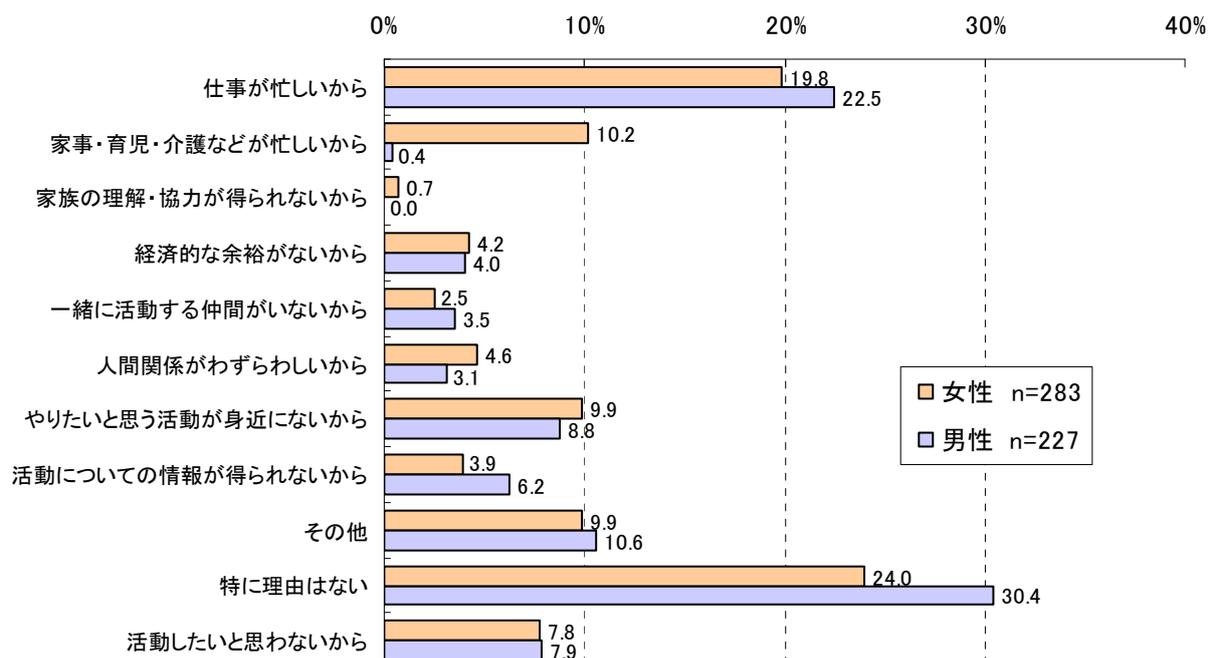
表17 社会活動に参加していない理由(複数回答)

(%)

		該当者数 (人)	仕事が忙しいから	家事・育児・介護 などが忙しいから	家族の理解・協力が 得られないから	経済的な余裕が ないから	一緒に活動する 仲間がいないから	人間関係が わずらわしいから	やりたいと思う活動が 身近にないから	活動についての情報が 得られないから	その他	特に理由はない	活動したいと 思わないから	不明	
全体		517	20.9	5.8	0.4	4.1	2.9	3.9	9.5	4.8	10.1	27.3	7.7	2.7	
性	女性	283	19.8	10.2	0.7	4.2	2.5	4.6	9.9	3.9	9.9	24.0	7.8	2.5	
	男性	227	22.5	0.4	0.0	4.0	3.5	3.1	8.8	6.2	10.6	30.4	7.9	2.6	
年齢	20歳代	67	29.9	1.5	0.0	4.5	3.0	0.0	6.0	10.4	6.0	29.9	9.0	0.0	
	30歳代	75	21.3	17.3	0.0	4.0	2.7	4.0	18.7	5.3	1.3	17.3	8.0	0.0	
	40歳代	63	39.7	4.8	1.6	3.2	6.3	3.2	9.5	1.6	1.6	20.6	6.3	1.6	
	50歳代	114	27.2	4.4	0.0	5.3	3.5	4.4	7.9	7.0	7.9	24.6	7.0	0.9	
	60歳代	89	15.7	5.6	1.1	4.5	2.2	4.5	7.9	3.4	13.5	33.7	4.5	3.4	
	70歳以上	103	1.0	2.9	0.0	2.9	1.0	5.8	7.8	1.9	24.3	33.0	11.7	7.8	
	性×年齢	女性	20歳代	41	36.6	2.4	0.0	2.4	4.9	0.0	4.9	12.2	4.9	24.4	7.3
	30歳代	41	14.6	31.7	0.0	2.4	0.0	4.9	14.6	7.3	0.0	17.1	7.3	0.0	
	40歳代	31	22.6	9.7	3.2	3.2	6.5	6.5	16.1	0.0	3.2	19.4	6.5	3.2	
	50歳代	68	26.5	7.4	0.0	5.9	2.9	5.9	7.4	1.5	8.8	25.0	8.8	0.0	
	60歳代	49	18.4	10.2	2.0	6.1	2.0	2.0	12.2	4.1	8.2	24.5	6.1	4.1	
	70歳以上	53	1.9	3.8	0.0	3.8	0.0	7.5	7.5	0.0	28.3	30.2	9.4	7.5	
	男性	20歳代	26	19.2	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	38.5	11.5	0.0	
	30歳代	34	29.4	0.0	0.0	5.9	5.9	2.9	23.5	2.9	2.9	17.6	8.8	0.0	
	40歳代	32	56.3	0.0	0.0	3.1	6.3	0.0	3.1	3.1	0.0	21.9	6.3	0.0	
	50歳代	46	28.3	0.0	0.0	4.3	4.3	2.2	8.7	15.2	6.5	23.9	4.3	2.2	
	60歳代	40	12.5	0.0	0.0	2.5	2.5	7.5	2.5	2.5	20.0	45.0	2.5	2.5	
	70歳以上	49	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	4.1	8.2	4.1	20.4	34.7	14.3	8.2	
地域	津	292	21.9	5.5	0.3	4.5	3.1	3.8	11.6	5.1	9.2	25.7	6.8	2.4	
	久居	68	14.7	4.4	0.0	4.4	1.5	2.9	8.8	7.4	8.8	25.0	16.2	5.9	
	河芸	23	8.7	13.0	0.0	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0	13.0	43.5	4.3	4.3	
	芸濃	13	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0	
	美里	8	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	37.5	0.0	0.0	
	安濃	25	36.0	0.0	0.0	8.0	0.0	4.0	4.0	0.0	28.0	16.0	4.0	0.0	
	香良洲	25	24.0	0.0	0.0	4.0	4.0	12.0	8.0	8.0	4.0	24.0	8.0	4.0	
	一志	22	22.7	18.2	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	4.5	0.0	36.4	9.1	0.0	
	白山	19	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	21.1	36.8	5.3	5.3	
美杉	17	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	0.0	17.6	41.2	0.0	0.0		

注: は30%以上

図17 社会活動に参加していない理由(複数回答)



【問 18】「男性はもっと地域活動や家庭活動（家事や子育て、介護など）に参加する必要がある」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

「そう思う」（61.7%）の回答割合が過半数を超えていますが、「どちらともいえない」も27.3%となっています。参加することに否定的な「そう思わない」が3.9%、また「わからない」も3.8%となっています。

【性別】

男女ともに「そう思う」の回答割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」「そう思わない」の順となっています。「そう思う」は、女性が66.9%と男性56.0%に比べ10.9ポイント高く、男性の地域活動、家庭生活への参加を求める声が高くなっています。一方、「どちらともいえない」（男性+9.6ポイント）、「そう思わない」（男性+1.4ポイント）は男性が高く、性別による意識の差がうかがえます。

【年齢別】

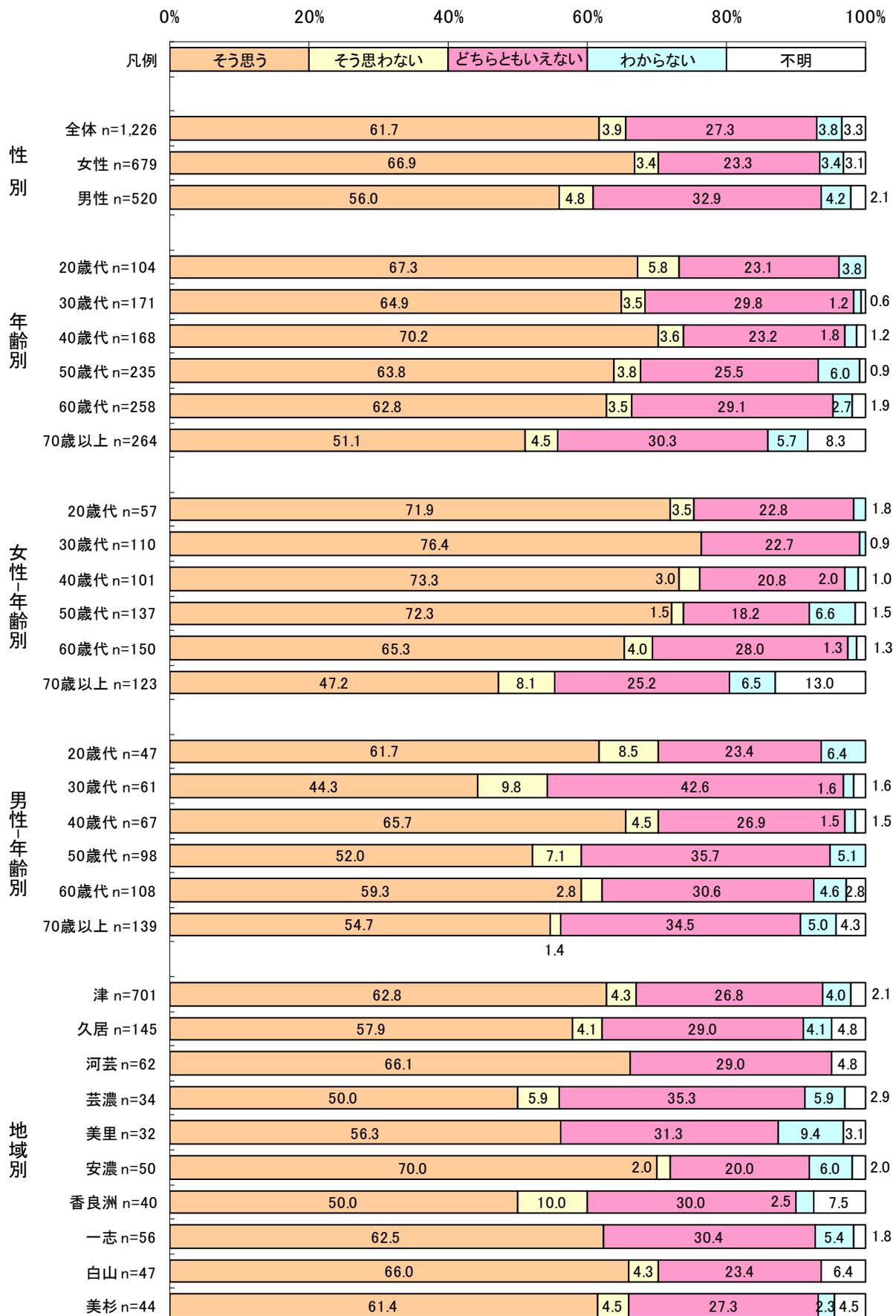
いずれの年齢層も「そう思う」が最も高くなっています。特に40歳代では70.2%と高くなっている他、70歳以上を除くいずれの年齢層でも6割を超えています。一方、70歳以上では51.1%と他の年齢層に比べ低くなっています。これは、【問16】でみられるように、自治会、老人会、婦人会等の地域活動等に積極的に参加していることから、もっと参加すべきとの意識がそれほど高くならなかったためと考えられます。

性・年齢別にみると、20歳代から50歳代の女性で「そう思う」が70%以上となっています。一方、30歳代の男性は44.3%と低く、「どちらともいえない」（42.6%）と同程度となっています。

【地域別】

いずれの地域も「そう思う」が過半数以上で最も高くなっています。特に安濃地域70.0%、河芸地域66.1%、白山地域66.0%でやや高くなっています。一方、「そう思う」が最も低い香良洲地域、芸濃地域ではいずれも50.0%となっており、香良洲地域では、「そう思わない」の回答割合も10.0%と他の地域に比べやや高く、芸濃地域では「どちらともいえない」（35.3%）がやや高くなっています。

図18 男性の地域活動や家庭活動への参画



【問19】 ※【問18】で「1. そう思う」とお答えの方におたずねします。男性の地域活動や家庭活動（家事や子育て、介護など）への参画を進めるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が52.1%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」（40.9%）、「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと」（37.3%）の順となっています。

【性別】

男女ともに「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっており、女性が54.8%と男性の47.8%を7.0ポイント上回っています。次いで、女性は「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと」（41.2%）、「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」（39.9%）となっているのに対し、男性は「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」（43.3%）、「男性が育児・介護休業を取ることを、職場で奨励する」（35.7%）となっています。

また、性別による差が大きいのは「男女の役割を決めつけるような子どもの育て方をしない」（女性+15.1ポイント）、「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと」（女性+10.6ポイント）となっています。

【年齢別】

30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高く、特に70歳以上で71.1%と高くなっています。一方、20歳代と40歳代では「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」が最も高く、働き方の変革を求める声が高くなっています。また、20歳代、30歳代では、「男性が育児・介護休業を取ることを、職場で奨励する」が他の年齢層に比べ高く、子どもを育てる若い世代が職場での職場環境の見直しを求めていることがうかがえます。

性・年齢別でみると、40歳代以下の男性で、「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」が60%以上と高くなっています。また70歳以上の男性と60歳以上の女性で「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が高くなっています。

【未既婚別】

「結婚している」「離婚・死別した」では、「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高く、「結婚していない」では、「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」が最も高くなっています。また、「結婚していない」では、「男性が育児・介護休業を取ることを、職場で奨励する」「男性どうしの地域でのネットワークづくり」が、「結婚している」「離婚・死別した」に比べ高くなっているのが特徴です。

【地域別】

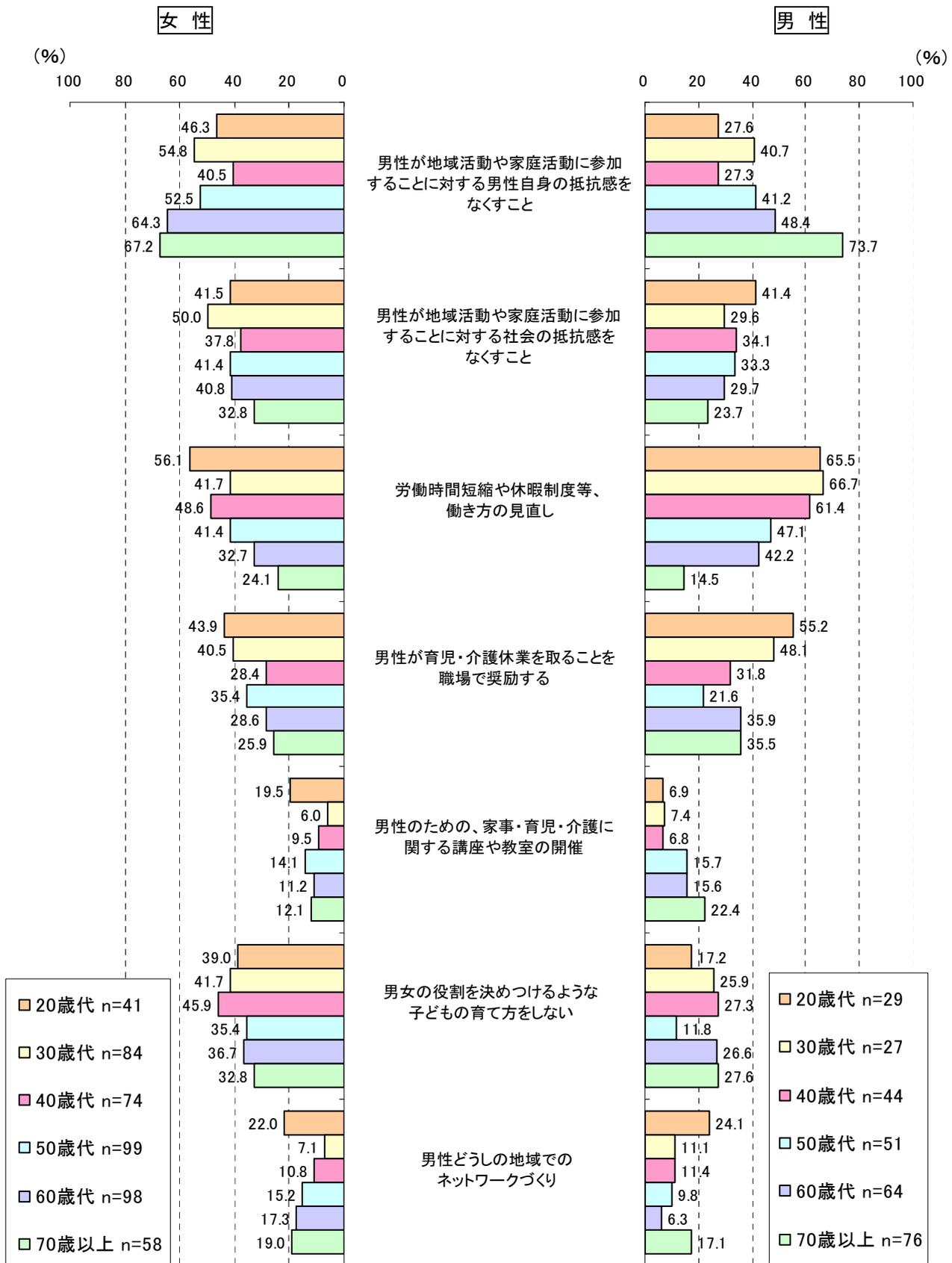
芸濃地域、白山地域、美杉地域以外では、「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっています。芸濃地域では、「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」「男性が育児・介護休業を取ることを、職場で奨励する」（いずれも 58.8%）、白山地域では「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと」「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」（いずれも 41.9%）、美杉地域では「男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと」（48.1%）が高くなっています。

表19 男性の地域活動や家庭活動への参画のために必要なこと(複数回答) (%)

		該当者数(人)	男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすこと	労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し	男性が育児・介護休業をすることを、職場で奨励すること	男性のための、家事・育児・介護に関する講座や教室の開催	男女の役割を決めつけるような子どもの育て方をしない	男性どうしの地域でのネットワークづくり	その他	不明
全体		756	52.1	37.3	40.9	34.0	12.7	32.5	13.6	1.9	1.2
性	女性	454	54.8	41.2	39.9	33.3	11.5	38.5	14.5	1.1	1.3
	男性	291	47.8	30.6	43.3	35.7	14.4	23.4	12.7	3.1	0.7
年齢	20歳代	70	38.6	41.4	60.0	48.6	14.3	30.0	22.9	0.0	1.4
	30歳代	111	51.4	45.0	47.7	42.3	6.3	37.8	8.1	1.8	0.9
	40歳代	118	35.6	36.4	53.4	29.7	8.5	39.0	11.0	0.8	1.7
	50歳代	150	48.7	38.7	43.3	30.7	14.7	27.3	13.3	2.0	0.0
	60歳代	162	58.0	36.4	36.4	31.5	13.0	32.7	13.0	3.7	1.9
	70歳以上	135	71.1	28.1	18.5	31.9	17.8	29.6	17.8	1.5	0.7
未既婚	結婚している	595	51.8	37.1	39.7	31.8	12.8	32.4	12.4	2.4	1.2
	離婚・死別した	71	56.3	38.0	36.6	38.0	9.9	38.0	14.1	0.0	2.8
	結婚していない	83	48.2	39.8	54.2	45.8	15.7	28.9	21.7	0.0	0.0
地域	津	440	51.6	37.7	43.6	35.5	12.5	30.9	15.9	2.0	1.1
	久居	84	58.3	38.1	33.3	33.3	16.7	39.3	10.7	1.2	1.2
	河芸	41	53.7	41.5	41.5	34.1	14.6	31.7	12.2	2.4	0.0
	芸濃	17	41.2	29.4	58.8	58.8	5.9	23.5	11.8	0.0	0.0
	美里	18	61.1	27.8	27.8	44.4	11.1	44.4	16.7	0.0	0.0
	安濃	35	57.1	25.7	28.6	14.3	14.3	31.4	5.7	0.0	0.0
	香良洲	20	65.0	40.0	20.0	25.0	5.0	40.0	10.0	0.0	5.0
	一志	35	51.4	31.4	48.6	22.9	8.6	34.3	8.6	0.0	2.9
	白山	31	35.5	41.9	41.9	35.5	19.4	35.5	9.7	6.5	0.0
	美杉	27	37.0	48.1	40.7	33.3	7.4	25.9	7.4	3.7	3.7

注: 52.1 は50%以上

図19 男性の地域活動や家庭活動への参画のために必要なこと(複数回答)－性・年齢別



7. 政策・方針決定の場への参画について

【問20】自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどうしますか。(○は1つ)

「断る、または、断ることをすすめる」(55.3%)が「引き受ける、または、引き受けることをすすめる」(37.4%)を17.9ポイント上回っています。

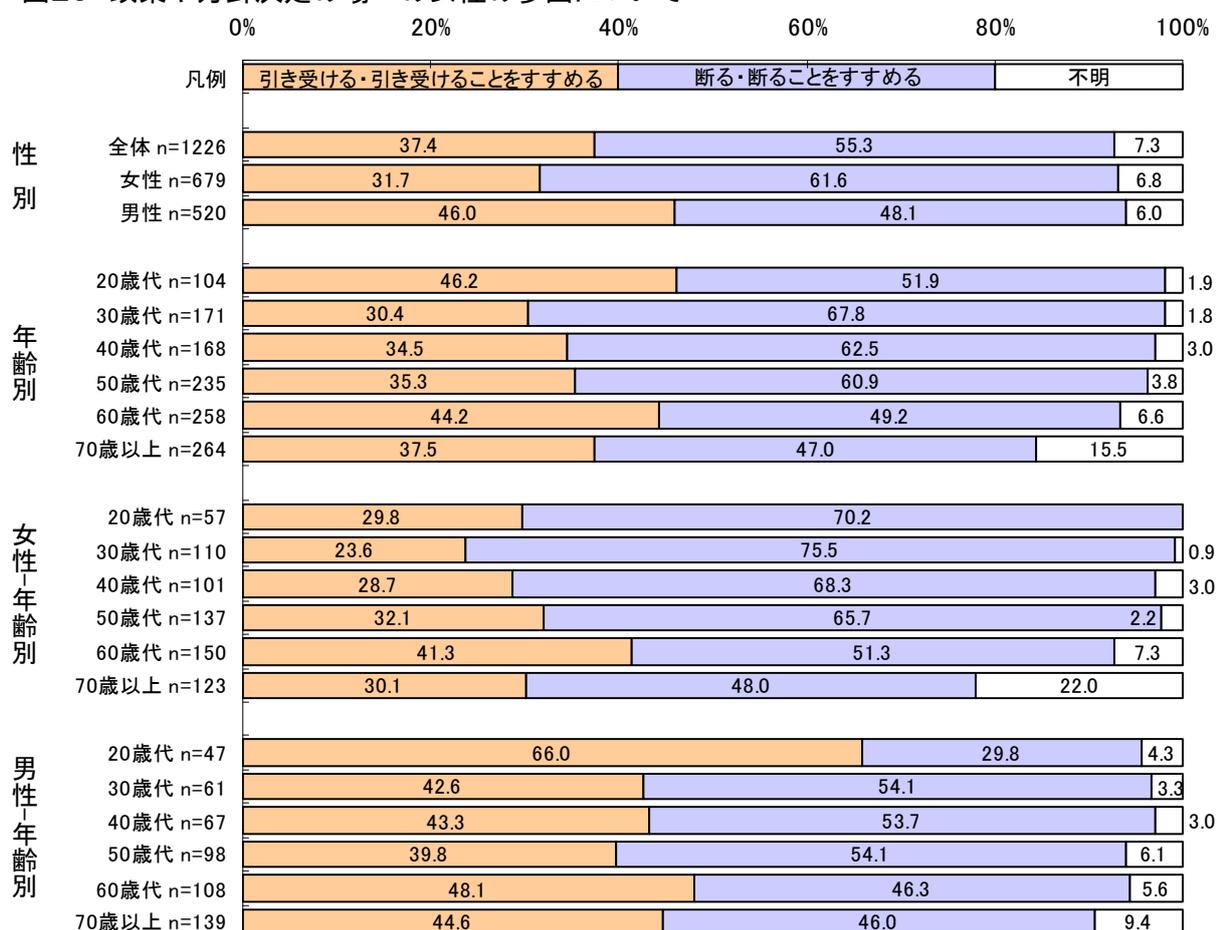
【性別・年齢別】

性別では、「引き受ける、または、引き受けることをすすめる」(女性31.7%、男性46.0%)、「断る、または、断ることをすすめる」(女性61.6%、男性48.1%)となっており、女性自身の方が、断る、または断ることをすすめる割合が高くなっています。

年齢別では、いずれの年齢層でも「断る、または、断ることをすすめる」が高く、特に30歳代が67.8%と最も高くなっています。一方、60歳代は49.2%、70歳以上は47.0%と、他の年齢層に比べ低くなっています。

性・年齢別にみると、20歳代、30歳代の女性では「断る、または、断ることをすすめる」が70%以上と高くなっているのに対し、20歳代の男性では29.8%と極めて低くなっています。また30歳代以上でみると男性は年齢による大きな差はみられませんが、女性は年齢層が低くなるにつれ、「断る、または、断ることをすすめる」が高くなる傾向にあります。

図20 政策や方針決定の場への女性の参画について



【問21】 ※【問20】で「2. 断る、または、断ることをすすめる」とお答えの方におたずねします。その理由に最も近いものを選んでください。(○は1つ)

「家事、育児、介護に支障が出るから」が24.9%と最も高く、次いで「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」(17.4%)、「男性が多数を占める組織に入ることに抵抗を感じるから」(11.5%)となっています。

【性別】

男女ともに「家事、育児、介護に支障が出るから」が最も高く、次いで「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」となっています。性別による差がみられるのは、「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」(男性+6.3ポイント)、「家族の支援、協力が得られないから」(女性が+6.2ポイント)、「男性が多数を占める組織に入ることに抵抗を感じるから」(女性+2.6ポイント)となっています。

【年齢別】

50歳代を除くいずれの年齢層も、「家事、育児、介護に支障が出るから」が最も高くなっており、特に40歳代以下で高くなっています。50歳代では、「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」が最も高くなっています。50歳代以上では、40歳代以下に比べ「女性は経験が少ないから」の割合がやや高くなっています。

性・年齢別にみると、20歳代から40歳代の女性で30%以上、20歳代、30歳代の男性で40%以上が「家事、育児、介護に支障が出るから」としています。また20歳代と50歳代の男性で「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」が高くなっています。

表21 政策や方針決定の場への参画を女性が断る、または女性に断ることをすすめる理由 (%)

		該当者数(人)	男性が多数を占める組織に入ることから抵抗を感じるから	活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから	活動外の付き合いがわずらわしいから	女性が役職につき、家族や近所の人から快く思わないから	女性が役職につき、あなたが快く思わないから	女性は経験が少ないから	家族の支援、協力が得られないから	家事、育児、介護に支障が出るから	その他	不明	
全体		678	11.5	17.4	10.5	2.2	1.8	6.0	6.3	24.9	18.6	0.7	
性	女性	418	12.2	15.3	9.8	1.9	1.7	5.7	8.6	25.6	18.2	1.0	
	男性	250	9.6	21.6	12.0	2.8	2.0	6.4	2.4	24.0	19.2	0.0	
年齢	20歳代	54	7.4	20.4	9.3	5.6	0.0	1.9	1.9	33.3	18.5	1.9	
	30歳代	116	9.5	14.7	16.4	0.9	0.9	1.7	2.6	34.5	18.1	0.9	
	40歳代	105	11.4	19.0	5.7	2.9	1.0	1.9	5.7	34.3	18.1	0.0	
	50歳代	143	13.3	25.9	7.0	1.4	2.8	6.3	7.7	17.5	18.2	0.0	
	60歳代	127	9.4	17.3	12.6	2.4	2.4	11.0	11.0	19.7	12.6	1.6	
	70歳以上	124	13.7	8.9	12.1	2.4	2.4	10.5	5.6	18.5	25.8	0.0	
性×年齢	女性	20歳代	40	10.0	15.0	10.0	7.5	0.0	2.5	2.5	30.0	20.0	2.5
		30歳代	83	9.6	14.5	15.7	1.2	1.2	2.4	3.6	31.3	19.3	1.2
		40歳代	69	13.0	17.4	7.2	1.4	1.4	0.0	7.2	37.7	14.5	0.0
		50歳代	90	15.6	21.1	6.7	0.0	2.2	7.8	11.1	16.7	18.9	0.0
		60歳代	77	13.0	13.0	9.1	2.6	2.6	10.4	15.6	20.8	10.4	2.6
		70歳以上	59	10.2	8.5	10.2	1.7	1.7	10.2	8.5	20.3	28.8	0.0
	男性	20歳代	14	0.0	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0
		30歳代	33	9.1	15.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	42.4	15.2	0.0
		40歳代	36	8.3	22.2	2.8	5.6	0.0	5.6	2.8	27.8	25.0	0.0
		50歳代	53	9.4	34.0	7.5	3.8	3.8	3.8	1.9	18.9	17.0	0.0
		60歳代	50	4.0	24.0	18.0	2.0	2.0	12.0	4.0	18.0	16.0	0.0
		70歳以上	64	17.2	9.4	14.1	3.1	3.1	9.4	3.1	17.2	23.4	0.0

注: は30%以上

8. ドメスティック・バイオレンスについて

【問 2 2】 あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい関係にある人から、次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

質問項目①～⑪の暴力を次の5つに分類して分析していきます。

- | | |
|---------|---|
| 「身体的暴力」 | ①ものを投げつけたり、叩いたりする
④殴るふりをして、おどす
⑤包丁などでおどす |
| 「精神的暴力」 | ②何を言っても無視する
③大切にしているものを、わざと壊したり、捨てたりする |
| 「性的暴力」 | ⑥避妊に協力しない
⑦意に反して性的な行為を強要する
⑧見たくないのにアダルトビデオやアダルト雑誌を見せる |
| 「社会的暴力」 | ⑨外出を制限する
⑩交友関係や電話を細かく監視する |
| 「経済的暴力」 | ⑪「誰のおかげで食べていけるのか」という |

11項目のうち、1項目でも「被害経験あり」と答えた人の割合をみると40.1%となり、約4割の人が暴力の被害経験があると答えています。暴力の種類別では、「精神的暴力」(23.7%)、「身体的暴力」(22.9%)が高くなっています。

【性別】

女性46.8%、男性32.5%が、暴力を受けた経験があると答えています。

暴力の種類別にみると、女性は「身体的暴力」(28.1%)、「精神的暴力」(25.8%)、男性は「精神的暴力」(21.5%)、「身体的暴力」(16.7%)の順となっています。女性は男性に比べ、「身体的暴力」(+11.4ポイント)、「社会的暴力」「経済的暴力」(いずれも+9.7ポイント)が高くなっています。

また、暴力の内容では、女性が「ものを投げつけたり、叩いたりする」(25.3%)、「何を言っても無視する」(25.2%)がほぼ同程度で高くなっています。男性は「何を言っても無視する」(21.3%)、「ものを投げつけたり、叩いたりする」(14.4%)となっています。上記以外の項目で性別による差があるのは、「外出を制限する」(女性+10.2ポイント)、「意に反して性的な行為を強要する」(女性+9.7ポイント)となっています。

【年齢別】

「被害経験あり」の割合をみると30歳代が最も高く、次いで50歳代、40歳代で高くなっています。性・年齢別にみると30歳代女性、50歳代女性で55.5%とやや高くなっています。

また暴力の内容を性・年齢別にみると「何を言っても無視する」が50歳代、60歳代の女性の30%以上、30歳代、40歳代の女性と40歳代の男性の25%以上が、被害経験があると答

えています。また30歳代、50歳代、60歳代の女性の3割近くが「ものを投げつけたり、叩いたりする」の被害経験があると答えています。50歳代の女性では、「外出を制限する」も高くなっています。

【未既婚別】

「被害経験あり」の割合は「結婚している」(42.4%)が最も高く、「離婚・死別した」(37.0%)が次いで高くなっています。暴力の種類別でみると、「結婚している」では、「精神的暴力」(26.5%)、「身体的暴力」(24.6%)の順で高くなっているのに対し、「離婚・死別した」「結婚していない」では「身体的暴力」が最も高くなっています。

暴力の内容別でみると、「結婚している」人では「何を言っても無視する」(26.1%)、「ものを投げつけたり、叩いたりする」(21.9%)、「離婚・死別した」人では「ものを投げつけたり、叩いたりする」(19.3%)が、やや高くなっています。

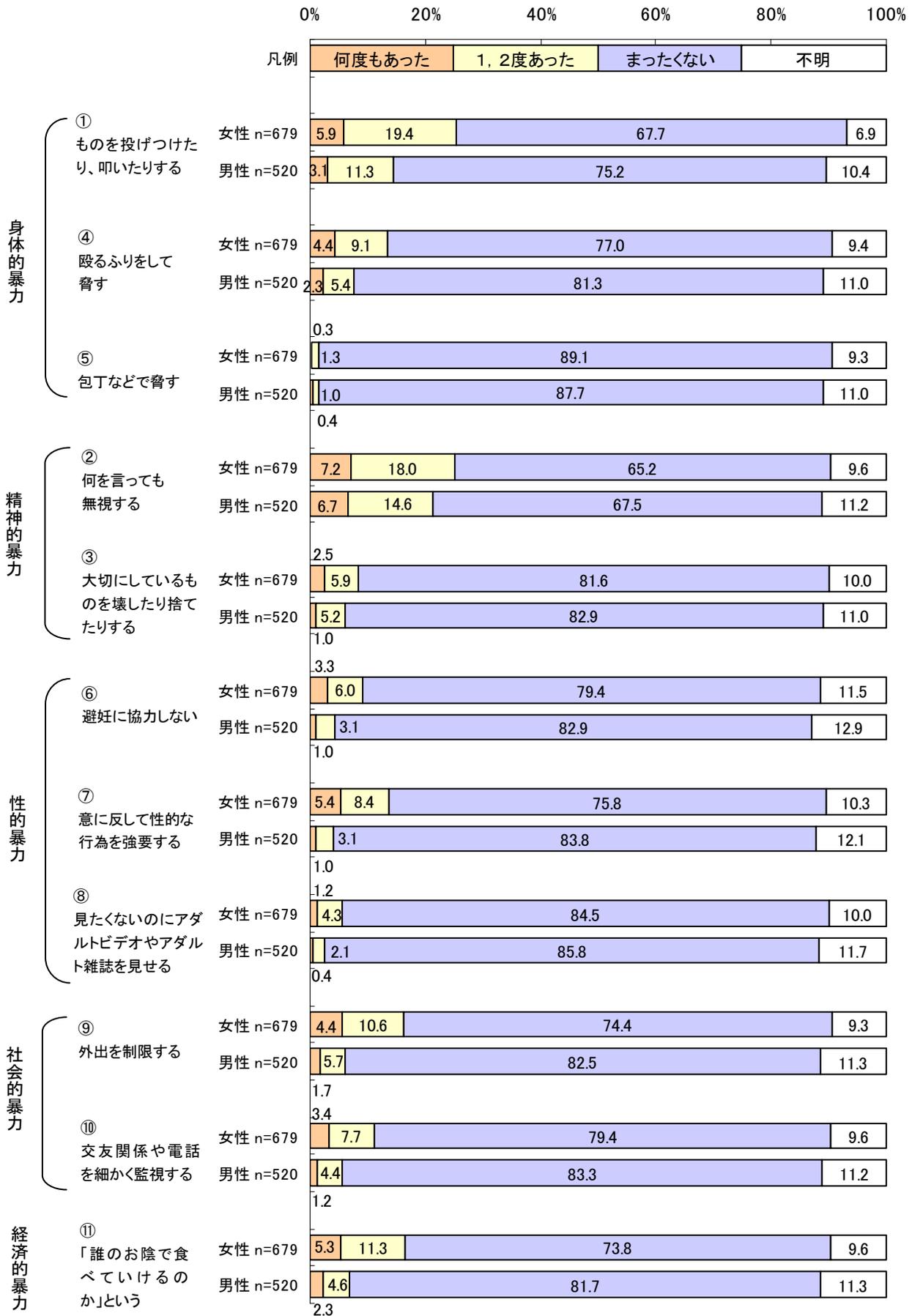
表22 ドメスティック・バイオレンスの「被害経験あり」の割合(暴力の種類別) (%)

	該当者数(人)	全体	身体的暴力			精神的暴力			性的暴力			社会的暴力		経済的暴力		その他					
			① 叩いたりする	④ 殴るふりをして、おどす	⑤ 包丁などで脅す	② 何を言っても無視する	③ 大切にしているものをわざと壊したり、捨てたりする	⑥ 避妊に協力しない	⑦ 意に反して性的な行為を強要する	⑧ 見たくないのにアダルトビデオ	⑨ 外出を制限する	⑩ 交友関係や電話を細かく監視する	⑪ 「誰のおかげで食べているのか」という								
全体	1,226	40.1	22.9	20.3	10.9	1.4	23.7	23.3	7.4	8.5	6.8	9.5	4.1	14.0	11.7	8.6	12.3	12.3	1.5		
性	女性	679	46.8	28.1	25.3	13.5	1.6	25.8	25.2	8.4	11.9	9.1	13.8	5.5	18.4	16.3	11.1	16.6	16.6	1.8	
	男性	520	32.5	16.7	14.4	7.7	1.4	21.5	21.3	6.2	4.2	4.3	4.1	2.5	8.7	6.1	5.6	6.9	6.9	1.2	
年齢	20歳代	104	37.5	19.2	16.3	14.5	2.9	18.3	18.3	9.6	10.6	10.5	9.6	2.9	13.5	8.7	11.6	9.6	9.6	2.0	
	30歳代	171	48.5	29.2	26.3	14.0	2.4	25.1	24.5	7.1	12.9	11.1	12.3	3.5	14.6	12.3	11.7	11.7	11.7	2.4	
	40歳代	168	44.6	22.0	20.3	8.4	1.8	27.4	26.8	8.9	6.5	4.8	8.4	3.0	15.5	10.7	11.3	15.4	15.4	1.2	
	50歳代	235	44.7	28.1	23.4	14.4	1.3	27.7	26.8	10.6	9.8	7.7	14.5	6.4	21.3	19.6	11.0	18.3	18.3	0.4	
	60歳代	258	41.1	24.4	22.5	11.2	1.2	27.5	27.5	5.8	7.4	5.5	6.6	6.2	12.4	11.3	6.6	12.8	12.8	1.6	
	70歳以上	264	29.9	15.9	14.4	6.1	0.8	16.3	15.9	4.6	6.4	5.4	7.2	1.9	8.7	7.6	3.8	6.4	6.4	1.9	
	性×年齢	女性	20歳代	57	35.1	14.0	14.0	10.6	1.8	15.8	15.8	12.3	14.0	14.1	15.8	5.3	12.3	8.8	12.3	10.5	10.5
30歳代			110	55.5	33.6	29.1	17.2	1.8	27.3	26.3	8.2	16.4	13.6	17.2	4.5	18.2	15.5	14.5	15.4	15.4	1.8
40歳代			101	46.5	24.8	22.8	8.9	3.0	26.7	25.8	8.0	9.9	7.0	12.9	5.0	17.8	12.9	12.9	20.8	20.8	2.0
50歳代			137	55.5	35.0	29.2	19.0	2.2	31.4	30.7	11.7	13.1	9.5	20.4	7.3	29.9	28.5	15.3	24.8	24.8	0.7
60歳代			150	47.3	30.0	28.6	14.0	0.7	31.3	31.3	6.7	10.7	7.3	8.7	7.3	16.0	15.3	7.4	16.7	16.7	2.0
70歳以上			123	35.0	22.8	21.1	9.0	0.8	15.4	14.6	5.7	8.9	6.5	9.8	2.4	12.2	11.4	5.7	8.2	8.2	2.4
男性			20歳代	47	40.4	25.5	19.2	19.1	4.2	21.3	21.3	6.4	6.4	6.4	2.1	0.0	14.9	8.5	10.6	8.5	8.5
		30歳代	61	36.1	21.3	21.4	8.2	3.2	21.3	21.3	4.9	6.6	6.5	3.2	1.6	8.2	6.5	6.5	4.9	4.9	3.2
		40歳代	67	41.8	17.9	16.4	7.5	0.0	28.4	28.4	10.4	1.5	1.5	1.5	0.0	11.9	7.5	9.0	7.5	7.5	0.0
		50歳代	98	29.6	18.4	15.3	8.2	0.0	22.4	21.4	9.2	5.1	5.1	6.1	5.1	9.2	7.1	5.1	9.2	9.2	0.0
		60歳代	108	32.4	16.7	13.9	7.4	1.9	22.2	22.2	4.7	2.8	2.8	3.7	4.6	7.4	5.6	5.5	7.4	7.4	0.9
		70歳以上	139	25.9	10.1	8.6	3.6	0.7	17.3	17.2	3.6	4.3	4.3	5.0	1.4	5.8	4.3	2.1	5.0	5.0	1.4
		未既婚	結婚している	950	42.4	24.6	21.9	11.2	1.6	26.5	26.1	8.0	8.6	6.8	9.2	4.1	14.3	12.1	8.7	13.2	13.2
離婚・死別した			119	37.0	20.2	19.3	8.4	0.0	18.5	16.8	5.9	9.2	7.6	12.6	2.5	17.6	15.2	9.2	10.1	10.1	1.7
結婚していない	140		29.3	14.3	12.2	10.7	2.1	12.1	12.1	5.7	7.1	6.5	10.0	5.7	9.3	7.2	7.9	10.0	10.0	2.8	

注1:「被害経験あり」は、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計

注2: は25%以上

図22 ドメスティック・バイオレンスの被害経験の有無(暴力の内容別)



【問23】※【問22】で、1つでも「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におたずねします。ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、あなたは誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「相談したことがある」が35.1%、「どこにも誰にも相談しなかった」が58.9%と暴力の被害経験のある人の半数以上は相談していない状況です。また「相談したことがある」の内訳をみると、「友人、知人に相談した」(22.5%)、「家族に相談した」(19.9%)の順となっていて、前回調査(旧津市・平成14年)の「家族に相談した」19.1%、「友人・知人に相談した」17.7%とは順位が入れ替わっていますが、身近な人への相談が中心となっています。

【性別】

「相談したことがある」は女性37.9%、男性27.4%、「どこにも誰にも相談しなかった」は女性57.1%、男性63.8%となっています。「相談したことがある」の内訳では、男女ともに身近な人への相談が多くなっていますが、女性が「友人、知人に相談した」(25.6%)が最も高くなっているのに対し、男性は「家族に相談した」(16.3%)が最も高くなっています。「友人、知人に相談した」(女性+11.8ポイント)、「家族に相談した」(女性+4.7ポイント)となっており、男性の方が女性に比べると相談しない傾向がうかがえます。

【年齢別】

いずれの年齢層も、「どこにも誰にも相談しなかった」が「相談したことがある」を上回っています。中でも50歳代と70歳以上で60%を超えています。40歳代では、「どこにも誰にも相談しなかった」が50.0%とやや低くなっており、「家族に相談した」が他の年齢層に比べ高く、「友人、知人に相談した」もやや高くなっています。「相談したことがある」の内訳を、性・年齢別にみると、20歳代の女性で「友人、知人に相談した」が42.9%と特に高く、30歳代、40歳代の女性、60歳代の男性でも高くなっています。また、40歳代の男性と50歳代の女性で「家族に相談した」がやや高くなっています。

表23 ドメスティック・バイオレンスの相談状況 (％)

	該当者数(人)	相談したことがある										どこにも誰にも相談しなかった	不明		
		友人、知人に相談した	家族に相談した	職場の同僚や上司に相談した	警察、弁護士、家庭裁判所に相談した	医師に相談した	人権擁護委員に相談した	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	その他に相談した					
全体	302	35.1	22.5	19.9	2.6	0.3	2.3	1.0	1.3	0.7	3.0	58.9	6.0		
性	女性	219	37.9	25.6	21.0	2.3	0.5	1.8	0.9	1.4	0.9	2.7	57.1	5.0	
	男性	80	27.4	13.8	16.3	3.8	0.0	3.8	1.3	1.3	0.0	2.5	63.8	8.8	
年齢	20歳代	25	36.0	32.0	12.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	8.0	
	30歳代	49	40.8	24.5	18.4	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	6.1	59.2	0.0	
	40歳代	46	43.5	28.3	26.1	4.3	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	50.0	6.5	
	50歳代	75	33.3	20.0	21.3	2.7	1.3	2.7	2.7	2.7	1.3	0.0	64.0	2.7	
	60歳代	63	33.4	23.8	19.0	3.2	0.0	3.2	1.6	1.6	1.6	3.2	57.1	9.5	
	70歳以上	41	24.4	9.8	17.1	0.0	0.0	4.9	0.0	0.0	0.0	4.9	63.4	12.2	
性×年齢	女性	20歳代	14	42.9	42.9	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	
		30歳代	41	43.9	29.3	19.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	56.1	0.0
		40歳代	35	45.7	31.4	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	45.7	8.6
		50歳代	60	36.7	23.3	25.0	3.3	1.7	3.3	1.7	3.3	1.7	0.0	63.3	0.0
		60歳代	46	30.5	21.7	17.4	2.2	0.0	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	56.5	13.0
		70歳以上	23	30.4	13.0	21.7	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7	60.9	8.7
	男性	20歳代	11	27.3	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.5	18.2
		30歳代	8	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	75.0	0.0
		40歳代	11	36.4	18.2	36.4	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0
		50歳代	15	20.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	66.7	13.3
	60歳代	17	41.2	29.4	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	58.8	0.0	
	70歳以上	18	16.6	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7	

注1: 背景色は25%以上

注2: 「相談したことがある」の内訳は、複数回答

【問24】 ※【問23】で、「10. どこにも誰にも相談しなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「相談するほどのことではないと思ったから」が64.6%と高い割合となっています。次いで「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」(27.4%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.3%)、「相談しても無駄だと思ったから」(23.4%)の順となっています。前回調査(旧津市・平成14年)においても「相談するほどのことでもないと思ったから」(75.8%)は、一番の理由となっていました。今回の調査では11.2ポイント低くなっています。

【性別】

男女ともに「相談するほどのことでもないと思ったから」との回答割合が最も高く、女性60.7%、男性76.5%と男性の方が15.8ポイント高くなっています。次いで女性は「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」(28.7%)、「相談しても無駄だと思ったから」(26.2%)となっているのに対し、男性が「自分にも悪いところがあると思ったから」(41.2%)、「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」(21.6%)となっています。「自分にも悪いところがあると思ったから」(男性+20.7%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(女性+16.4%、男性は0%)、「相談しても無駄だと思ったから」(女性+10.5%)などで、性別による意識の差がうかがえます。

【年齢別】

いずれの年齢層も「相談するほどのことでもないと思ったから」が最も高く、特に30歳代、70歳以上では75%を超えています。年齢別による差がみられるのは、「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」が50歳代以下の年齢層で25%以下であるのに対し、60歳代で30.6%、70歳以上で40.0%と比較的高くなっています。また30歳代では「自分にも悪いところがあると思ったから」(13.8%)が他の世代に比べ低くなっているのも特徴です。

性・年齢別にみると、40歳代、50歳代の男性で、「自分にも悪いところがあると思ったから」が50%を超えて高くなっています。また「相談するほどのことでもないと思ったから」が70歳以上の男性で91.7%と高くなっているのに対し、20歳代の女性では37.5%と非常に低くなっているのが特徴です。

表24 相談しなかった理由(複数回答)

(%)

		該当者数(人)	相談するほどのことではないと思ったから	自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談したことが分かる、よけい不当な扱いをされると思ったから	なかつたから 思い出したく なかつたから	世間体が悪いから	どこに(誰に)相談したらよいのか、わからなかったから	相談担当者の言動により、不快な思いをすると 思ったから	愛情の表現だと 思ったから	その他	不明	
全体		175	64.6	27.4	26.3	23.4	11.4	7.4	4.6	8.6	4.0	3.4	6.3	8.0	1.1	
性	女性	122	60.7	28.7	20.5	26.2	16.4	9.0	4.9	9.8	4.1	4.1	6.6	7.4	1.6	
	男性	51	76.5	21.6	41.2	15.7	0.0	3.9	3.9	5.9	2.0	2.0	5.9	9.8	0.0	
年齢	20歳代	14	50.0	21.4	35.7	35.7	7.1	14.3	7.1	0.0	7.1	14.3	21.4	14.3	0.0	
	30歳代	29	75.9	24.1	13.8	24.1	13.8	10.3	0.0	3.4	3.4	6.9	6.9	10.3	0.0	
	40歳代	23	60.9	21.7	34.8	26.1	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	4.3	0.0	
	50歳代	46	60.9	21.7	30.4	28.3	10.9	8.7	6.5	19.6	4.3	0.0	4.3	4.3	0.0	
	60歳代	36	63.9	30.6	22.2	16.7	19.4	2.8	8.3	5.6	2.8	2.8	5.6	5.6	2.8	
	70歳以上	25	76.0	40.0	28.0	12.0	8.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	16.0	4.0	
性×年齢	女性	20歳代	8	37.5	25.0	37.5	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	37.5	25.0	0.0
		30歳代	23	73.9	26.1	13.0	26.1	17.4	8.7	0.0	4.3	4.3	8.7	8.7	13.0	0.0
		40歳代	16	62.5	25.0	25.0	31.3	6.3	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0
		50歳代	36	58.3	25.0	25.0	27.8	13.9	11.1	5.6	16.7	2.8	0.0	5.6	2.8	0.0
		60歳代	26	57.7	30.8	15.4	23.1	26.9	3.8	7.7	7.7	3.8	3.8	0.0	3.8	3.8
		70歳以上	13	61.5	46.2	15.4	15.4	15.4	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7
		男性	20歳代	6	66.7	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	30歳代		6	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代		7	57.1	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
	50歳代		10	70.0	10.0	50.0	30.0	0.0	0.0	10.0	30.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	60歳代		10	80.0	30.0	40.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0
	70歳以上		12	91.7	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

注: は40%以上

9. セクシュアル・ハラスメントについて

【問25】 あなたはこれまでに、次のようなことをされたことがありますか。

(○はそれぞれ1つ)

7項目のうち1項目でも「被害経験あり」と答えた人の割合をみると、36.3%となっています。被害の種類別にみると、「結婚はまだ?」「子供はまだ?」などとプライバシーを詮索された」(以下、「プライバシーを詮索された」と表記)(19.1%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」「容姿をたびたび話題にされた」(いずれも19.0%)などとなっています。

【性別】

「被害経験あり」の割合をみると女性47.6%、男性22.5%となり、女性が男性を25.1ポイント上回っています。女性の約半数が被害を受けている状況です。女性は「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(26.8%)が最も高く、次いで「プライバシーを詮索された」(25.2%)となっています。また、「容姿をたびたび話題にされた」「職場で異性に体を触られた」「聞きたくないのに露骨な性的な話を聞かされた」も同程度で高くなっています。男性は、「プライバシーを詮索された」(12.0%)、「容姿をたびたび話題にされた」(11.8%)となっています。性別による差が大きいのは、「職場で異性に体を触られた」(女性+20.6ポイント)、「聞きたくないのに露骨な性的な話を聞かされた」(女性+18.1ポイント)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(女性+17.6ポイント)となっています。

【年齢別】

「被害経験あり」の割合は、30歳代が66.1%と最も高くなっています。次いで40歳代、20歳代の順となり、いずれも50%を超えています。40歳代以下では、「プライバシーを詮索された」「容姿をたびたび話題にされた」が上位2項目となっています。

性・年齢別にみると、「被害経験あり」は30歳代の女性が75.5%と最も高く、次いで20歳代の女性66.7%、40歳代の女性64.4%の順となり、20歳代から50歳代の女性では半数以上の女性が被害を受けています。また男性でも30歳代で49.2%、40歳代で40.3%と高くなっています。被害の種類別にみると、30歳代の女性で「プライバシーを詮索された」(53.7%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」「容姿をたびたび話題にされた」(いずれも50.0%)、「職場で異性に体を触られた」(49.1%)が高くなっています。また「プライバシーを詮索された」は20歳代、40歳代の女性、30歳代の男性でも比較的高くなっています。

【未既婚別】

「結婚していない」で、「プライバシーを詮索された」(37.8%)が特に高く、「容姿をたびたび話題にされた」(27.8%)、「職場で異性に体を触られた」「聞きたくないのに露骨な性的な話を聞かされた」(いずれも22.1%)となり、「結婚していない」の回答割合が他に比べ高くなっています。

【職業別】

非正規従業員、専業主婦・主夫で「被害経験あり」の回答割合が高く、特に「プライバシーを詮索された」「容姿をたびたび話題にされた」「職場で異性に体を触られた」「聞きたくないのに露骨な性的な話を聞かされた」「宴会などでお酌やデュエットを強要された」「容姿をたびたび話題にされた」で高くなっています。また、「プライバシーを詮索された」「容姿をたびたび話題にされた」においては、正規従業員の割合も同様に高くなっています。

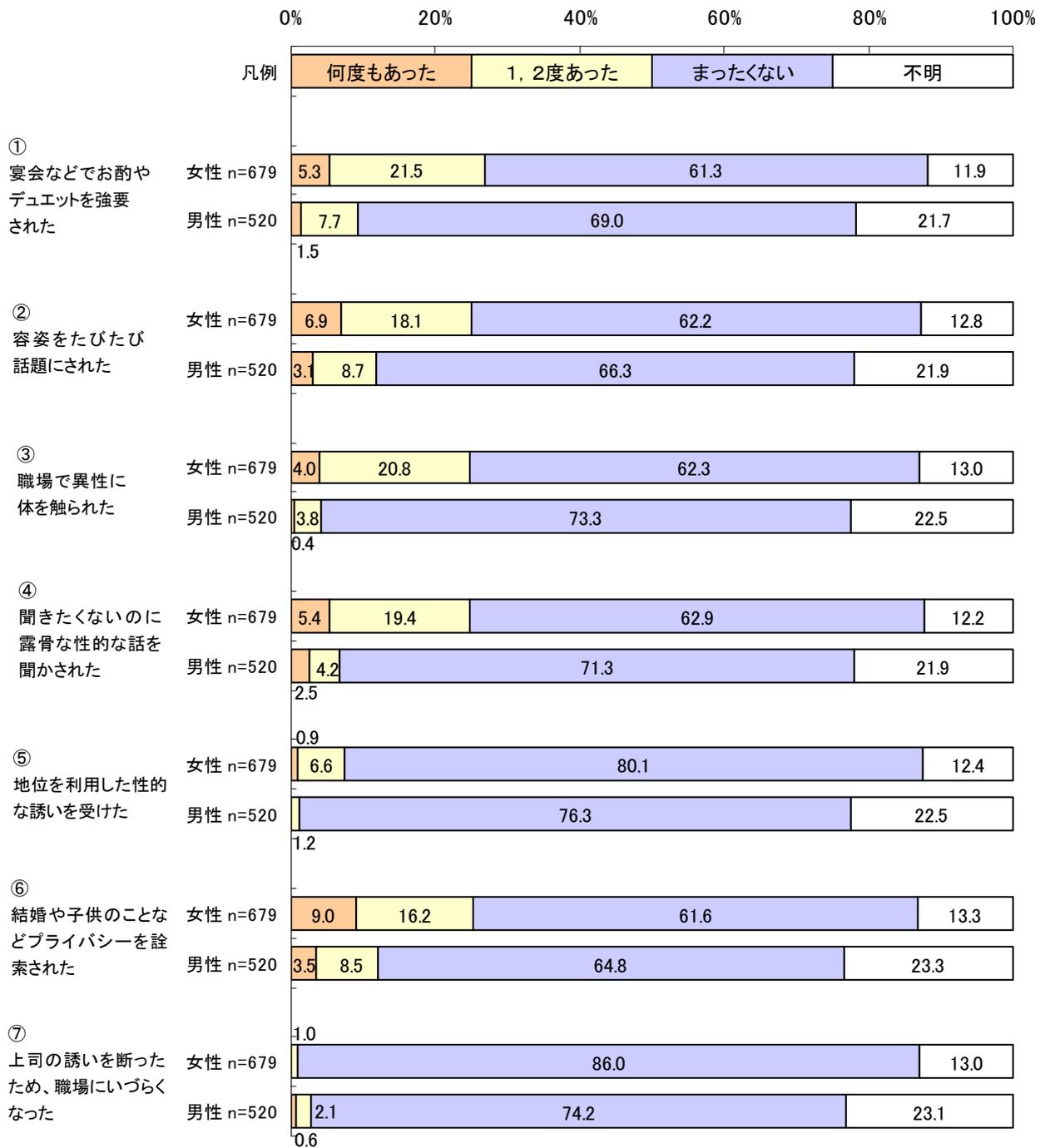
表25 セクシュアル・ハラスメントの「被害経験あり」の割合(セクシュアル・ハラスメントの種類別) (%)

		該当者数 (人)	全体	① 宴会などでお酌や デュエットを 強要された	② 容姿をたびたび 話題にされた	③ 職場で異性に 体を触られた	④ 聞きたくないのに 露骨な性的な話を 聞かされた	⑤ 地位を利用した 性的な誘いを 受けた	⑥ 「結婚はまだ？」 などプライバシーを 詮索された	⑦ 職場にいたため、 上司の誘いを 断つたため、 職場にいづらくな った	その他	
全体		1,226	36.3	19.0	19.0	15.5	16.8	4.7	19.1	1.7	0.4	
性	女性	679	47.6	26.8	25.0	24.8	24.8	7.5	25.2	1.0	0.6	
	男性	520	22.5	9.2	11.8	4.2	6.7	1.2	12.0	2.7	0.0	
年齢	20歳代	104	50.0	19.2	29.8	21.1	23.1	4.8	29.8	1.0	0.0	
	30歳代	171	66.1	36.3	42.7	33.3	25.7	6.4	47.9	2.4	0.0	
	40歳代	168	54.8	29.8	30.3	19.1	23.2	7.2	35.7	3.6	0.6	
	50歳代	235	41.3	22.2	21.3	21.7	20.9	6.4	17.9	2.6	0.4	
	60歳代	258	23.3	12.4	8.5	9.0	13.6	4.3	5.1	0.8	0.8	
	70歳以上	264	9.8	5.3	1.5	1.9	4.9	1.1	1.9	0.8	0.0	
性×年齢	女性	20歳代	57	66.7	28.1	36.9	29.8	35.1	8.8	43.9	1.8	0.0
		30歳代	110	75.5	50.0	50.0	49.1	36.4	10.0	53.7	0.9	0.0
		40歳代	101	64.4	39.6	36.6	29.7	31.7	11.9	41.6	3.0	1.0
		50歳代	137	54.7	29.9	29.2	32.1	30.6	9.5	22.6	0.7	0.7
		60歳代	150	30.0	16.0	10.0	13.3	18.7	5.3	7.4	0.0	1.4
		70歳以上	123	13.8	4.9	1.6	2.4	5.7	1.6	2.4	0.8	0.0
		男性	20歳代	47	29.8	8.5	21.3	10.7	8.5	0.0	12.8	0.0
	30歳代		61	49.2	11.5	29.6	4.9	6.6	0.0	37.7	4.9	0.0
	40歳代		67	40.3	14.9	20.9	3.0	10.5	0.0	26.9	4.5	0.0
	50歳代		98	22.4	11.3	10.2	7.1	7.2	2.0	11.2	5.1	0.0
	60歳代		108	13.9	7.4	6.5	2.8	6.5	2.8	1.9	1.9	0.0
	70歳以上		139	6.5	5.7	1.4	1.4	4.4	0.7	1.4	0.7	0.0
	未既婚		結婚している	950	35.3	19.4	18.7	14.7	16.4	4.5	17.8	1.5
		離婚・死別した	119	31.9	20.1	14.3	16.8	14.3	6.7	10.9	2.5	1.7
結婚していない		140	49.3	17.2	27.8	22.1	22.1	3.6	37.8	1.4	0.0	
職業	自営(農林漁業)	105	22.9	16.2	12.4	11.5	13.4	3.8	9.5	3.8	0.0	
	自営(商工サービス等)	76	43.4	21.1	19.8	14.4	19.8	2.6	18.4	1.3	0.0	
	会社役員・経営者	24	16.7	12.5	12.5	4.2	4.2	0.0	12.5	0.0	0.0	
	正規従業員	312	43.9	19.2	24.7	17.0	16.0	3.2	27.6	1.9	0.6	
	非正規従業員	201	49.3	27.4	26.4	25.4	24.4	8.5	24.9	2.0	0.0	
	専業主婦・主夫	192	49.0	29.7	26.6	25.6	26.0	8.3	28.6	0.5	0.5	
	内職・学生ほか	39	33.3	10.2	23.0	10.2	17.9	5.1	15.4	0.0	0.0	
	無職	263	15.2	7.9	4.6	3.8	7.2	1.9	4.2	1.6	0.4	

注1:「被害経験あり」は、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計

注2: は30%以上

図25 セクシュアル・ハラスメントの被害経験の有無



【問26】 ※【問25】で、1つでも「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あなたは誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「相談したことがある」が35.9%、「どこにも誰にも相談しなかった」が58.7%と被害を受けた人の大半は相談していない状況です。「相談したことがある」の内訳では、「友人、知人に相談した」(27.2%)が最も高く、次いで「職場の同僚に相談した」(11.7%)、「家族に相談した」(10.8%)の順となり、身近な人への相談が多くなっていることがうかがえます。

【性別】

男女ともに「どこにも誰にも相談しなかった」が半数以上を占め、男性は66.7%と女性の55.4%を11.3ポイント上回っています。

「相談したことがある」の内訳では、女性は、「友人、知人に相談した」(31.0%)、「職場の同僚に相談した」(13.3%)となっている一方、男性が「友人、知人に相談した」(17.1%)、「家族に相談した」(11.1%)となっており、男性の方が女性に比べると、身近な人、特に友人、知人に相談する割合が低いことがうかがえます。

【年齢別】

いずれの年齢層も「どこにも誰にも相談しなかった」が高く、5割以上となっています。

「相談したことがある」の内訳では、「友人、知人に相談した」がいずれの年齢層でも最も高く、20歳代では44.2%と特に高くなっています。また30歳代、40歳代では「職場の同僚に相談した」、20歳代では「家族に相談した」が他の年齢層に比べ、やや高くなっています。

また、性・年齢別にみると、20歳代の女性では「友人、知人に相談した」が52.6%と特に高く、「家族に相談した」(21.1%)も比較的高くなっています。30歳代、40歳代の女性では「職場の同僚に相談した」が他の年齢層と比べやや高く、「友人、知人に相談した」では60歳代の男性、30歳代、50歳代の女性でやや高くなっています。一方、「どこにも誰にも相談しなかった」との回答割合が、50歳代、30歳代、20歳代の男性で70%以上と高くなっています。

【職業別】

いずれの職業でも「どこにも誰にも相談しなかった」が「相談したことがある」を上回っています。「相談したことがある」の内訳では、「友人・知人に相談した」が、内職・学生・その他、専業主婦・主夫で比較的高くなっています。

表26 セクシュアル・ハラスメントの相談状況

(%)

		該当者数(人)	相談したことがある	友人、知人に相談した	家族に相談した	職場の同僚や上司に相談した	警察、弁護士、家庭裁判所に相談した	医師に相談した	人権擁護委員に相談した	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	その他に相談した	どこにも誰にも相談しなかった	不明	
全体		445	35.9	27.2	10.8	11.7	0.2	0.7	0.2	0.7	0.2	1.3	58.7	5.4	
性	女性	323	40.0	31.0	10.8	13.3	0.0	0.3	0.3	0.3	0.0	0.6	55.4	4.6	
	男性	117	25.6	17.1	11.1	7.7	0.9	1.7	0.0	0.9	0.0	2.6	66.7	7.7	
年齢	20歳代	52	48.1	44.2	17.3	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	1.9	
	30歳代	113	37.1	26.5	8.8	16.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	60.2	2.7	
	40歳代	92	37.0	22.8	10.9	16.3	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	57.6	5.4	
	50歳代	97	32.9	24.7	9.3	6.2	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	61.9	5.2	
	60歳代	60	38.4	33.3	15.0	8.3	0.0	3.3	1.7	1.7	0.0	5.0	53.3	8.3	
	70歳以上	26	11.6	7.7	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	69.2	19.2	
性×年齢	女性	20歳代	38	57.9	52.6	21.1	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.1	0.0
		30歳代	83	43.4	33.7	8.4	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.4	1.2
		40歳代	65	38.5	24.6	9.2	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.9	4.6
		50歳代	75	38.7	30.7	9.3	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.3	4.0
		60歳代	45	35.5	28.9	13.3	6.7	0.0	2.2	2.2	2.2	0.0	4.4	55.6	8.9
		70歳以上	17	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.6	23.5
	男性	20歳代	14	21.5	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	7.1
		30歳代	30	20.0	6.7	10.0	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	73.3	6.7
		40歳代	27	33.3	18.5	14.8	11.1	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	59.3	7.4
		50歳代	22	13.6	4.5	9.1	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	77.3	9.1
		60歳代	15	46.6	46.7	20.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	46.7	6.7
		70歳以上	9	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1
職業	自営(農林漁業)	24	37.5	33.3	16.7	8.3	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	45.8	16.7	
	自営(商工サービス等)	33	27.2	12.1	6.1	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	66.7	6.1	
	会社役員・経営者	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	
	正規従業員	137	31.4	25.5	8.0	11.7	0.0	0.7	0.0	1.5	0.7	0.7	63.5	5.1	
	非正規従業員	99	41.4	29.3	8.1	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	56.6	2.0	
	専業主婦・主夫	94	43.6	35.1	17.0	12.8	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	1.1	52.1	4.3	
	内職・学生ほか	13	46.1	38.5	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	7.7	
	無職	40	25.0	15.0	10.0	5.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	65.0	10.0	

注1: は50%以上

注2:「相談したことがある」の内訳は、複数回答

【問27】※【問26】で、「10. どこにも誰にも相談しなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「相談するほどのことではないと思ったから」が80.8%と突出して高くなっています。次いで「相談しても無駄だと思ったから」(14.6%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(4.2%)、「相談したことがわかると、よけい不当な扱いをされると思ったから」(3.4%)となっています。

【性別】

男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、男性の83.3%が、女性の79.3%をやや上回っています。次いで、「相談しても無駄だと思ったから」(女性15.6%、男性11.5%)となっています。また「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(女性+4.3ポイント)、「自分にも悪いところがあったから」(女性+2.2%、男性は0%)などで、やや性別による差がみられます。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっています。性・年齢別にみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が、年齢層が高くなるにつれ、割合も高くなっています。また、「自分にも悪いところがあったから」は、男性や年齢層の高い女性では皆無となっていますが、若年層の女性でややみられます。

表27 相談しなかった理由(複数回答) (%)

		該当者数(人)	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあったから	相談しても無駄だと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談したことがわかると、よけい不当な扱いをされると思ったから	どこに(誰に)相談したらよいか、わからなかったから	相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから	その他	不明	
全体		261	80.8	1.5	14.6	4.2	3.4	1.9	2.7	8.4	0.0	
性	女性	179	79.3	2.2	15.6	5.6	3.9	1.7	2.2	10.6	0.0	
	男性	78	83.3	0.0	11.5	1.3	2.6	2.6	3.8	3.8	0.0	
年齢	20歳代	26	80.8	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	15.4	0.0	
	30歳代	68	83.8	2.9	13.2	5.9	2.9	0.0	1.5	11.8	0.0	
	40歳代	53	79.2	0.0	13.2	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	0.0	
	50歳代	60	81.7	1.7	18.3	5.0	3.3	5.0	1.7	3.3	0.0	
	60歳代	32	81.3	0.0	15.6	0.0	3.1	0.0	3.1	9.4	0.0	
	70歳以上	18	66.7	0.0	27.8	11.1	5.6	0.0	5.6	16.7	0.0	
性×年齢	女性	20歳代	16	81.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0
		30歳代	46	82.6	4.3	13.0	8.7	2.2	0.0	0.0	15.2	0.0
		40歳代	37	75.7	0.0	16.2	5.4	5.4	2.7	5.4	5.4	0.0
		50歳代	43	83.7	2.3	18.6	4.7	4.7	4.7	0.0	4.7	0.0
		60歳代	25	80.0	0.0	20.0	0.0	4.0	0.0	4.0	8.0	0.0
		70歳以上	12	58.3	0.0	25.0	16.7	8.3	0.0	8.3	25.0	0.0
	男性	20歳代	10	80.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0
		30歳代	22	86.4	0.0	13.6	0.0	4.5	0.0	4.5	4.5	0.0
		40歳代	16	87.5	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
		50歳代	17	76.5	0.0	17.6	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0
		60歳代	7	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
		70歳以上	6	83.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注: は50%以上

10. 心配なことや生きがいについて

【問28】あなたにとって、特に心配なことは何ですか。(〇は3つまで)

「家族の健康のこと」が57.0%で最も高く、次いで「将来、老後のこと」(52.6%)、「自分の健康のこと」(50.0%)、「生活費など自分の家庭の経済的な問題」(22.5%)の順となっており、健康や老後への不安が特に高い割合となっています。

【性別】

男女ともに「家族の健康のこと」(女性55.1%、男性60.2%)の回答割合が最も高くなっています。女性は次いで「将来、老後のこと」(54.6%)、「自分の健康のこと」(45.1%)、男性は「自分の健康のこと」(56.3%)、「将来、老後のこと」(51.3%)の順となっています。性別による差がみられるのは、「自分の健康のこと」(男性+11.2ポイント)、「教育、しつけ、子育てなど、子どものこと」(女性+6.4ポイント)となっていますが、特に大きな差はみられません。

【年齢別】

20歳代、50歳代、60歳代では「将来、老後のこと」、30歳代、40歳代では「家族の健康のこと」が最も高く、70歳以上では「自分の健康のこと」が70.8%と最も高くなっています。また「自分の生き方について」では年齢層が低いほど、割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、「教育、しつけ、子育てなど、子どものこと」では30歳代の女性が52.7%と特に高く、40歳代の女性、30歳代の男性でも30%を超えており、子どもを抱える世代の不安がうかがえます。「生活費など自分の家庭の経済的な問題」においても30歳代の女性が42.7%と高く、20歳代、30歳代、60歳代の男性や40歳代の女性も高くなっています。また20歳代の女性では「職場の人間関係」(22.8%)が他の年齢層に比べ高く、「仕事上の問題」(10.5%)もやや高いなど職場関係の不安が大きいことがうかがえます。「仕事上の問題」では30歳代、40歳代の男性でも同様に高くなっています。「家族の健康について」は、20歳代の女性は57.9%と高くなっているのに対し、同年代の男性は31.9%と低くなっており、性別による差がみられます。また70歳以上の男性で健康に関する不安が特に高くなっています。

【未既婚別】

「結婚している」では、「家族の健康のこと」(64.0%)が、「離婚・死別した」「結婚していない」と比べて特に高くなっています。「結婚していない」では「将来、老後のこと」(57.1%)が最も高く、「結婚している」「離婚・死別した」と比べると「自分の生き方について」(35.7%)が高くなっています。「離婚・死別した」では「自分の健康のこと」(58.8%)が最も高くなっています。

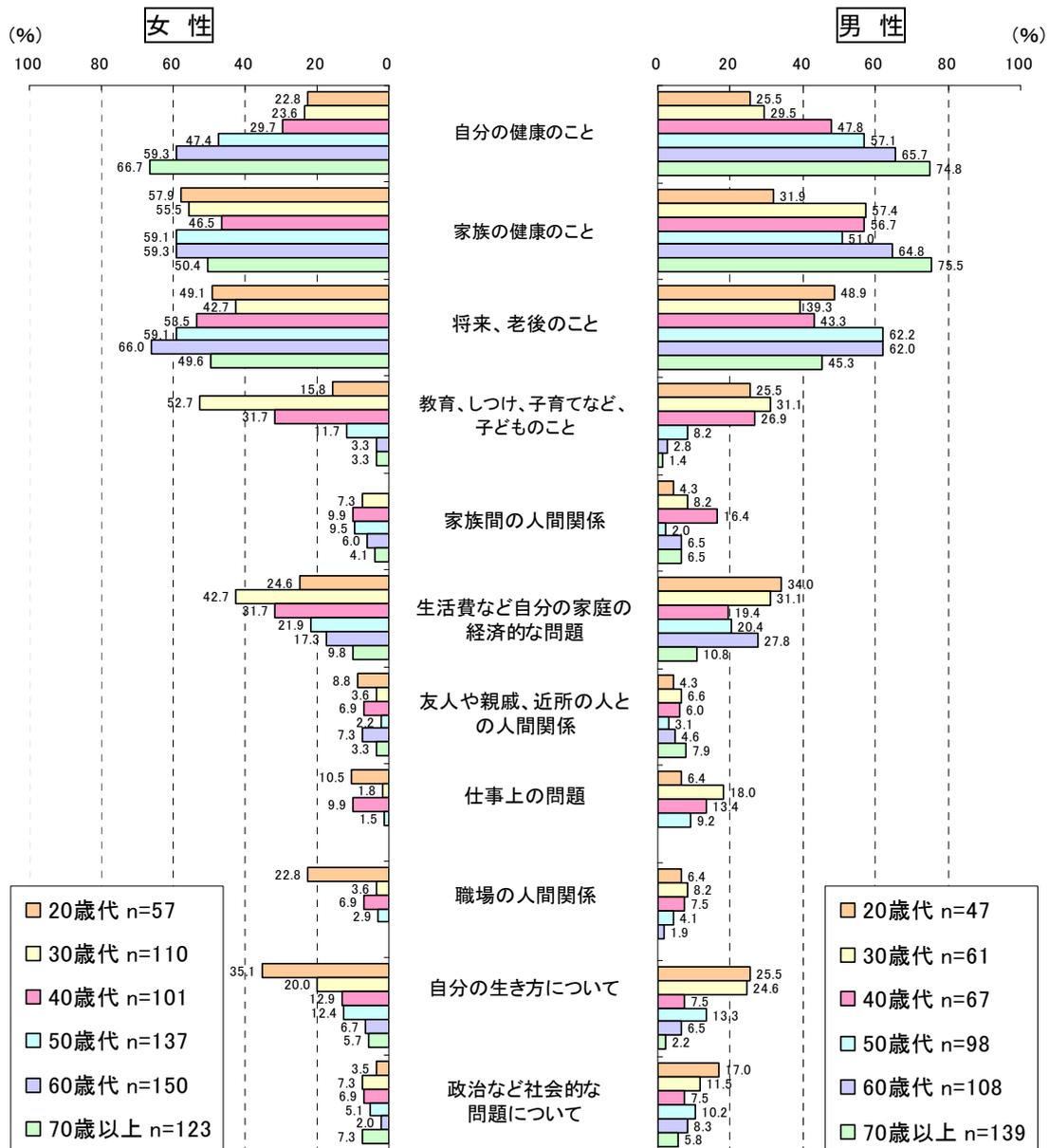
表28 特に心配なことについて(複数回答)

(%)

	該当者数 (人)	自分の健康 のこと	家族の健康 のこと	将来、老後 のこと	教育、しつけ、子育て など、子どものこと	人間関係	生活費など の経済的な 問題	友人や親 戚、近所の 人との人間 関係	仕事上の 問題	職場の 人間関係	自分の生き 方について	政治など社 会的な問題 について	その他	特に心配な ことはない	不明		
全体	1,226	50.0	57.0	52.6	15.4	6.7	22.5	5.1	4.2	3.9	11.7	6.9	2.1	6.3	2.9		
性	女性	679	45.1	55.1	54.6	18.3	6.6	23.7	5.0	2.9	4.1	13.1	5.3	2.5	6.6	2.2	
	男性	520	56.3	60.2	51.3	11.9	6.9	21.7	5.6	6.2	3.7	10.6	1.7	6.2	1.7		
年齢	20歳代	104	24.0	46.2	49.0	20.2	1.9	28.8	6.7	8.7	15.4	30.8	9.6	1.0	5.8	1.0	
	30歳代	171	25.7	56.1	41.5	45.0	7.6	38.6	4.7	7.6	5.3	21.6	8.8	2.9	2.3	0.0	
	40歳代	168	36.9	50.6	49.4	29.8	12.5	26.8	6.5	11.3	7.1	10.7	7.1	2.4	6.0	0.6	
	50歳代	235	51.5	55.7	60.4	10.2	6.4	21.3	2.6	4.7	3.4	12.8	7.2	3.4	6.4	0.0	
	60歳代	258	62.0	61.6	64.3	3.1	6.2	21.7	6.2	0.0	0.8	6.6	4.7	0.8	6.2	4.3	
	70歳以上	264	70.8	63.6	47.0	2.3	5.3	10.2	5.7	0.0	0.0	3.8	6.4	2.3	9.8	4.5	
	性×年齢	女性	20歳代	57	22.8	57.9	49.1	15.8	0.0	24.6	8.8	10.5	22.8	35.1	3.5	0.0	3.5
30歳代			110	23.6	55.5	42.7	52.7	7.3	42.7	3.6	1.8	3.6	20.0	7.3	3.6	0.9	0.0
40歳代			101	29.7	46.5	53.5	31.7	9.9	31.7	6.9	9.9	6.9	12.9	6.9	3.0	7.9	0.0
50歳代			137	47.4	59.1	59.1	11.7	9.5	21.9	2.2	1.5	2.9	12.4	5.1	3.6	6.6	0.0
60歳代			150	59.3	59.3	66.0	3.3	6.0	17.3	7.3	0.0	0.0	6.7	2.0	0.7	7.3	4.7
70歳以上			123	66.7	50.4	49.6	3.3	4.1	9.8	3.3	0.0	0.0	5.7	7.3	3.3	11.4	6.5
男性			20歳代	47	25.5	31.9	48.9	25.5	4.3	34.0	4.3	6.4	6.4	25.5	17.0	2.1	8.5
		30歳代	61	29.5	57.4	39.3	31.1	8.2	31.1	6.6	18.0	8.2	24.6	11.5	1.6	4.9	0.0
		40歳代	67	47.8	56.7	43.3	26.9	16.4	19.4	6.0	13.4	7.5	7.5	1.5	3.0	1.5	
		50歳代	98	57.1	51.0	62.2	8.2	2.0	20.4	3.1	9.2	4.1	13.3	10.2	3.1	6.1	0.0
		60歳代	108	65.7	64.8	62.0	2.8	6.5	27.8	4.6	0.0	1.9	6.5	8.3	0.9	4.6	3.7
		70歳以上	139	74.8	75.5	45.3	1.4	6.5	10.8	7.9	0.0	0.0	2.2	5.8	1.4	8.6	2.2
		未婚	結婚している	950	51.9	64.0	52.3	18.2	7.5	20.8	5.1	3.6	2.7	8.3	7.3	2.2	6.0
離婚・死別した			119	58.8	35.3	52.1	9.2	6.7	31.9	5.9	2.5	2.5	11.8	4.2	2.5	6.7	2.5
結婚していない	140		34.3	32.1	57.1	3.6	2.1	28.6	5.0	10.7	12.9	35.7	7.1	1.4	7.9	2.1	

注: 緑色は40%以上

図28 特に心配なことについて(複数回答) - 性・年齢別



【問 2 9】 あなたはその心配なことについて誰かに相談しましたか。(○は1つ)

「はい」が40.0%、「いいえ」が48.2%となり、「いいえ」の方が8.2ポイント上回っています。

【性別】

男性は、「いいえ」が56.0%と「はい」の33.5%を22.5ポイント上回っているのに対し、女性は「はい」(46.7%)が「いいえ」(43.3%)をわずかに上回っているにすぎません。男性は女性に比べ、相談しない傾向がうかがえます。

【年齢別】

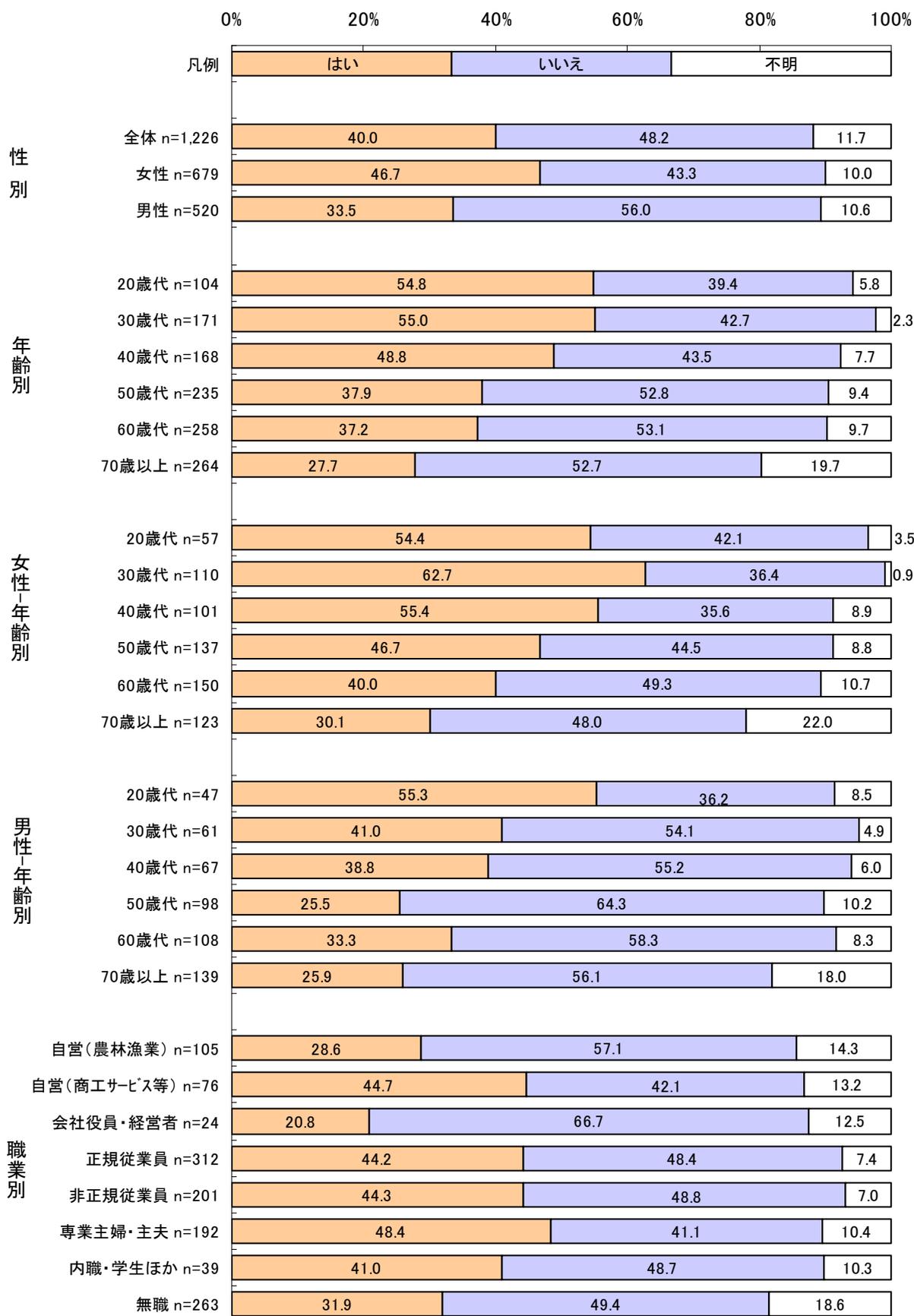
年齢層が高くなるにつれ、「いいえ」の回答割合が高くなる傾向にあります。20歳代、30歳代では「はい」が50%を超えていますが、50歳代を境に構成割合が逆転し、50歳代以上では「いいえ」が過半数を超えています。【問 28】で「心配なことがある」との回答割合が高いにもかかわらず、高年齢層では相談しない傾向が強くなっています。

性・年齢別でみると、50歳代以下の女性は「はい」が「いいえ」を上回っています。また40歳代以下の女性では「はい」の回答割合が過半数を超えているのに対し、男性では20歳代のみとなっています。

【職業別】

商工業・サービス業・その他の自営業主・家族従業者、専業主婦・主夫で「はい」が高く、それ以外の職業では「いいえ」の割合が高くなっています。中でも「いいえ」が「はい」を大きく上回っているのは、会社役員(+45.9ポイント)、農業・林業・漁業の自営業主・家族従業者(+28.5ポイント)となっています。

図29 心配なことについての相談状況



【問30】 ※【問29】で、「2. いいえ」とお答えの方におたずねします。相談していない主な理由は何ですか。(〇は1つ)

「相談するほどのことではないから」が55.0%と最も高く、過半数を超えています。次いで「家族などに心配をかけられないから」(14.6%)、「相談する人がいないから」(8.8%)の順となっています。

その他の理由として、全体的に「まだ具体的に問題化していない」「今すぐの問題ではない」といった声が多くあります。

【性別】

男女ともに「相談するほどのことではないから」(女性56.5%、男性53.3%)が最も高く、過半数を超えています。

次いで「家族などに心配をかけられないから」(女性14.3%、男性15.1%)、「相談する人がいないから」(女性7.5%、男性10.3%)となっていて、それぞれ男性が女性を上回っています。

【年齢別】

年齢層にかかわらず、「相談するほどのことではないから」が最も高く、特に20歳代で73.2%と高くなっています。また「家族などに心配をかけられないから」の回答割合は40歳代以下で5%前後にとどまっていますが、50歳、60歳代で17%台、70歳以上では21.6%と高くなっており、年齢層が高くなるほど家族に心配をかけることを配慮し、相談しない傾向がうかがえます。

性・年齢別でみると、40歳代の男性で「相談する人がいないから」(18.9%)が他の年齢層に比べ高く、50歳代の男性で「相談するほどのことではないから」が他と比べて低くなっており、30歳代の男性、50歳代の女性でもやや低くなっています。50歳代以下の男性では、「仕事が忙しいから」も他の年齢層に比べやや高く、現役世代の男性は仕事の忙しさが相談しない理由の一因となっています。

その他の理由として、20歳代、70歳以上では「自分の問題なので、自分で解決すべき」、40歳代、60歳代では「相談してもどうにもならない」との声があがっています。

【未既婚別】

未既婚にかかわらず、「相談するほどのことではないから」が最も高く、「結婚していない」(58.7%)、「結婚している」(57.0%)では、過半数を超えています。一方「離婚・死別した」では「相談する人がいないから」「どこに相談すればいいかわからないから」が、「結婚している」「結婚していない」に比べてやや高くなっています。

【職業別】

いずれの職業でも「相談するほどのことではないから」が最も高くなっています。自営業主・家族従業者で他の職業に比べ「家族などに心配をかけられないから」がやや高く、また会社役員・経営者、非正規従業員では「相談する人がいないから」がやや高くなっています。

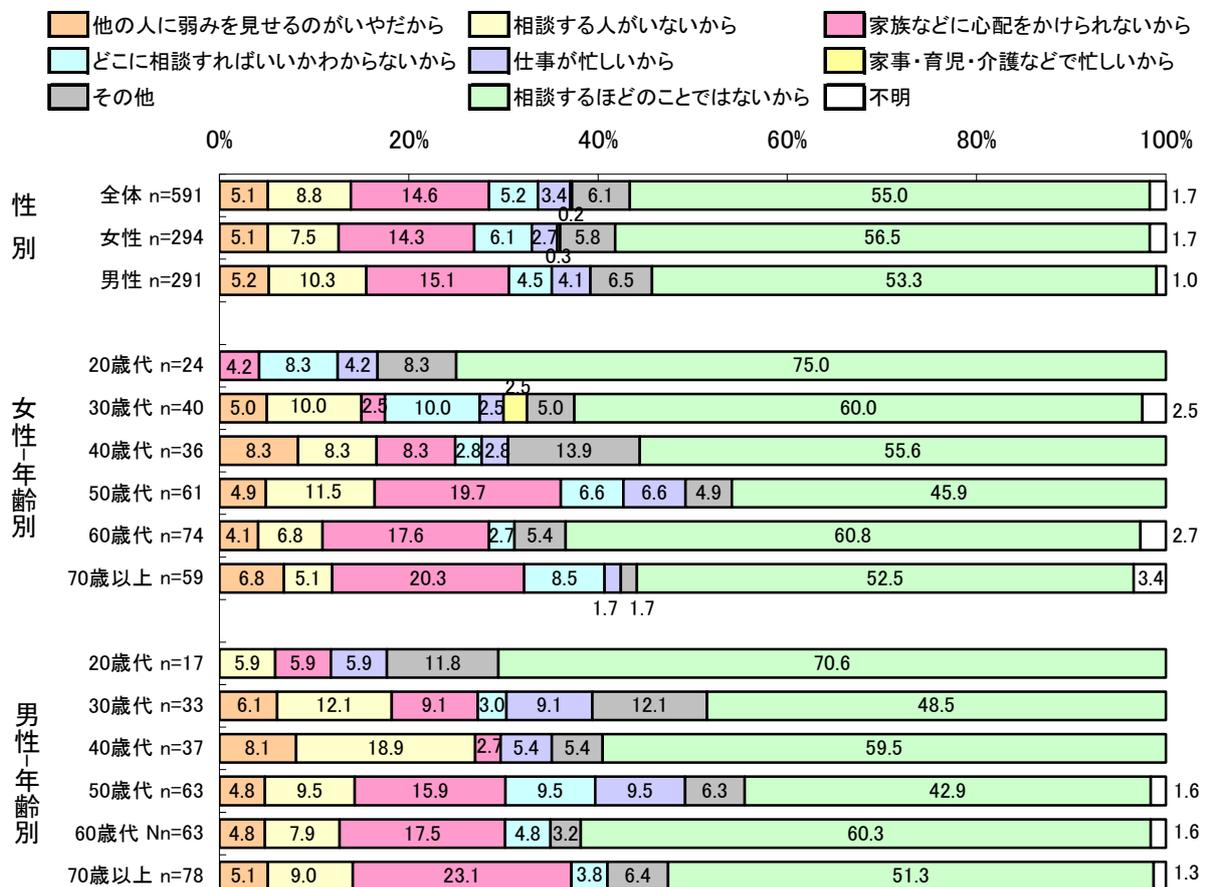
表30 相談しなかった理由

(%)

		該当者数 (人)	他の人に弱み を見せるのが いやだから	相談する人が いないから	家族などに 心配をかけら れないから	どこに相談す ればいいのか わからないから	忙しいから	家事・育児・ 介護などで 忙しいから	その他	相談するほど のことでは ないから	不明
全体		591	5.1	8.8	14.6	5.2	3.4	0.2	6.1	55.0	1.7
性	女性	294	5.1	7.5	14.3	6.1	2.7	0.3	5.8	56.5	1.7
	男性	291	5.2	10.3	15.1	4.5	4.1	0.0	6.5	53.3	1.0
年齢	20歳代	41	0.0	2.4	4.9	4.9	4.9	0.0	9.8	73.2	0.0
	30歳代	73	5.5	11.0	5.5	6.8	5.5	1.4	8.2	54.8	1.4
	40歳代	73	8.2	13.7	5.5	1.4	4.1	0.0	9.6	57.5	0.0
	50歳代	124	4.8	10.5	17.7	8.1	8.1	0.0	5.6	44.4	0.8
	60歳代	137	4.4	7.3	17.5	3.6	0.0	0.0	4.4	60.6	2.2
	70歳以上	139	5.8	7.2	21.6	5.8	0.7	0.0	4.3	51.8	2.9
	未既婚	結婚している	461	5.0	6.9	15.0	4.6	3.3	0.2	5.9	57.0
離婚・死別した		62	9.7	19.4	17.7	9.7	3.2	0.0	4.8	35.5	0.0
結婚していない		63	1.6	12.7	7.9	4.8	4.8	0.0	9.5	58.7	0.0
職業	自営(農林漁業)	60	6.7	5.0	20.0	6.7	1.7	0.0	3.3	55.0	1.7
	自営(商工サービス等)	32	3.1	6.3	21.9	3.1	9.4	0.0	6.3	46.9	3.1
	会社役員・経営者	16	6.3	12.5	6.3	0.0	12.5	0.0	6.3	56.3	0.0
	正規従業員	151	6.0	9.3	11.3	4.6	6.0	0.0	5.3	56.3	1.3
	非正規従業員	98	6.1	13.3	9.2	5.1	4.1	0.0	11.2	50.0	1.0
	専業主婦・主夫	79	2.5	8.9	15.2	8.9	0.0	1.3	2.5	57.0	3.8
	内職・学生ほか	19	5.3	0.0	15.8	5.3	0.0	0.0	15.8	57.9	0.0
	無職	130	4.6	8.5	18.5	3.8	0.8	0.0	5.4	56.9	1.5

注: は50%以上

図30 相談しなかった理由



【問3 1】 あなたの生きがい（楽しみ）は何ですか。（○は2つまで）

「スポーツや趣味」が47.6%と最も高くなっています。次いで「家族と過ごすこと」(43.3%)、「子どもや孫のこと」(24.6%)、「友人、知人と過ごすこと」(23.5%)と続いており、身内や親しい人と過ごすことを楽しみや生きがいと感じる人が多くなっています。

【性別】

男女ともに「スポーツや趣味」が最も高く、次いで「家族と過ごすこと」となっています。「友人、知人と過ごすこと」については、女性が30.3%なのに対し、男性は15.6%と低くなっています。特に40歳代以上の男性では、10%程度にとどまっています。

【年齢別】

30歳代と40歳代では「家族と過ごすこと」が最も高く、それ以外の年齢層では「スポーツや趣味」となっており、特に20歳代で高くなっています。また20歳代では「友人、知人と過ごすこと」(57.7%)も高くなっています。60歳代では「子どもや孫のこと」が他の年齢層に比べやや高くなっています。

30歳代から50歳代の男性では、「仕事」が他の年齢層に比べやや高くなっています。また、50歳代と70歳以上では「特にない」がやや高くなっています。

【未既婚別】

「結婚している」では、「家族と過ごすこと」(50.5%)が最も高くなっています。「離婚・死別した」では、「スポーツや趣味」(40.3%)が最も高くなっています。「結婚していない」では、「スポーツや趣味」(64.3%)が最も高く、次いで「友人・知人と過ごすこと」(55.0%)が高くなっています。

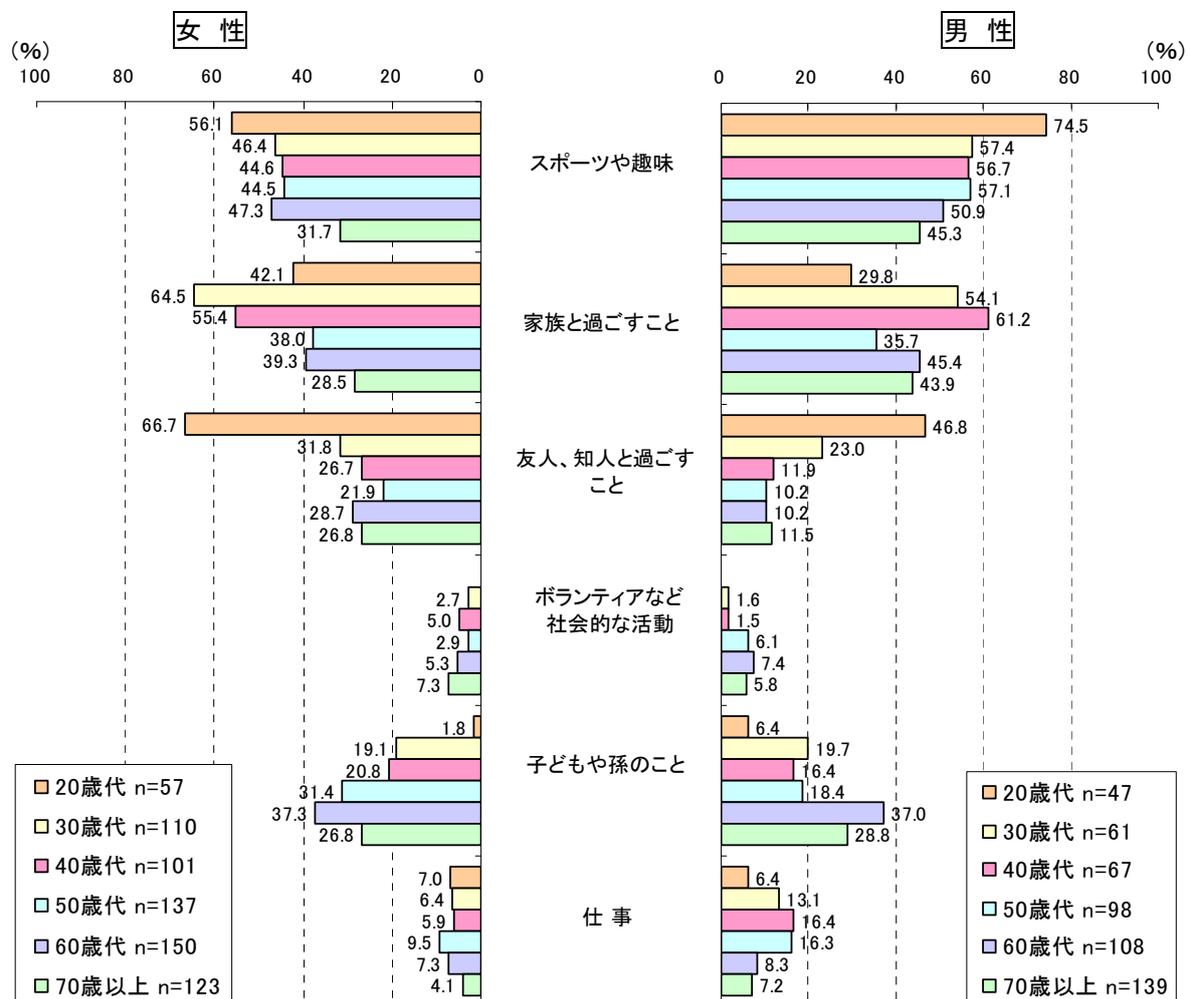
表31 生きがいについて(複数回答)

(%)

		該当者数 (人)	スポーツや 趣味	家族と 過ごすこと	友人、知人 と過ごす こと	ボランティ アなど社会 的な活動	子どもや 孫のこと	仕事	その他	特にな い	不明
全体		1,226	47.6	43.3	23.5	4.4	24.6	8.4	2.8	8.2	3.2
性	女性	679	44.2	43.7	30.3	4.3	25.8	6.8	2.5	7.8	1.6
	男性	520	54.2	44.8	15.6	4.6	23.8	11.0	3.3	8.7	1.5
年齢	20歳代	104	64.4	36.5	57.7	0.0	3.8	6.7	1.9	3.8	0.0
	30歳代	171	50.3	60.8	28.7	2.3	19.3	8.8	2.9	5.3	0.0
	40歳代	168	49.4	57.7	20.8	3.6	19.0	10.1	1.8	7.7	0.6
	50歳代	235	49.8	37.0	17.0	4.3	26.0	12.3	2.6	11.1	1.3
	60歳代	258	48.8	41.9	20.9	6.2	37.2	7.8	2.7	4.7	1.6
	70歳以上	264	38.6	36.4	18.6	6.4	28.0	5.7	4.2	13.3	4.2
未 既 婚	結婚している	950	46.4	50.5	18.6	4.9	28.1	8.7	2.7	6.1	2.7
	離婚・死別した	119	40.3	18.5	26.1	5.0	26.9	9.2	2.5	19.3	4.2
	結婚していない	140	64.3	20.0	55.0	0.7	0.0	6.4	2.9	11.4	0.0
地域	津	701	49.8	42.9	24.1	4.6	22.3	9.7	3.0	8.3	3.0
	久居	145	49.0	45.5	22.8	3.4	24.8	7.6	2.1	9.7	2.1
	河芸	62	48.4	38.7	19.4	8.1	29.0	6.5	3.2	9.7	1.6
	芸濃	34	38.2	47.1	20.6	5.9	23.5	8.8	0.0	11.8	0.0
	美里	32	34.4	43.8	40.6	6.3	31.3	6.3	0.0	6.3	0.0
	安濃	50	36.0	52.0	24.0	2.0	32.0	2.0	8.0	4.0	4.0
	香良洲	40	42.5	45.0	27.5	2.5	20.0	7.5	0.0	7.5	2.5
	一志	56	48.2	48.2	19.6	5.4	33.9	3.6	5.4	5.4	0.0
	白山	47	42.6	38.3	17.0	4.3	36.2	8.5	2.1	4.3	6.4
	美杉	44	43.2	45.5	15.9	2.3	22.7	9.1	0.0	13.6	9.1

注: は50%以上

図31 生きがいについて(複数回答)－性・年齢別



11. 行政の取り組みについて

【問32】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政はどのようなことに取り組んでいけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が54.5%と最も高くなっています。次いで「施策や制度の面で見直しを行う」(27.3%)、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」(25.8%)、「学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する」(25.7%)の順となっています。同様に「女性の就労機会の提供、職業教育や能力開発の機会や場を充実する」「女性を政策決定の場に積極的に登用する」も高くなっています。

その他の意見として、「民間等の実情を把握して取り組むべき」「実質的な取り組みを行うべき」といった声あげられています。

【性別】

男女ともに「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が最も高く、女性は59.4%と男性の50.6%に比べ8.8ポイント高くなっています。次いで女性は「学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する」(27.0%)、「施策や制度の面で見直しを行う」(26.8%)となっており、男性は「施策や制度の面で見直しを行う」(29.2%)、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」(28.3%)となっています。

「女性を政策決定の場に積極的に登用する」では、男性が28.1%で、女性を7.8ポイント上回っています。

【年齢別】

いずれの年齢層も「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が最も高くなっています。年齢層による差がみられるのは、60歳代で「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が、30歳代、40歳代で「施策や制度の面で見直しを行う」が他の年齢層に比べ、やや高くなっている他、「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」は、年齢層が低いほど割合も高くなっています。

性・年齢別でみると、30歳代の女性で「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が他の年齢層に比べやや高く、20歳代の男性では「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」が高くなっています。また、「女性の就労機会の提供、職業教育や能力開発の機会や場を充実する」が、女性では年齢層が高くなるにつれ割合が低くなっています。

表32 男女共同参画社会を実現するための行政の取り組みについて(複数回答)

(%)

		該当者数(人)	保育や介護に関する施設やサービスを充実する	施策や制度の面で見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	女性の就労機会の提供、職業教育や能力開発の機会や場を充実する	学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や相談、教育、交流の機会などを充実する	広報紙やパンフレットなどでの男女共同参画や男女の相互理解・協力についてのPR	特にない	わからない	その他	不明	
全体		1,226	54.5	27.3	23.2	11.0	25.8	23.9	25.7	14.7	17.0	5.6	9.9	2.7	5.3	
性	女性	679	59.4	26.8	20.3	9.7	24.9	25.8	27.0	16.6	16.9	4.0	10.3	1.6	4.3	
	男性	520	50.6	29.2	28.1	13.3	28.3	22.5	25.2	12.7	17.9	7.9	9.2	4.2	2.9	
年齢	20歳代	104	54.8	24.0	23.1	11.5	38.5	25.0	31.7	18.3	10.6	3.8	11.5	3.8	1.0	
	30歳代	171	62.6	35.1	18.7	8.8	30.4	25.7	26.9	13.5	12.9	3.5	8.8	5.8	0.6	
	40歳代	168	53.0	32.7	22.0	9.5	29.2	28.6	25.6	15.5	11.9	3.0	8.9	1.2	2.4	
	50歳代	235	56.6	25.5	19.6	9.8	26.0	26.4	28.1	12.3	18.3	4.7	10.2	2.1	1.7	
	60歳代	258	54.7	28.3	32.6	11.6	22.5	22.1	24.0	17.8	19.8	5.8	9.7	3.1	5.8	
	70歳以上	264	52.7	23.1	23.1	14.8	21.2	20.8	24.2	13.6	23.1	9.8	10.6	1.5	7.6	
性×年齢	女性	20歳代	57	54.4	28.1	21.1	12.3	31.6	36.8	29.8	24.6	8.8	1.8	8.8	1.8	0.0
		30歳代	110	68.2	37.3	15.5	6.4	28.2	30.0	26.4	14.5	13.6	2.7	10.0	4.5	0.9
		40歳代	101	55.4	29.7	18.8	10.9	34.7	28.7	25.7	13.9	13.9	1.0	10.9	0.0	2.0
		50歳代	137	63.5	23.4	19.0	8.8	25.5	28.5	34.3	14.6	19.0	2.2	6.6	1.5	1.5
		60歳代	150	58.7	24.0	29.3	10.7	22.7	20.7	26.7	22.0	20.7	5.3	10.0	0.7	8.0
		70歳以上	123	53.7	22.0	16.3	10.6	13.0	17.9	19.5	13.0	19.5	8.1	15.4	1.6	9.8
		70歳以上	123	53.7	22.0	16.3	10.6	13.0	17.9	19.5	13.0	19.5	8.1	15.4	1.6	9.8
	男性	20歳代	47	55.3	19.1	25.5	10.6	46.8	10.6	34.0	10.6	12.8	6.4	14.9	6.4	2.1
		30歳代	61	52.5	31.1	24.6	13.1	34.4	18.0	27.9	11.5	11.5	4.9	6.6	8.2	0.0
		40歳代	67	49.3	37.3	26.9	7.5	20.9	28.4	25.4	17.9	9.0	6.0	6.0	3.0	3.0
		50歳代	98	46.9	28.6	20.4	11.2	26.5	23.5	19.4	9.2	17.3	8.2	15.3	3.1	2.0
		60歳代	108	49.1	34.3	37.0	13.0	22.2	24.1	20.4	12.0	18.5	6.5	9.3	6.5	2.8
		70歳以上	139	52.5	24.5	29.5	18.7	28.8	23.7	28.8	14.4	26.6	11.5	5.8	1.4	5.0
		70歳以上	139	52.5	24.5	29.5	18.7	28.8	23.7	28.8	14.4	26.6	11.5	5.8	1.4	5.0

注: は40%以上

図32-1 男女共同参画社会を実現するための行政の取り組みについて(複数回答)

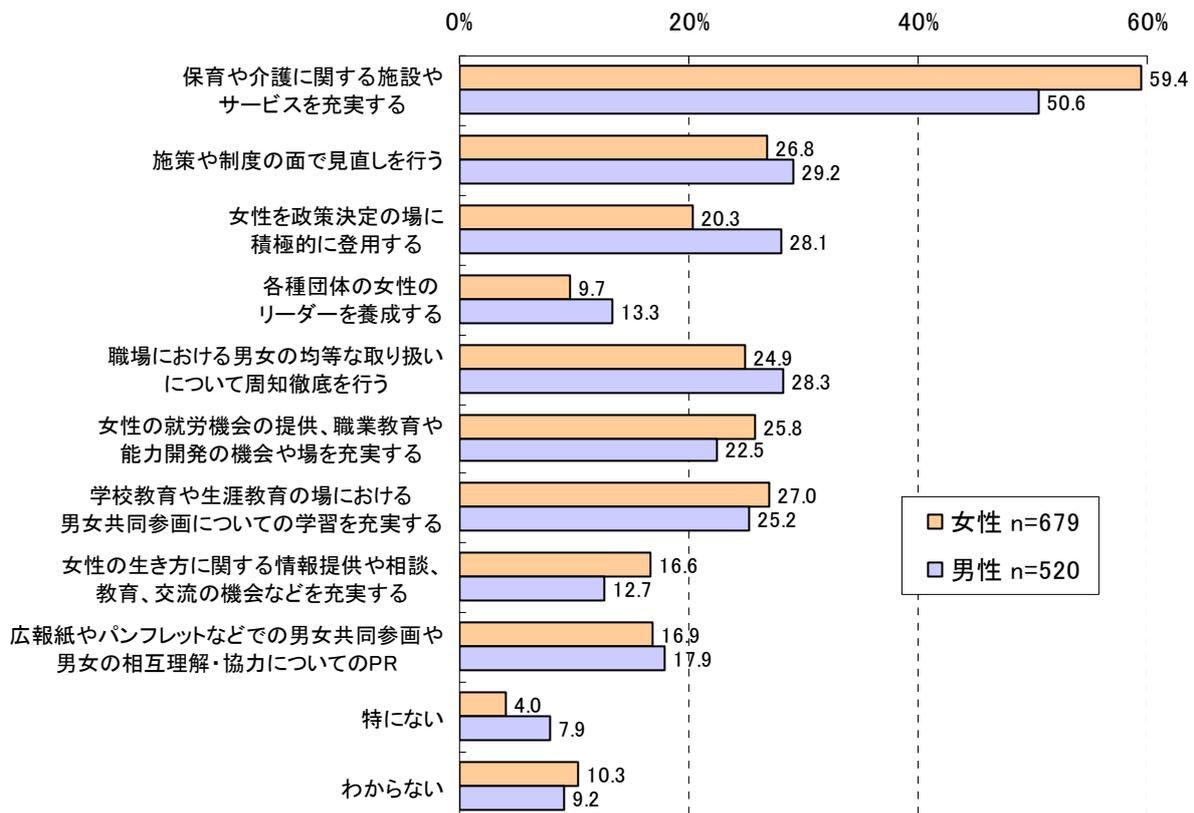
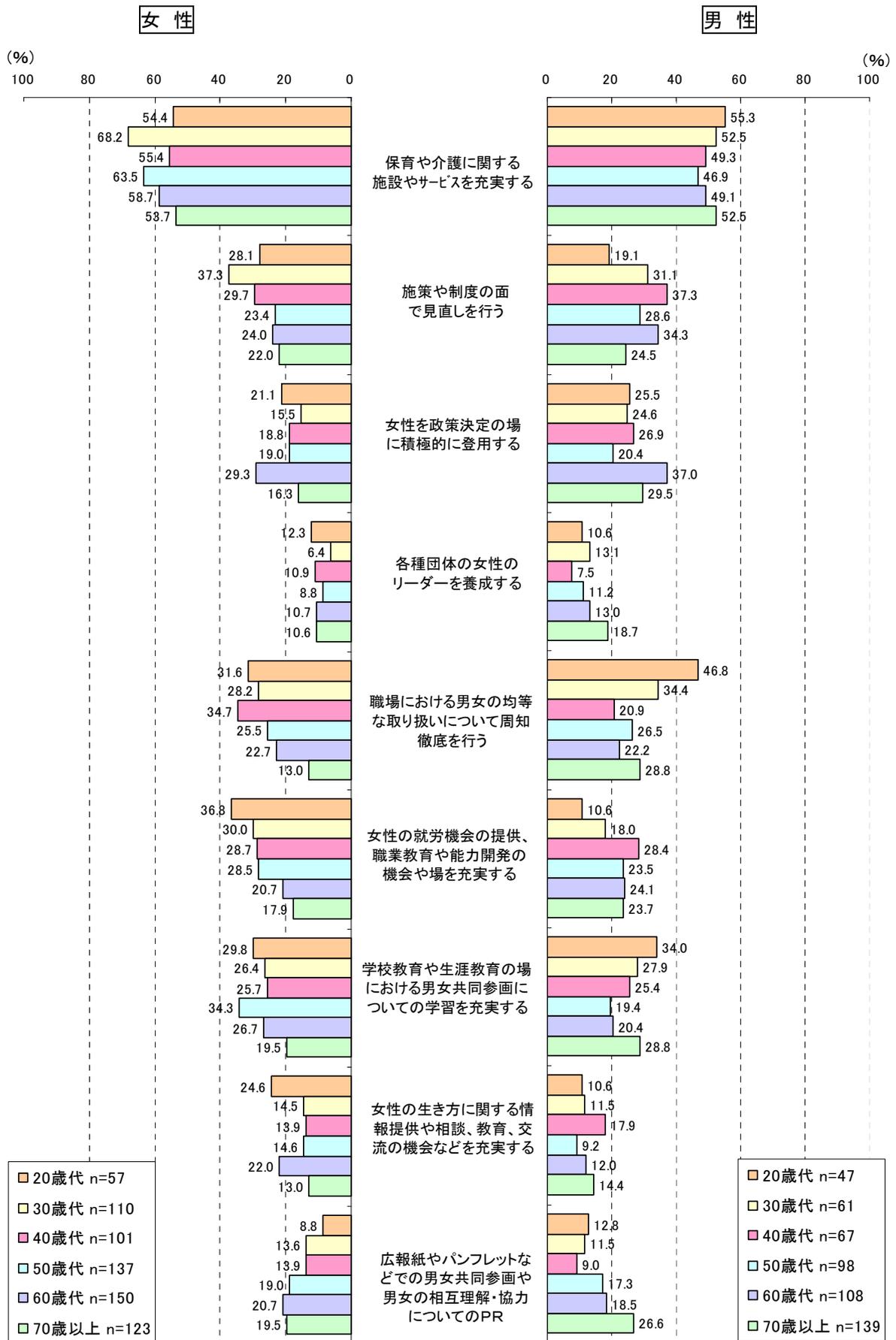


図32-2 男女共同参画社会を実現するための行政の取り組みについて(複数回答)―性・年齢別



【問33】 津市では、市民の方から募集した実行委員と協働で、毎年「男女共同参画フォーラム」を開催していますが、ご存知ですか。(〇は1つ)

「知っている」が19.7%、「知らない」が76.5%となり、「知らない」が「知っている」を上回っており、「男女共同参画フォーラム」が浸透していないことがうかがえます。

【性別】

女性は「知っている」が24.4%、「知らない」が73.3%、男性は「知っている」が14.4%、「知らない」が83.7%となり、女性の方が10ポイント「知っている」が高くなっています。

【年齢別】

いずれの年齢層も「知らない」が7割以上と高くなっています。特に20歳代で「知らない」が85.6%と最も高く、若い世代への浸透が課題となります。

性・年齢別にみると、40歳代女性は31.7%、50歳代女性は28.5%、30歳代女性は25.5%と認知率が比較的高くなっています。男性はいずれの年齢層も「知っている」が20%未満で、特に20歳代の男性は6.4%と低くなっています。

【職業別】

職業にかかわらず「知らない」が高くなっています。職業別の中では専業主婦・主夫29.7%、内職・学生・その他28.2%で「知っている」がやや高くなっています。

【地域別】

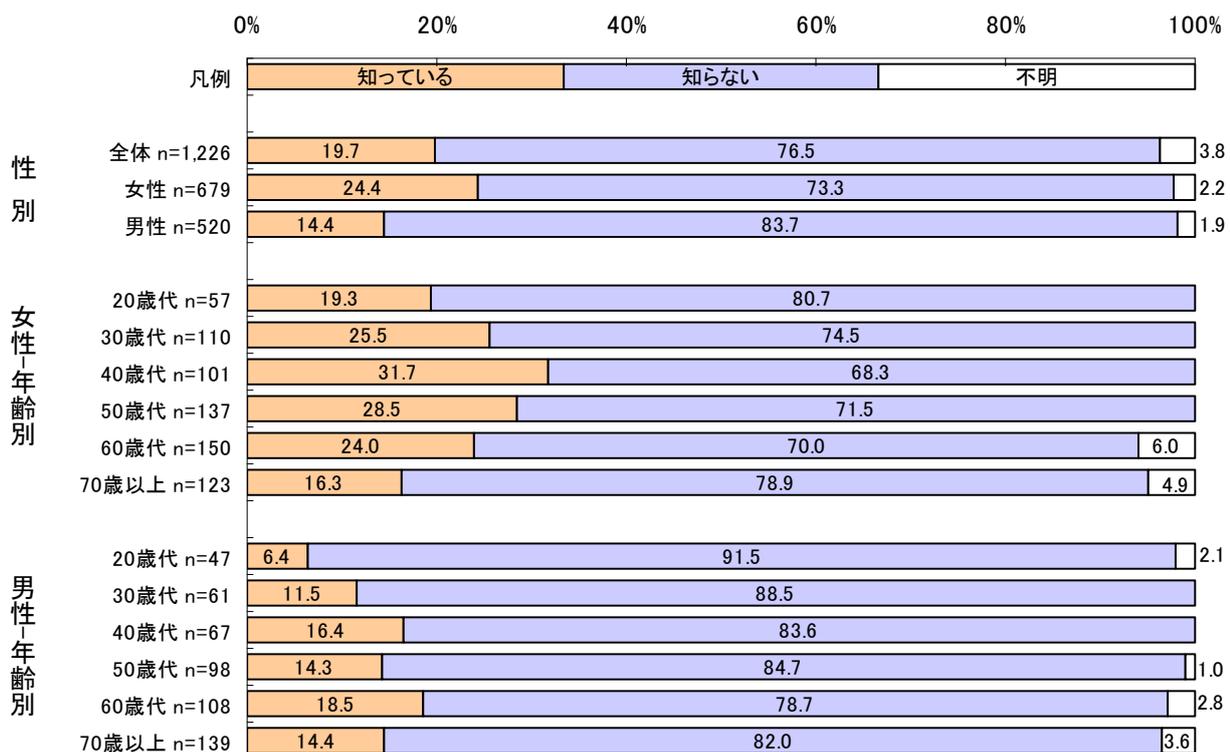
いずれの地域も「知らない」が高くなっています。

芸濃地域や津地域でやや「知っている」が高くなっているほか、安濃地域、白山地域でやや低くなっています。

表33 「男女共同参画フォーラム」の認知率 (％)

		該当者数(人)	知っている	知らない	不明
全体		1,226	19.7	76.5	3.8
性	女性	679	24.4	73.3	2.2
	男性	520	14.4	83.7	1.9
年齢	20歳代	104	13.5	85.6	1.0
	30歳代	171	20.5	79.5	0.0
	40歳代	168	25.6	74.4	0.0
	50歳代	235	22.6	77.0	0.4
	60歳代	258	21.7	73.6	4.7
	70歳以上	264	15.2	80.7	4.2
職業	自営(農林漁業)	105	12.4	81.9	5.7
	自営(商工サービス等)	76	17.1	77.6	5.3
	会社役員・経営者	24	12.5	87.5	0.0
	正規従業員	312	18.9	78.8	2.2
	非正規従業員	201	21.4	77.6	1.0
	専業主婦・主夫	192	29.7	67.7	2.6
	内職・学生ほか	39	28.2	69.2	2.6
	無職	263	15.2	77.9	6.8
地域	津	701	21.5	75.2	3.3
	久居	145	18.6	77.2	4.1
	河芸	62	19.4	80.6	0.0
	芸濃	34	23.5	67.6	8.8
	美里	32	15.6	81.3	3.1
	安濃	50	12.0	84.0	4.0
	香良洲	40	15.0	82.5	2.5
	一志	56	17.9	78.6	3.6
	白山	47	12.8	80.9	6.4
	美杉	44	15.9	79.5	4.5

図33 「男女共同参画フォーラム」の認知率



【問34】 ※【問33】で、「1. 知っている」とお答えの方におたずねします。津市の「男女共同参画フォーラム」に参加されたことはありますか。(○は1つ)

「ある」が12.9%、「ない」が85.5%となり、「ない」が「ある」を上回っています。

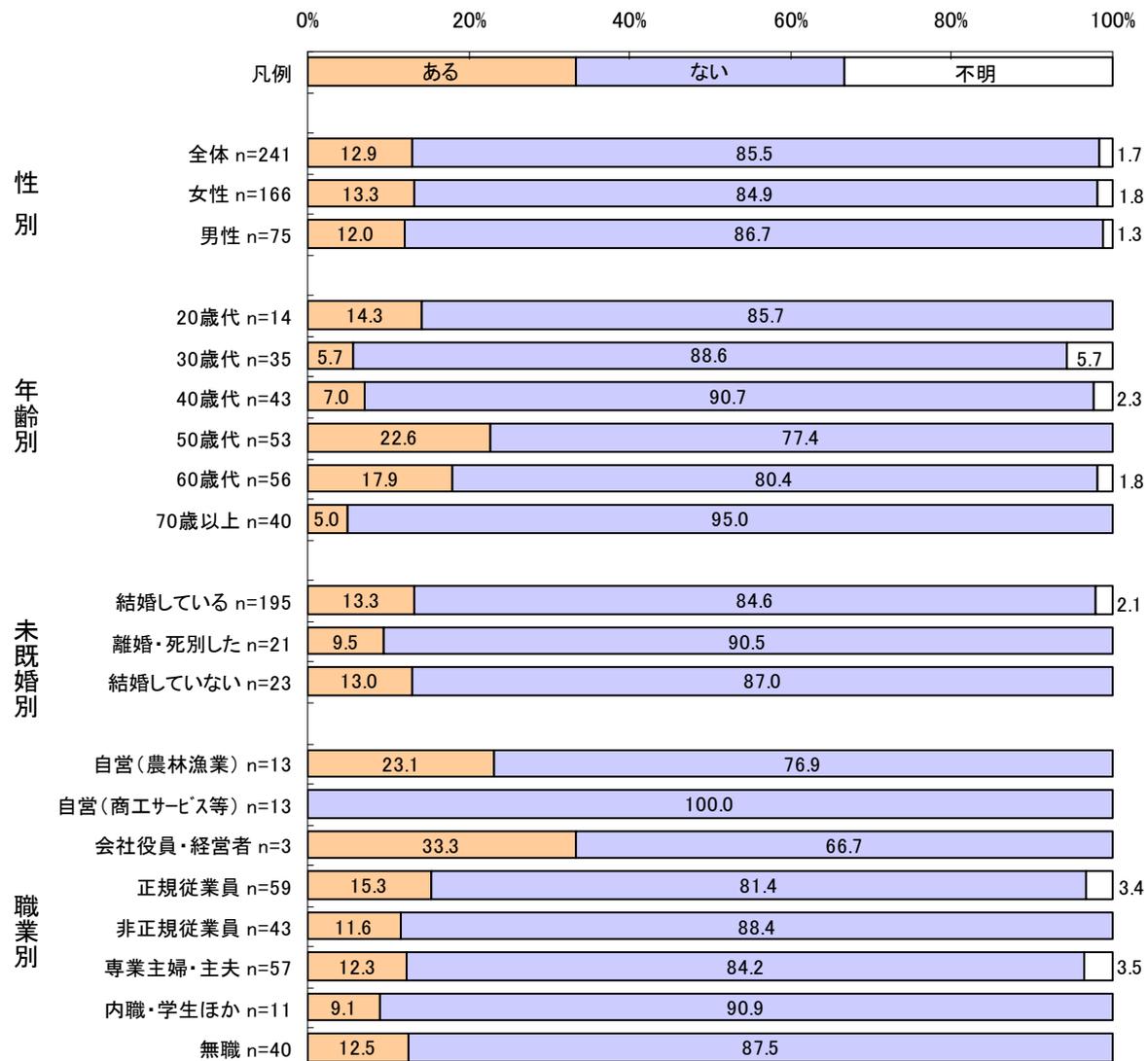
【性別】

男性は「ある」が12.0%、「ない」が86.7%、女性は「ある」が13.3%、「ない」が84.9%となり、いずれも「ない」が高くなっています。

【年齢別】

すべての年齢層で、「ない」が「ある」を上回っています。特に70歳以上、30歳代、40歳代で参加割合が低くなっており、一方、50歳代では他の年齢層に比べ高くなっています。

図34 「男女共同参画フォーラム」への参加率



【問35】 男女共同参画について、今後どのような催しがあれば参加したいと思いますか。自由にご記入下さい。

○参加したい催しの要望

- ・ 気軽に参加できる
- ・ 祭りなど他の催しとの共同開催
- ・ 子ども連れや家族で参加できる体験型（料理教室なども含む）

など、参加者側が気軽に参加できる、かつ楽しめるようなイベント内容やネーミングなどの仕組みづくりが求められます。特に30歳代の女性では、子どもを持つ親として子連れでも参加できるような催しや、託児所などの設置を求める声があがっています。

また、

- ・ 平日以外にも休日開催
- ・ 一箇所開催だけでなく、各地での開催
- ・ 同年齢者による地域単位での集まり

など、いろいろな立場や職業の人が参加できるよう開催日時や場所への要望も寄せられています。

○具体的な「テーマ」

- ・ 机上で男女参画を論じている人ではなく、男女共同参画を実践している優良企業の話
- ・ 社会で活躍している女性や多方面で活躍する人の講演
- ・ 講演会といったものではなく、隣の人と話すような談義方式などがあげられています。

○その他

「どのような催しが必要なのかアイデアを出せるほど、男女共同参画の取り組みを理解していない」といった意見も多くあげられています。また、健康上の理由や趣味や仕事で忙しいといった理由から、参加できない、参加することが難しいといった意見もあり、特に高齢者からは「健康上の理由」をあげる人が多くなっています。

【問36】男女共同参画や、男女共同参画社会の実現に向けての市の施策について、ご意見・ご要望があれば、ご記入下さい。

○特に多かった意見

- ・ 男性、女性それぞれのよさを活かした形でお互いを尊重できる社会を作っていくべきだと思う。
- ・ 男性、女性それぞれの知力、体力、年齢に適合した場で能力を発揮することが男女共同参画ではないか。
- ・ 男性、女性という性別ではなく、他者を認めることから始まるのではないか。
- ・ 男性しかできないこと、女性しかできないこともある。なにもかも平等ではなく、それぞれの個性を発揮できる社会を。

といったように、男性、女性のそれぞれの個性を活かした社会を作っていくことが望ましいといった意見が多く出されました。

また、PR不足の声も聞かれています。

- ・ 「男女共同参画」をもっと市民に周知させていく必要がある。
- ・ 市がどのような取り組みをしているかわからない。何をしているのかももっとPRしてほしい。アンケートや実施したことはフィードバックしてほしい。
- ・ 市民に参加を求めるだけでなく、時には出向くなどして興味を持ってもらえるような働きかけが必要ではないか。

○その他

男女の共同参画を進めるにあたって、「一部の人だけが考えるのではなく、市民にとってわかりやすい現実的なものを」といった意見もありました。

また、「産休や保育などの子育て支援の充実」、「労働環境や基盤整備の充実」など、働く環境の改善を求める声も数多くありました。他にも、「男性、女性といった性別だけでなく、世代によって考え方が違うことを考えないといけないのでは」や、「男女共同参画社会の実現には、これから生きる子どもへの教育が必要だと思う」などの意見もありました。

IV 調査票

用語の解説

◇男女共同参画

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、共に責任を担うことをいいます。また、このような社会を「男女共同参画社会」といいます。

◇固定的性別役割分担

男性、女性という性別だけを理由として、生き方、役割を固定的に分けること。「男性は、こうあるべき」「女性は、こうしなければならない」などとして、役割を振り分けることです。

◇家族経営協定

家庭ひとりとりが、無理せず楽しく農業をするために、みんなで農業経営や家庭生活のいろいろな面について話し合い、全員が経営に参加し、農業経営の確立や後継者の支援、女性農業従事者の地位向上などをめざして、文書にしてルールを取り決めることです。

◇ポジティブ・アクション

社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が、男女間で大きく格差がある場合、その格差を改善するために、必要な範囲内で、男女のいずれか一方に対し、参画する機会を積極的に提供することです。

◇フレックス・タイム制度

労使間の協定による勤務時間の自由選択制。一週、一月などを単位にして一定の時間帯の中で勤務の開始と終了を自由に選択できる制度です。

◇ドメスティック・バイオレンス

配偶者や親密な関係の者からの暴力的行為をドメスティック・バイオレンス(DV)といます。殴る・けるなどの身体的な暴力だけでなく、何を言っても無視する、おどす、行動を制限するなどの精神的暴力や、意に反した性的な関係を強要する、中絶を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力も含まれます。

◇セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反した性的な言動。性的な言動に対する相手方の対応によって、相手方に不利益を与え、または性的な言動により相手方の生活環境を害すること。セクシュアル・ハラスメントは、職場に限らず学校などでも問題となつていきます。

男女共同参画に関する市民意識調査

— 調査の趣旨とご協力をお願い —

市民の皆様には、日頃から市政に対しまして、ご理解とご協力をいただきたくお礼を申し上げます。

さて、本市では、男女が社会のあらゆる分野に共に参画し、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら、互いに協力し合い、いきいきと暮らすことのできる男女共同参画社会の実現に向け、平成19年3月に「男女共同参画都市宣言」を行い、「津市男女共同参画推進条例」を制定し、様々な取り組みを進めております。

この度、その一環として男女共同参画基本計画を策定するにあたり、市民の皆様が日頃のように感じておられるのかを調査し、策定の基礎資料とする目的で、本調査を実施することとなりました。

この調査は、6月15日現在で市内にお住まいの20歳以上の男女3,000人の方を無作為に選ばせていただき、無記名で行うものです。

なお、この調査の実施および結果は、個人情報について十分に配慮し、皆様にご迷惑をおかけすることはございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成19年7月

津市長 松田 直久

<調査票のご記入にあたってのお願い>

- ご記入にあたっては、封筒のあて名のご本人がお答えください。
(ご本人が病氣などで回答いただけないときは、代理の方がご本人の気持を聞いていただきながら回答くださいませう、お願いいたします。)
 - ご回答は設問をよく読んで、あなたの状態や考え方に最も近い番号を選び、その番号に○をつけてください。○の数は、設問によって1つの場合と数が指定してある場合がありますので、ご注意ください。
 - 「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にご記入ください。
 - ご回答は、えんぴつ、ボールペンなどではつきりとご記入ください。
- ◎ご記入いただきました調査票は、**7月20日(金)までに**、同封の返信用封筒(お手不要)に入れて、お名前を書かず、郵便ポストにご投入ください。

<この調査に関するお問い合わせ先>

津市民部 男女共同参画室 〒514-8611 津市西丸之内2 3番1号
TEL 229-3103 FAX 229-3366

本用紙の裏面に用語の解説がありますので、ご参照ください。

「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票

この調査は「男女共同参画」に関する市民の皆様の御考え・ご意見を聞き取ります。率直なご意見をお聞かせください。

1. 男女共同参画全般について、おたずねします

【問1】 あなたは次の言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

知っている	知らない	聞かされたこと
○	○	
(記入例) 例1:「クールビズ」の意味を知っている場合 →		
クールビズ	例2:「クールビズ」という言葉を聞いたことがある場合 →	○
①男女共同参画		
②津市男女共同参画推進条例(平成19年3月制定)		
③固定的性別役割分担		
④男女雇用機会均等法		
⑤ドメスティック・バイオレンス(DV)防止法		
⑥セクシュアル・ハラスメント		
⑦家族経営協定		
⑧ポジティブ・アクション(積極的改善措置)		

【問2】 あなたは次の各分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

①家庭生活では	②職場では	③学校生活では	④地域社会では	⑤社会通念・慣習・しきたりなどでは
男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている
どちらかといえば男性	どちらかといえば男性	どちらかといえば男性	どちらかといえば男性	どちらかといえば男性
平等になっている	平等になっている	平等になっている	平等になっている	平等になっている
どちらかといえば女性	どちらかといえば女性	どちらかといえば女性	どちらかといえば女性	どちらかといえば女性
女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考えがありますが、あなたはどのように思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、その理由も記入してください。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

理由は次ページに →

(理由)

【問4】 「男性があまり進出していない分野に男性の進出を、また女性があまり進出していない分野に女性の進出をはかり、男女の実質的な活動の機会を均等に提供するべきである」という考えがありますか、あなたはどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで、その理由も記入してください。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

(理由)

2. 普段の生活について、おたずねします

【問5】 次の事柄について、あなたのご家庭では主にどなたがしていますか。(○はそれぞれ1つ)

※ ひとり暮らしの方は、お答えいただく必要はありません。	ほとんど男性がする	男性が中心だが女性もする	男性も女性も同程度	女性が中心だが男性もする	ほとんど女性がする	家族と協力してする	家族以外の人がする	現在は必要ないが将来的に必要がある
①洗濯、掃除								
②食事の支度・片付け								
③自治会・町内会などの地域活動								
④育児、子どものしつけ								
⑤子どもの教育方針や進路の決定								
⑥PTAなど学校行事への参加								
⑦家族の介護(要介護者や病人の世話)								
⑧家計を支える(生活費を得る)								
⑨日常の家計の管理								
⑩高額な物の購入の決定								

3. 岩働について、おたずねします

【問6】女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1. 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
2. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
3. 子どもができたらかつて、大きくならなければ職業を持つ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. わからない

【問7】あなたは現在、仕事(収入のある)をしていますか。(産休・育児休業・介護休業中の方は「1. 仕事をしている」になります。)(○は1つ)

1. 仕事をしている
2. 以前はしていたが、今はしていない
3. していない

【問8】※【問7】で「2. 以前はしていたが、今はしていない」とお答えの方におたずねします。あなたが仕事をやめた主な理由は、何ですか。(○は3つまで)

1. 結婚したら専業主婦にならなかったから
2. 結婚のため、やめざるを得なかったから
3. 出産・育児に専念したから
4. 出産・育児のため、やめざるを得なかったから
5. 家族の介護に専念したから
6. 家族の介護のため、やめざるを得なかったから
7. 自分や配偶者の転勤で、転居しなくてはならなかったから
8. 人員整理、契約期間が満了したから
9. 仕事にやりがいがないから
10. 残業や休日出勤が多く、労働時間が長かったから
11. 職場の人間関係上の理由
12. 定年、高齢だから
13. その他(具体的に)

【問9】女性が仕事を続けられるために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 職場における女性への差別的待遇をなくすこと
2. 女性への職業訓練、資格取得などの機会の充実
3. 家族の理解や協力
4. 保育・介護・福祉に関するサービスの充実
5. 在宅勤務やフレックスタイム制度の導入など、柔軟な勤務形態
6. 育児・介護休業制度の整備
7. 給与や労働条件の改善
8. 社会の「男は仕事、女は家庭」いう考え方をなくすこと
9. その他(具体的に)
10. 特に必要なことはない

【問10】※農林漁業・商工業・サービス業の自営、家族従業者の方におたずねします。次のことはあなたの働いている現状にあてはまりますか。(○はそれぞれ1つ)

	はい	いいえ
① 仕事の進め方に自分の考えが言える		
② 1日の仕事の時間が決まっている		
③ 自分の労働に対する報酬を受け取っている		
④ 仕事をしない日を定期的に決めている		
⑤ 家事と仕事の区別がつかない		
⑥ 仕事上の悩みを相談する場がない		

4. 子育て・教育について、おたずねします

【問11】安心して子どもを産み育てることができる社会の実現のために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 子どもの遊び場の確保
2. 保育サービスの充実や、学童保育など地域での子育て支援の充実
3. 子育て相談や育児に関する講座の充実
4. ひとり親家庭への支援
5. 児童手当の支給や教育費の負担軽減など、経済的な支援制度の充実
6. 育児・介護休業制度の整備
7. 男女とも仕事と家庭を両立できる労働環境づくり
8. ホームヘルパー制度など介護・福祉サービスの充実
9. 命の大切さや子どもと係わる楽しさを知ってもらう講演やセミナーの開催
10. 正規社員への転換など、生活基盤の安定
11. その他(具体的に)
12. 特に必要なことはない

【問12】教育現場において男女共同参画についての教育を進める場合、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 多様な生き方があることを学ぶこと
2. 自立心や社会性を学ぶこと
3. 男女とも家事・育児・介護について学ぶこと
4. 心と体の大切さを学ぶこと
5. 男女が、お互いに協力しあうことの大切さを学ぶこと
6. 性別でなく能力や個性による、進路指導や生活指導
7. その他(具体的に)
8. わからない

5. 介護について、おたずねします

【問13】 身内に、日常的に介護を必要とするとする方がいらっしゃいますか。

1. いる
2. いない

【問14】 ※【問13】で「1. いる」とお答えの方におたずねします。

その方の世話は、主にどなたがしていますか。次の中から、選んでください。(○は1つ)
介護が必要な方から見た経路でお答え下さい。

1. 配偶者
2. 父
3. 母
4. 息子
5. 息子の妻
6. 娘
7. 娘の夫
8. 兄弟
9. 姉妹
10. 老人ホームなどの施設
11. ホームヘルパーなど
12. その他(具体的に)

【問15】 現在、介護は主として女性が担っているといわれています。このことについて、あなたは
どうお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1. 主に女性が介護するべきである
2. 男性も女性も共に介護するべきである
3. 男女にかかわらず、主に子どもが介護すべきである
4. 原則として社会が行うべきである
5. その他(具体的に)
6. わからない

6. 地域活動・家庭生活への参画について、おたずねします

【問16】 現在、あなたは次のような活動をしていますか。(○はいくつでも)

1. 自治会、老人会、婦人会、子ども会などの地域における団体活動
2. PTAや保護者会などの学校に関する活動
3. 趣味やスポーツに関する活動
4. 消費生活や環境問題などに関する市民団体の活動
5. ボランティアなどの社会貢献活動
6. 自治体の審議会などの政策審議・検討に関する活動
7. 教養講座などの学習講座に参加
8. その他(具体的に)
9. 特に活動していない

【問17】 ※【問16】で「9. 特に活動していない」とお答えの方におたずねします。
活動していない一番の理由は何ですか。(○は1つ)

1. 仕事が忙しいから
2. 家事・育児・介護などが忙しいから
3. 家族の理解・協力が得られないから
4. 経済的な余裕がないから
5. 一緒に活動する仲間がないから
6. 人間関係がわずらわしいから
7. やりたいと思う活動が身近にないから
8. 活動についての情報が得られないから
9. その他(具体的に)
10. 特に理由はない
11. 活動したいと思わないから

【問18】 「男性はもともと地域活動や家庭活動(家事や子育て、介護など)に参加する必要がある」という考え方がありますが、あなたはどのようになりますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. どちらともいえない
4. わからない

【問19】 ※【問18】で「1. そう思う」とお答えの方におたずねします。

男性の地域活動や家庭活動(家事や子育て、介護など)への参画を進めるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすること
2. 男性が地域活動や家庭活動に参加することに対する、社会の抵抗感をなくすること
3. 労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し
4. 男性が育児・介護休業を取ることを、職場で奨励する
5. 男性のための、家事・育児・介護に関する講座や教室の開催
6. 男女の役割を決めつけるような子どもの育て方をしない
7. 男性どうしの地域でのネットワーキングづくり
8. その他(具体的に)

7. 政策・方針決定の場への参画について、おたずねします

【問20】 自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどのようになりますか。(○は1つ)

1. 引き受ける、または、引き受けることをすすめる
2. 断る、または、断ることをすすめる

【問21】 ※【問20】で「2. 断る、または、断ることをすすめる」とお答えの方におたずねします。その理由に最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 男性が多数を占める組織に入ることには抵抗を感じるから
2. 活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから
3. 活動外の付き合いがわずらわしいから
4. 女性が役職につくことを、家族や近所の人が快く思わないから
5. 女性が役職につくことを、あなたが快く思わないから
6. 女性は経験が少ないから
7. 家族の支援、協力が得られないから
8. 家事、育児、介護に支障が出るから
9. その他 (具体的に))

8. ドメスティック・バイオレンスについて、おたずねします

【問22】 あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい関係にある人から、次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
①ものを投げつけたり、叩いたりする			
②何を言っても無視する			
③大切にしているものを、わざと壊したり、捨てたりする			
④殴るふりをして、おどす			
⑤包丁などでおどす			
⑥避妊に協力しない			
⑦意に反して性的な行為を強要する			
⑧見たくないのにアダルトビデオやアダルト雑誌を見せる			
⑨外出を制限する			
⑩交友関係や電話を強かく監視する			
⑪「誰のおかげで食べていけるのか」という			
⑫その他 (具体的に))			

【問23】 ※【問22】で、1つでも「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におたずねします。ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、あなたは誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1. 友人、知人に相談した
2. 家族に相談した
3. 職場の同僚や上司に相談した
4. 警察、弁護士、家庭裁判所に相談した
5. 医師に相談した
6. 人権擁護委員に相談した
7. 公的な相談機関に相談した
8. 民間の相談機関に相談した
9. その他に相談した (具体的に))
10. どこにも誰にも相談しなかった

【問24】 ※【問23】で「10. どこにも誰にも相談しなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
6. 相談したことがわかると、よけい不当な扱いをされると思ったから
7. そのことについて思い出したくなかったから
8. 世間体が悪いから
9. どこに (誰に) 相談したらよいか、わからなかったから
10. 相談担当者の言動により、不快な思いをと思ったから
11. 愛情の表現だと思ったから
12. その他 (具体的に))

9. セクシュアル・ハラスメントについて、おたずねします

【問25】 あなたはこれまでに、次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
①宴会などでお酌やデュエットを強要された			
②容姿をたびたび話題にされた			
③職場 (仕事の延長上の飲み会や接待等含む) で異性に体を触られた			
④聞きたくないのに露骨な性的な話を聞かされた			
⑤地位を利用した性的な誘いを受けた			
⑥「結婚はまだ?」「子供はまだ?」「子どもはまだ?」などとプライベートを詮索された			
⑦上司の誘いを断ったため、職場にいづらくなった			
⑧その他 (具体的に))			

【問25】 ※ 【問25】で、1つでも「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あなたは誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

1. 友人、知人に相談した
2. 家族に相談した
3. 職場の同僚や上司に相談した
4. 警察、弁護士、家庭裁判所に相談した
5. 医師に相談した
6. 人権擁護委員に相談した
7. 公的な相談機関に相談した
8. 民間の相談機関に相談した
9. その他に相談した (具体的に)
10. どこにも誰にも相談しなかった

【問27】 ※ 【問26】で「10. どこにも誰にも相談しなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 自分にも悪いところがあると思ったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
5. 相談したことがわかると、よけい不当な扱いをされると思ったから
6. どこに(誰に)相談したらよいか、わからなかったから
7. 相談担当者の言動により、不信な思いをすと思ったから
8. その他 (具体的に)

10. あなたの心配なことや生きがいについて、おたずねします

【問28】 あなたにとって、特に心配なことは何ですか。(〇は3つまで)

1. 自分の健康のこと
2. 家族の健康のこと
3. 将来、老後のこと
4. 教育、しつけ、子育てなど、子どものこと
5. 家族間の人間関係
6. 生活費など自分の家庭の経済的な問題
7. 友人や親戚、近所の人との人間関係
8. 仕事上の問題
9. 職場の人間関係
10. 自分の生き方について
11. 政治など社会的な問題について
12. その他 (具体的に)
13. 特に心配なことはない

【問29】 あなたは、その心配なことについて誰かに相談しましたか。(〇は1つ)

1. はい
2. いいえ

【問30】 ※ 【問29】で「2. いいえ」とお答えの方におたずねします。相談していない主な理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 他の人に弱みを見せるのがいやだから
2. 相談する人がいないから
3. 家族などに心配をかけられないから
4. どこに相談すればいいかわからないから
5. 仕事が多忙だから
6. 家事・育児・介護などで忙しいから
7. その他 (具体的に)
8. 相談するほどのことではないから

【問31】 あなたの生きがい(楽しみ)は何ですか。(〇は2つまで)

1. スポーツや趣味
2. 家族と過ごすこと
3. 友人、知人と過ごすこと
4. ボランティアなど社会的な活動
5. 子どもや孫のこと
6. 仕事
7. その他 (具体的に)
8. 特にない

11. 行政の取り組みについて、おたずねします

【問32】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政はどのようなことに取り組んでいけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 保育や介護に関する施設やサービスを充実する
2. 施策や制度の面で見直しを行う
3. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
4. 各種団体の女性のリーダーを養成する
5. 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
6. 女性の就労機会の提供、職業教育や能力開発の機会や場を充実する
7. 学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する
8. 女性の生き方に関する情報提供や相談、教育、交流の機会などを充実する
9. 広報紙やパンフレットなどでの男女共同参画や男女の相互理解・協力についてのPR
10. その他 (具体的に)
11. 特にない
12. わからない

【問33】 津市では、市民の方から募集した実行委員と協働で、毎年「男女共同参画フォーラム」を開催していますが、ご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 知らない

【問34】 ※【問33】で「1. 知っている」とお答えの方におたずねします。
津市の「男女共同参画フォーラム」に参加されたことはありませんか。(○は1つ)

1. ある
2. ない

【問35】 男女共同参画について、今後どのような権しがあれば参加したいと思いませんか。
自由にご記入ください。

【問36】 男女共同参画や、男女共同参画社会の実現に向けての市の施策について、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

12. あなたご自身について、おたずねします

【F1】 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性
2. 男性

【F2】 あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 20～29歳
2. 30～39歳
3. 40～49歳
4. 50～59歳
5. 60～69歳
6. 70歳以上

裏面もごさいませう →

【F3】 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚している(事実婚を含む)
2. 結婚したが、離別した
3. 結婚したが、死別した
4. 結婚したいと思うが、していない
5. 結婚したいと思わないから、していない

【F4】 あなたが現在同居しているご家族の構成は、次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 単身世帯(ひとり暮らし)
2. 1世代世帯(夫婦だけなど)
3. 2世代世帯(親と子など)
4. 3世代世帯(親と子と孫など)
5. その他(具体的に)

【F5】 あなたは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1. 農業・林業・漁業の、自営業主・家族従業員
2. 商工業・サービス業・その他の、自営業主・家族従業員
3. 会社役員・経営者
4. 正規従業員(正社員・正職員)
5. 非正規従業員(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員など)
6. 内職
7. 専業主婦・主夫
8. 学生
9. その他(具体的に)
10. 無職

【F6】 あなたが今住んでいるところの、合併前の市町村名を選んでください。(○は1つ)

1. 津市
2. 久居市
3. 河芸町
4. 芸濃町
5. 美里村
6. 安濃町
7. 香良洲町
8. 一志町
9. 白山町
10. 美杉村

最後までご回答いただき、誠にありがとうございました。

ご記入もれがないか、ご確認の上、同封の返信用封筒で**7月20日(金)までに**ご投函くださいますようお願いいたします。
なお、この調査および結果については、個人情報に十分配慮し、皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

男女共同参画に関する市民意識調査
《報告書》

発行 平成19年9月

津市市民部男女共同参画室

〒 514-8611

三重県津市西丸之内23番1号

TEL 059-229-3103